

令和7年度 第4回府中市福祉のまちづくり推進審議会 次第

日時：令和7年2月20日（金）午前10時

場所：府中市役所おもや4階 第1特別会議室

1 議題

- (1) 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査（一般市民調査）及び11圏域別グループディスカッションの集計結果について
- (2) 次期地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の課題と方向について
- (3) その他

【事前送付資料】

- (1) 資料1 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のための調査速報
- (2) 資料2 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査（設問別回答率）
- (3) 資料3 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査 クロス集計結果
- (4) 資料4 11圏域別グループディスカッションの結果
- (5) 資料5 地域福祉、高齢・介護、障害分野計画策定のために実施する調査 結果まとめ
- (6) 資料6 府中市の福祉に関する現状
- (7) 資料7 次期地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の課題と方向について

【当日配布資料】

- (1) 次第
- (2) 席次表
- (3) 第3回府中市福祉のまちづくり推進審議会議事録
- (4) 府中市地域福祉計画策定連携会議委員について

令和7年度 地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画 策定のための調査速報

1 調査目的

地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の策定に当たって、市民の近所づきあいや地域での生活・活動状況、日ごろの悩みと相談状況を把握するとともに、府中市の地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見、要望等を把握するために実施した。

また、高齢・障害者福祉分野と共通質問を設定し、その結果は7ページ以降に掲載している。

2 調査対象及び調査方法

調査名	対象者	調査方法	調査時期
「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査	令和7年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民 3,000人	郵送による配布及び回収、WEB回答併用 (督促礼状1回送付)	令和7年 10月17日(金) ～11月4日(火)

3 調査結果(まとめ)

発送・対象者数	回収数(回収率)		有効回答数 (有効回収率)
		うちWEB回答数	
3,000	1,509 (50.3%)	697 (46.2%)	1,501 (50.0%)

4 調査項目

調査項目	問番号	設問	高齢・障害者福祉分野との共通設問
A 基本属性	F1	性別	
	F2	年齢	
	F3	職業	
	F3-1	従業地	
	F4	世帯人数	
	F4-1	同居している人	
	F5	世帯の特徴	
	F6	居住地	
	F7	居住歴	
	F8	住居形態	
	F9	自治会・町会等の有無	
	F9-1	自治会・町会等への加入状況	
	F9-2	自治会・町会等に参加していない理由	
B 地域と近所づきあい	問1	居住地域の満足度	
	問2	近所づきあいの現状	○
	問2-1	近所づきあいのない理由	

調査項目	問番号	設問	高齢・障害者福祉分野との共通設問
C 地域活動・ボランティア活動	問3	地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）	
	問3-1	地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動頻度）	
	問3-2	地域活動・ボランティア活動をしていない理由	
	問4	地域活動・ボランティア活動の取組意向（活動内容）	
	問5	ボランティア活動等に参加しやすい条件	
	問6	身近な活動拠点の利用状況	
	問6-1	活動拠点である民間の施設の具体的な名称	
	問7	困っている人への手助けの経験	
	問8	地域における支え合いをより充実するために必要なこと	
D 日ごろの生活と悩み	問9	主観的幸福度	○
	問10	どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか	○
	問10-1	悩みの内容	
	問11	社会からの孤立を感じる程度	
	問12	主観的健康観	○
	問13	将来の備えへの不安	
	問14	亡くなった後のことでの不安	
E 相談と情報	問15	暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手	○
	問16	地域における課題を抱えた世帯の把握状況	
	問17	福祉に係る用語の認知度	
	問18	相談窓口の認知度	
	問19	地域包括支援センターの役割や機能の認知度	
	問20	権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度	
	問21	市の福祉に関する情報の入手先の現状	
	問22	市の福祉に関する情報の入手先の希望	
問23	利用している SNS		
F 福祉のまちづくり	問24	福祉のまちづくり（建築物、インフラ、情報案内）の状況	
	問25	福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと	
G 災害時の支え合い	問26	災害時の不安や心配ごと	
	問27	普段から災害時に備えていること	
	問28	災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの	
	問29	災害時に手助けが必要な方にできること	
H 福祉に対する考え方	問30	福祉に関する考え方	
	問31	認知症について知っていること	
	問32	認知症になった場合の暮らしへの意向	
I 府中市の福祉施策	問33	今後の府中市への居住継続意向	○
	問34	優先的に取り組むべき福祉施策	
	問35	地域福祉及び福祉のまちづくりに対する意見・要望（自由記述）	

5 調査結果の速報

今回の分析ねらい

- ・過去調査と比較し、市民の近所づきあいや地域での生活・活動状況、日ごろの悩みと相談状況、府中市の地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見、要望等の変化を把握する。
- ・新たな課題への対応を検討する。①複雑化・複合化した困りごとを抱える人・世帯の把握、②孤独・孤立対策、③将来への不安（身寄りのない方が抱える課題）の把握、④新たな時代の情報提供と、市民との情報共有のあり方の検討、⑤認知症施策推進計画策定に向けての市民の意識把握等。

【主な調査結果の抜粋（全体結果）】 ※前回調査は令和元年度

【基本属性】

- ・性別は男性が44.5%、女性が53.7%。(F1)
- ・年齢は18～39歳が20.3%、40～59歳が36.9%、60歳以上が42.5%。(F2)
- ・働いている人は合計すると64.7%、それ以外は、「学生」が2.5%、「家事専業」が12.7%、「無職」が17.9%。働いている人と学生のうち、通勤・通学先が府中市内なのは28.4%。(F3、3-1)
- ・ひとり暮らしは17.6%。同居者がいる人について、「65歳以上の方」が28.5%、「身体・知的・精神等の障害のある方及び難病などにより、心や身体のはたらきに障害のある方」が9.1%、「介護・介助を必要とする方」が4.9%。(F4、F5)
- ・住居形態は、持ち家に住んでいる人が70.1%（「一戸建て」45.3%、「集合住宅」24.8%）。(F8)
- ・住んでいる地域に自治会・町会等が「ある」のは72.4%（前回77.0%）。ある人のうち「加入している」が68.8%（前回74.4%）、「加入していない」が24.3%（前回20.3%）。加入していない主な理由は、前回調査同様「加入するきっかけがないから（32.6%）」が最も多い。(F9、9-1、9-2)

【地域と近所づきあい】

- ・居住地域の満足度について、《満足》（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の計）の割合が高いのは、「(8)買い物などの便利さ(72.0%)」、「(9)道路や交通機関等の使いやすさ(68.4%)」。一方で、《不満》（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の計）の割合が高いのも「(8)買い物などの便利さ(15.4%)」、「(9)道路や交通機関等の使いやすさ(15.6%)」。(問1)
- ・近所づきあいの現状は、「個人的なことを相談し合える人がいる（今回7.1%、前回9.3%）」と「さしさわりのないことなら、話せる人がいる（今回25.4%、前回33.5%）」はいずれも前回より割合が低くなっている。近所づきあいを（ほぼ）しない主な理由は、前回調査同様「普段つきあう機会がないから（68.7%）」が最も多い。(問2、2-1)

【地域活動・ボランティア活動】

- ・何らかの地域活動・ボランティア活動に取り組んでいる割合は17.0%、前回調査では22.0%であり、5.0ポイント低くなっている。取り組んでいない理由は、前回調査同様「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから（43.3%）」が最も多く、「きっかけがないから（31.9%）」が続いている。(問3、3-2)
- ・今後、何らかの地域活動・ボランティア活動取り組んでみたいと思っているのは55.6%。ボランティア活動等に参加しやすい条件は、「気軽に参加できる（36.2%）」が最も多くなっている。(問4、5)

- ・ 家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人への手助けの経験がある人は70.5%。(問7)

〔日ごろの生活と悩み〕

- ・ 社会からの孤立を感じる程度は、「たまにある(25.5%)」、「時々ある(8.0%)」「しばしばある・常にある(4.9%)」を合計すると38.4%が感じている。なお、内閣府の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(令和6年実施)」では、39.3%（「たまにある(19.6%)」、「時々ある(15.4%)」、「しばしばある・常にある(4.3%)」)。(問11) ※新規設問
- ・ 将来の備えへの不安は、「預貯金や生活費の管理のこと(42.4%)」が最も多く、「判断能力が低下したときの生活のこと(40.9%)」、「急な入院や施設への入所のこと(36.6%)」が続いている。(問13) ※新規設問
- ・ 亡くなった後のことでの不安は、「遺された家族のこと(45.2%)」が最も多く、「遺品整理に関すること(24.5%)」が続いている。(問14) ※新規設問

〔相談と情報〕

- ・ 暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手は、「家族や親族(80.1%)」が最も多く、「友人、知人(45.0%)」、「行政の相談窓口(27.8%)」が続いている。(問15)
- ・ 地域における課題を抱えた世帯の把握状況は、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(4.0%)」が最も多く、「ごみが処分されていない世帯(3.1%)」、「高齢者の親と、就労していない独身の中高年の子どもで構成されている世帯(2.8%)」が続いている。(問16)
- ・ 福祉に係る用語の認知度は、「内容まで知っている」割合は、継続的に尋ねている『発達障害・学習障害(今回58.8%、前回52.0%)』、『ヘルプマーク(今回53.0%、前回31.3%)』、『若年性認知症(今回52.6%、前回47.0%)』、『障害者差別解消法(今回13.0%、前回10.6%)』、『成年後見制度(今回35.0%、前回33.3%)』、すべての項目で前回より高くなっている。(問17)
- ・ 相談窓口の認知度は「市役所の相談窓口(40.0%)」が最も高く、「保健センター(32.0%)」、「地域包括支援センター(24.9%)」が続いている。なお、「福祉総合相談」は10.9%である。また、「権利擁護センターふちゅう」は1.3%(前回2.3%)、「地域福祉コーディネーター」は3.5%(前回1.9%)にとどまっている。(問18)
- ・ 市の福祉に関する情報の入手先は、現状では「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物(51.9%)」が最も多く、「家族や知人から(28.4%)」、「市のホームページ等のインターネットサイト(17.8%)」が続いている。希望では、現状同様に「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物(53.8%)」が最も多い。次いで「市のホームページ等のインターネットサイト(36.8%)」、「行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)(27.2%)」となっている。(問21、22)
- ・ 利用しているSNSは「LINE(ライン)(77.7%)」が最も多く、「Instagram(インスタグラム)(35.1%)」、「X(エックス)(31.8%)」が続いている。(問23) ※新規設問

〔福祉のまちづくり〕

- ・ 福祉のまちづくり(建築物、インフラ、情報案内)の状況について、『公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン』は「整備されている(3.5%)」と「やや整備されている(28.9%)」を合計すると32.4%であり、前回調査(33.7%)と同程度となっている。(問24)

- ・福祉のまちづくりのために優先的に取り組むことは、「高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備（55.0%）」が最も多く、「交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備(47.1%)」、「公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進(32.2%)」が続いている。上位3位は前回調査と同様である。(問 25)

〔災害時の支え合い〕

- ・災害時の不安や心配ごとは、「家族の所在、安否確認について（53.9%）」が最も多く、「食糧や日用品などの生活物資の入手（43.8%）」、「正確な情報の入手（41.6%）」が続いている。上位3位は前回調査と同様である。(問 26)
- ・災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものは、「物資の備蓄（62.4%）」が最も多く、「地域住民同士の声かけや安否確認（46.6%）」、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと（33.1%）」が続いている。(問 28)
- ・災害時に手助けが必要な方にできること、「避難所での支援活動（56.5%）」が最も多い。74.6%の人が何らかの支援ができると回答している。(問 29)

〔福祉に対する考え方〕

- ・福祉に関する考え方について、《そう思う》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は、8項目の中で『障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である(82.4%)』で高く、『ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である(46.1%)』や『生活保護受給者に対する偏見や差別がある（38.5%）』で低くなっている。(問 30)

〔府中市の福祉施策〕

- ・今後の府中市への居住継続意向は、「ずっと住み続けたい（59.8%）」と「しばらくは住み続けたい（35.1%）」を合計すると、94.9%に居住継続意向がある。(問 33) ※新規設問
- ・優先的に取り組むべき福祉施策は、「相談支援体制や情報提供体制の充実（45.0%）」が最も多く、「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進(41.2%)」、「健康づくり・介護予防の推進(33.6%)」が続いている。なお、今回調査の1位は前回調査では2位であり、今回調査の2位は前回調査では1位であった。(問 34)

〔主なご意見〕（問 35）

- ・市民それぞれの状態、時期により必要とする支援は刻々変化する。ニーズに合った支援にたどり着くまでのハードルは高い。ワンストップ窓口へ、誰でも相談できるようなシステムができると良い。
- ・退職後の人は「何かやりたい」と思っている人がいます。健診（65歳など）で、誘いの時間を作るのも良いかもしれません。「募集」というものを多く提示することで参加する興味も沸くのではないのでしょうか。もっともっと活動できるものを宣伝してみて下さい。チャンス、きっかけがあればボランティア等、参加してみたいです。府中生まれ府中育ち、府中で年を過ごし子育てし、府中大好きです。
- ・道路が狭すぎるのは府中市の抱える最も大きく解決が難しい課題である。人見街道、甲州街道、旧甲州街道ともに運転が恐ろしく、不便である。

〔地域福祉計画〕

- 親しく近所づきあいをする割合は前回調査から低くなっており、近所づきあいを（ほぼ）しない主な理由は、前回調査同様「普段つきあう機会がないから」が最も多くなっている。また、何らかの地域活動・ボランティア活動に取り組んでいる割合は17.0%、前回調査では22.0%であり、5.0ポイント低くなっており、より地域のつながりが希薄化している可能性がある。しかし、市への居住継続意向は9割を超え、半数以上の人地域活動・ボランティア活動へ取組意向があることから、きっかけづくり、つながりづくりの充実が望まれる。
- どこに相談したらよいか分からない悩みがある人は14.6%である。相談窓口の認知度は、「市役所の相談窓口」など、高いところは40.0%だが、「福祉総合相談」は10.9%、「地域福祉コーディネーター」は3.5%、「権利擁護センターふちゅう」は1.3%などと低くなっている。情報提供については、現状・希望ともに広報ふちゅう等の紙媒体への希望が多いものの、市のホームページ等のインターネットサイトは現状（17.8%）の割合を希望（36.8%）が上回っている。また、利用しているSNSは「LINE（ライン）」が77.7%と4分3の市民が利用している。優先的に取り組むべき福祉施策では、「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多くなっていることも踏まえ、相談窓口の更なる周知、情報提供、特にインターネット（SNS含む）の更なる活用が望まれる。
- 老々介護、ごみ屋敷、いわゆる8050問題など、複合化・複雑化した困りごとを抱える人・世帯が一定程度いることがわかった。また、38.4%が社会から孤立を感じている。相談支援の充実とともに、地域における見守りの充実、交流の場や居場所の確保等を行い、つながりづくりを促進することが求められる。
- 将来の備えへの不安、亡くなった後のことでの不安を抱えている人は多い。特に身寄りのない方については新たな支援策を検討するとともに、権利擁護支援の充実が求められる。また、「権利擁護センターふちゅう」は認知度が低く、役割・機能も85.8%の人が知らないため、更なる周知が必要である。
- 災害時の不安や心配ごとを抱えている人は多い。また、地域の防災対策に満足しているのは31.6%にとどまっており、災害に備えて地域で取り組むとよいと思うことは、「物資の備蓄」、「地域住民同士の声かけや安否確認」、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」が多くなっている。74.6%の人が災害時に手助けが必要な方に何らかの支援ができると回答していることから、地域の多くの人を巻き込みながら防災対策（避難行動要支援者の支援）を検討することが望まれる。

〔福祉のまちづくり推進計画〕

- まち全体のユニバーサルデザインについて整備されていると感じる割合は、前回調査と同程度となっている。福祉のまちづくりのために優先的に取り組むことも、上位3位は前回調査と同様であり、道路整備、安全、安心に暮らすための体制整備、公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン高くなっている。取り組みの更なる推進が重要である。

6 共通質問の結果の速報

〔近所づきあいの現状〕

- ・ 「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」の割合は、【障害】障害のある人の調査で16.5%と他の調査に比べ高くなっている。

(%)

	個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
【地福】一般市民調査 (N=1,501)	7.1	25.4	42.7	12.0	11.2	1.6
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (N=2,812)	9.7	36.0	37.7	5.7	4.8	6.2
【高齢】居宅サービス利用者調査 (N=1,191)	11.8	28.5	34.5	9.6	10.2	5.5
【障害】障害のある人の調査 (N=1,413)	6.6	19.4	36.8	12.5	16.5	8.2
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査 (N=585)	15.7	27.0	38.6	8.4	7.2	3.1

〔主観的幸福度〕

- ・ 主観的幸福度の平均点は、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査が 7.2 点で最も高くなっている。
- ・ なお、4 点以下の割合は、【地福】一般市民調査で 11.1%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 6.0%、【高齢】居宅サービス利用者調査で 9.7%、【障害】障害のある人の調査で 18.8%、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で 16.1%となっており、【障害】障害のある人の調査で最も高い。

(%)

	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	無 回 答	平均 点
【地福】一般市民調査 (N=1,501)	1.7	0.7	0.8	4.3	3.6	15.7	9.7	17.1	24.0	9.1	12.1	1.2	6.9 点
【高齢】介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査 (N=2,812)	0.2	0.3	0.6	2.2	2.7	16.4	8.8	16.4	22.8	11.9	12.1	5.6	7.2 点
【高齢】居宅サービス利用者 調査 (N=1,191)	0.2	0.7	1.8	3.6	3.4	19.3	9.6	15.2	19.6	7.4	13.4	6.0	6.9 点
【障害】障害のある人の調査 (N=1,413)	1.3	1.8	2.7	6.1	6.9	19.5	10.3	15.4	15.8	5.7	8.0	6.5	6.2 点
【障害】子どもの育ちや発達 に関する調査 (N=585)	1.0	0.2	3.1	6.2	5.6	15.2	10.1	17.4	20.7	7.7	10.3	2.6	6.6 点

〔どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか〕

◆悩みの有無

- ・ どこに相談したらよいか分からない悩みがある割合は、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で 42.4%、【障害】障害のある人の調査で 30.1%と高くなっている。

(%)

	はい (いる)	いいえ (いない)	無 回 答
【地福】一般市民調査 (N=1,501)	14.6	83.3	2.1
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (N=2,812)	16.1	79.2	4.6
【高齢】居宅サービス利用者調査 (N=1,191)	22.8	65.7	11.5
【障害】障害のある人の調査 (N=1,413)	30.1	59.0	11.0
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査 (N=585)	42.4	55.9	1.7

◆悩みの内容

- どこに相談したらよいか分からない悩みがある人に、悩みの内容を聞いたところ、【地福】一般市民調査では「お金（財産管理・相続含む）（37.0%）」、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、【高齢】居宅サービス利用者調査では「自分の健康・病気（52.9%・62.9%）」、【障害】障害のある人の調査では「自分・配偶者の健康・病気（54.4%）」、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査では「子どもの将来の生活のこと（76.2%）」が最も多くなっている。

(%)

	自分の健康・病気	家族の健康・病気	自分の学業・仕事	家族の学業・仕事	自分の障害に関すること	家族の障害に関すること	家族の介護・介助	住まい	お金（財産管理・相続含む）	人間関係、人との付き合い方	地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	差別や偏見、人権侵害に関すること	その他	無回答
【地福】一般市民調査 (n=219)	21.9	16.0	9.1	5.5	6.8	13.7	19.2	17.4	37.0	19.2	9.1	17.4	4.1	8.7	8.2
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 n=454)	52.9	30.2	1.3	4.4	9.3	8.4	14.1	22.0	22.9	9.0	4.0	14.8	1.8	5.5	1.8
【高齢】居宅サービス利用者調査 (n=272)	62.9	31.3	1.8	2.9	17.6	9.2	19.9	21.0	28.7	7.7	4.4	12.9	1.8	4.4	1.1

	自分・配偶者の健康・病気	自分・配偶者の学業・仕事	親の健康・病気・介護、親亡き後	兄弟姉妹の健康・病気・介護	子ども・孫の学業・仕事	子ども・孫の健康・病気	住まい	お金（財産管理・相続含む）	人間関係、人との付き合い方	その他	無回答
【障害】障害のある人の調査 (n=425)	54.4	20.0	38.8	12.0	9.6	9.4	26.8	49.6	31.8	8.9	0.5

	子どもの将来の生活のこと	子どもの成長や発達のこと	学校や教育のこと	緊急時や災害時の対応	差別や偏見	健康や医療のこと	福祉サービスの利用	近所づきあい	家計のこと	養育者の健康	養育者が高齢になった時のこと	その他	特になし	無回答
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査 (n=248)	76.2	40.7	39.5	27.0	19.8	22.2	34.7	9.7	27.4	21.4	58.9	6.5	0.0	0.8

〔主観的健康観〕

- ・ 《よい》（「とてもよい」と「まあよい」の計）の割合は、【地福】一般市民調査で 79.9%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 70.9%、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で 81.7%となっている。

(%)

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
【地福】一般市民調査 (N=1,501)	14.7	65.2	16.1	2.9	1.1
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (N=2,812)	7.8	63.1	22.4	4.7	2.0
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査 (N=585)	19.8	61.9	13.2	3.6	1.5

〔困りごとの相談相手〕

- ・ 困りごとの相談相手がいない割合は、【地福】一般市民調査で 4.3%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 3.2%、【障害】障害のある人の調査で 11.7%、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で 13.7%となっており、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で最も高い。

暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手（複数回答）

	家族や親族	友人・知人	行政の相談窓口	地域包括支援センター	医療関係者 かかりつけ医や保健師等	ケアマネジャーや福祉施設の関係者	福祉総合相談	先生 先生所 幼稚園、学校の先生	近隣の人、自治会・町会等の関係者	同じ悩みや問題を抱える人	地域生活支援センター	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	保健センター	子育て世代包括支援センター「みらい」	地域福祉コーディネーター	子ども家庭支援センター「たつち」 「しらとり」	子ども発達支援センター「はたき」	子ども発達支援センター「はたき」	市民活動センター「プラッツ」	ボランティア団体・NPO法人	権利擁護センター「ふちゅ	地域子育て支援センター「はぐ」	男女共同参画センター「フューチャー」	その他	相談できる人がいない	無回答
【地福】一般市民調査 (N=1,501)	80.1	45.0	27.8	11.1	10.9	6.6	5.4	3.5	3.4	3.1	2.1	2.0	1.8	1.5	1.5	1.1	0.9	0.8	0.7	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	2.1	4.3	1.5

	家族や親族	市の相談窓口	地域包括支援センター	友人・知人・近隣の人	薬剤師など	病院・診療所・歯科医・業関係者	ケアマネジャー（介護支援専門員）	社会福祉協議会	保健所・保健センター	ホームヘルパー（訪問介護員）	民生委員・児童委員	権利擁護センター「ふちゅ	その他	相談できる人がいない	無回答
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (N=2,812)	54.0	51.1	33.4	25.9	17.8	13.2	5.3	2.9	2.8	2.8	0.5	1.1	3.2	2.4	

悩みや困りごとを相談できる人の有無

(%)

	いる	いない	無回答
【障害】障害のある人の調査 (N=1,413)	82.2	11.7	6.1
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査 (N= 585)	84.3	13.7	2.1

〔今後の府中市への居住継続意向〕

- ・ どの調査でも住み続けたいと考えている割合が 90%を超えており高くなっている。
- ・ 【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と【高齢】居宅サービス利用者調査では「ずっと住み続けたい」の割合が 80%を超えており高くなっている。

(%)

	ずっと住み続けたい	しばらくは住み続けたい	できれば市外に移りたい	市外に移りたい	無回答
【地福】一般市民調査 (N=1, 501)	59.8	35.1	1.5	1.0	2.7
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (N=2, 812)	81.9	14.2	1.1	0.4	2.5
【高齢】居宅サービス利用者調査 (N=1, 191)	85.1	10.9	0.8	0.3	2.9
【障害】障害のある人の調査 (N=1, 413)	61.4	26.7	2.3	0.8	8.8

「あなたの声が未来をつくる」 福祉に関するアンケート調査

<調査についてのお願い>

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
市は、令和3年度を初年度とする「地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」において『みんなで作る、「共に生きるまち」』を理念とし、様々な地域福祉及び福祉のまちづくりに係る取組を進めています。

このたび、令和9年度から令和14年度までの計画を新たに策定するに当たり、市民の皆様地域の福祉及び福祉のまちづくりに対するご意見を伺い、新しい計画策定の参考とすることを目的として「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査を実施することとしました。

この調査は、令和7年10月1日現在、府中市にお住まいの18歳以上の市民の皆さまの中から3,000名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理するとともに、「個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に取り扱い、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和7年10月 府中市

※この調査はインターネット及び郵送のいずれかでご回答いただけます。
調査の流れにつきましては、次ページに記載がございますので、ご確認をお願いします。

回答に当たってのお願い

1. 封筒のあて名ご本人がご回答ください。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。何らかの理由でご本人が記入できない場合には、ご本人の意思を反映してご家族や周りの方が代わりに記入してください。また、回答が難しい場合には、下記の【問合せ先】にご連絡ください。
2. 回答は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。○の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。また、「3つまで○」など、○の数が指定されている設問は、あなたの考えに近いものや優先したいものを選んでご回答ください。
3. 「その他」に○印をつけた場合は、〔 〕内に内容を具体的に記入してください。
4. この調査は全体で40～50問であり、回答には約20分程度かかります。

11月4日（火）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

【問合せ先】

府中市福祉保健部地域福祉推進課

TEL 042-335-4161

FAX 042-335-7802

E-mail: tiikifuku01@city.fuchu.tokyo.jp

インターネット回答用 ID

00000



インターネット（パソコン・スマートフォン等）で答える

①調査票サイトにアクセスする

以下のURLか二次元コードを読み取り、調査票サイトにアクセスします。

URL : <https://jp.surveymonkey.com/r/VYGYCR3>



②ログイン・回答する

調査票サイトのはじめに、表紙（前ページ）の右下に記載がある「インターネット回答用 ID」を入力し回答を開始してください。

調査票の表紙右下に記載がある「インターネット回答用 ID」を入力してください。

ID

【インターネット回答に関するご注意】

1. 回答内容は自動で保存されるため、回答を途中で中断しても同じ端末でログインすると、続きから回答できます。
2. インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。
3. 「インターネット回答 ID」は無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。どなたがどのIDであるかは照合できません。



調査票に記入して郵送で答える

1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください。（切手は不要です。差出人名は無記名で結構です。）

F 4 世帯についておたずねします。世帯の人数はあなたを含めて何人ですか。(1つに○)

* 2世帯住宅は同居としてお答えください。

* 配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=1,501)

1. 1人	17.6%	→ F5へ進む	4. 4人	17.6%	} → F4-1へ進む
2. 2人	31.1%	} → F4-1へ進む	5. 5人	5.4%	
3. 3人	25.1%		6. 6人以上	1.7%	
			無回答	1.5%	

F 4-1 F 4で「2. 2人」～「6. 6人以上」と答えた方におたずねします。あなたと同居している方はどなたですか。(いくつでも○)

(n=1,214)

1. 配偶者(夫又は妻)	77.2%	4. 祖父、祖母	1.2%
2. 子	51.9%	5. その他〔具体的に： 〕	8.7%
3. 父、母	14.7%	無回答	2.6%

F 5 現在、あなた自身、もしくは同居している方の中に、次のような方はいますか。

(N=1,501)

(いくつでも○)

1. 乳児(1歳未満)	2.1%
2. 乳児を除く小学校入学前の幼児	7.9%
3. 小学生	10.7%
4. 中学生・高校生	10.7%
5. 65歳以上の方	28.5%
6. 身体・知的・精神等の障害のある方及び難病などにより、心や身体のはたらきに障害のある方	9.1%
7. 介護・介助を必要とする方	4.9%
8. いずれもない	40.8%
無回答	2.7%

F 6 あなたはどちらにお住まいですか。該当する福祉エリアに○をつけてください。

(N=1,501)

福祉エリア	町名	%
1. 中央	天神町(1・2丁目)、幸町、府中町、緑町、宮町、八幡町、日吉町、宮西町(1丁目)、寿町、晴見町(1・2丁目)	16.5%
2. 白糸台	白糸台(車返団地除く)、小柳町(1・3丁目)、若松町(1・2丁目)、清水が丘(3丁目)	9.5%
3. 西府	東芝町、本宿町、日新町、西府町	7.5%
4. 武蔵台	武蔵台、北山町、西原町	6.2%
5. 新町	浅間町、天神町(3・4丁目)、新町、晴見町(3・4丁目)、柴町	9.1%
6. 住吉	南町、分梅町(2～5丁目)、住吉町	10.7%
7. 是政	小柳町(2・4～6丁目)、清水が丘(1・2丁目)、是政	9.9%
8. 紅葉丘	多磨町、朝日町、紅葉丘、若松町(3～5丁目)	8.8%
9. 押立	押立町、車返団地	5.7%
10. 四谷	四谷	4.9%
11. 片町	矢崎町、本町、片町、宮西町(2～5丁目)、分梅町(1丁目)、日鋼町、美好町	10.8%
無回答		0.5%

F 7 あなたは府中市にお住まいになってから何年になりますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 生まれてからずっと	9.2%	5. 5年以上10年未満	9.7%
2. 1年未満	3.0%	6. 10年以上20年未満	18.7%
3. 1年以上3年未満	4.2%	7. 20年以上30年未満	17.8%
4. 3年以上5年未満	4.1%	8. 30年以上	32.6%
		無回答	0.6%

F 8 あなたのお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 持ち家の一戸建て	45.3%	5. 公的賃貸住宅(市営住宅 都営住宅など)	4.3%
2. 持ち家の集合住宅	24.8%	6. 社宅・公務員住宅など	1.7%
3. 民間賃貸住宅(一戸建て)	1.6%	7. その他〔具体的に： 〕	1.4%
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)	20.3%	無回答	0.6%

F 9 あなたのお住まいの地域には、自治会・町会等がありますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. ある	72.4%	2. ない	4.0%	3. 分からない	23.0%	無回答	0.7%
-------	-------	-------	------	----------	-------	-----	------

→F 9-1へ進む

問1へ進む

F 9-1 F 9で「1. ある」と答えた方におたずねします。あなたは、自治会・町会等に加入していますか。(1つに○)

(n=1,086)

1. 加入している	68.8%	→問1へ進む
2. 加入していない	24.3%	→F 9-2へ進む
3. 分からない	6.4%	→問1へ進む
無回答	0.5%	

F 9-2 F 9で「2. 加入していない」と答えた方におたずねします。自治会・町会等に加入していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

(n=264)

1. 人間関係などの関わりがわずらわしいから	20.5%
2. 地域のイベントなどの活動が大変そうだから	22.3%
3. 仕事や家事・育児・介護等で時間がないから	25.8%
4. 地域活動に興味がないから	6.1%
5. 加入することのメリットを感じないから	26.9%
6. どのような活動をしているのか分からないから	15.9%
7. 加入するきっかけがないから	32.6%
8. 加入方法が分からないから	12.1%
9. その他〔具体的に： 〕	20.5%
無回答	0.4%

お住まいの地域と近所づきあいについておたずねします

問1 あなたが現在、お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。(1)～(10)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答
(1) 近隣などとのつきあい	18.2%	33.1%	42.0%	3.3%	2.1%	1.2%
(2) 地域の交流	9.9%	22.9%	58.1%	2.9%	2.7%	3.6%
(3) 自治会・町会等の活動	8.5%	15.9%	65.2%	3.7%	3.9%	2.7%
(4) サークルやボランティアの活動	5.3%	10.3%	74.1%	3.4%	3.7%	3.3%
(5) 地域の防災対策	7.1%	24.5%	57.2%	5.6%	3.5%	2.1%
(6) 保健福祉サービス	9.1%	24.7%	55.1%	5.1%	3.0%	3.1%
(7) 相談できる体制	6.3%	19.3%	59.8%	7.1%	4.1%	3.4%
(8) 買い物などの便利さ	33.0%	39.0%	11.2%	10.0%	5.4%	1.3%
(9) 道路や交通機関等の使いやすさ	29.4%	39.0%	14.2%	10.7%	4.9%	1.7%
(10) 公的な手続きの便利さ	15.4%	37.9%	32.1%	8.2%	4.3%	2.1%

問2 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 個人的なことを相談し合える人がいる	7.1%	} →問3へ進む
2. さしさわりのないことなら、話せる人がいる	25.4%	
3. 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	42.7%	
4. あいさつや会話はしないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	12.0%	} →問2-1へ進む
5. 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	11.2%	
無回答	1.6%	

問2-1 問2で「4」、「5」と答えた方におたずねします。近所づきあいを(ほぼ)しない主な理由は何ですか。(3つまで○) (n=348)

1. 普段つきあう機会がないから	68.7%	5. 気の合う人・話の合う人が近くにいないから	7.2%
2. 仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから	22.1%	6. あまり関わりを持ちたくないから	25.9%
3. 同世代の人が近くにいないから	7.5%	7. 知り合う機会がないから	50.9%
4. 引っ越してきて間もないから	9.5%	8. その他〔具体的に： 〕	4.0%
		無回答	1.1%

地域活動やボランティア活動についておたずねします

問3 あなたは、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでいますか。

(N=1,501)

(いくつでも○)

1. 子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	2.9%	}	→問3-1へ進む
2. 高齢者や認知症の方を支援する活動	1.3%		
3. 障害等のある方を支援する活動	0.9%		
4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	1.5%		
5. 非行や犯罪をした人を支援する活動	0.1%		
6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	3.5%		
7. 国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	0.5%		
8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	3.9%		
9. 介護予防運動など健康・保健のための活動	1.7%		
10. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	6.4%		
11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	0.9%		
12. わがまち支えあい協議会*の活動	0.6%		
13. その他〔具体的に： 〕	2.3%		
14. 取り組んでいるものはない	80.1%	→問3-2へ進む	
無回答	2.9%		

*わがまち支えあい協議会

身近な生活圏域の中で地域住民や地域の様々な団体が、地域の「困りごと」に気づき、それを我が事として共有し、協力して解決していく仕組み。文化センター圏域ごとに月1回話し合いをしながら、様々な活動をしている。

問3-1 問3で1～13と答えた方におたずねします。あなたは、地域活動・ボランティア活動にどの程度取り組んでいますか。(1つに○)

(n=255)

1. 週に2回以上	4.3%	5. 1年に2、3回程度	17.3%
2. 週に1回程度	9.4%	6. 1年に1回程度	9.0%
3. 月に2、3回程度	4.7%	7. 一定していない	17.6%
4. 月に1回程度	9.4%	無回答	28.2%

→問4へ進む

問3-2 問3で「14. 取り組んでいるものはない」に○をつけた方におたずねします。活動していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

(n=1,202)

1. 興味のある活動がないから	9.3%	7. 体調がすぐれないから	11.4%
2. 活動に関する情報がないから	18.7%	8. 一緒に活動する仲間がいらないから	6.5%
3. 経済的負担が大きいから	2.7%	9. 人間関係等がわずらわしいから	15.5%
4. メリットを感じないから	6.3%	10. 参加方法が分からないから	14.6%
5. きっかけがないから	31.9%	11. 特になし	12.3%
6. 仕事や勉強・家事・育児・		12. その他〔具体的に： 〕	5.3%
介護等で時間がないから	43.3%	無回答	0.7%

問4 あなたは、今後、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでみたいと思いますか。(いくつでも○) (N=1,501)

1. 子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	16.1%
2. 高齢者や認知症の方を支援する活動	7.9%
3. 障害等のある方を支援する活動	7.0%
4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	7.8%
5. 非行や犯罪をした人を支援する活動	1.5%
6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	15.7%
7. 国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	8.3%
8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	11.7%
9. 介護予防運動など健康・保健のための活動	8.3%
10. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	13.5%
11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	12.9%
12. わがまち支えあい協議会の活動	2.2%
13. 取り組みたいと思うものはない	40.0%
14. その他〔具体的に： 〕	4.7%
無回答	4.4%

問5 あなたは、ボランティア活動について、どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。(3つまで○) (N=1,501)

1. 活動情報の提供がある	14.2%	8. 身体的な負担が少ない	17.4%
2. 友人等と一緒に参加できる	6.5%	9. 活動経費が支給される	8.3%
3. 身近なところで活動できる	28.5%	10. 謝礼が出る	10.5%
4. 活動時間や曜日を選べる	28.8%	11. 家事・育児・介護への支援がある	4.2%
5. 気軽に参加できる	36.2%	12. 就労先の理解や協力が得られる	4.7%
6. 適切な指導者やリーダーがいる	7.7%	13. 特にない	22.6%
7. 特技や知識がいかせる	8.9%	14. その他〔具体的に： 〕	1.8%
		無回答	4.1%

問6 あなたが活動の拠点として利用している施設はどれですか。(いくつでも○) (N=1,501)

1. 文化センター	17.7%	8. 男女共同参画センター「フューラル」	0.9%
2. 市民会館「ルミエール府中」	7.6%	9. 図書館	13.6%
3. 市民活動センター「プラッツ」	5.1%	10. 小学校・中学校	4.9%
4. ふれあい会館	1.1%	11. 民間の施設 →問6-1へ進む	2.1%
5. 生涯学習センター	7.6%	12. 個人宅	4.6%
6. 教育センター	0.2%	13. 特にない	53.3%
7. 国際交流サロン	0.3%	14. その他〔具体的に： 〕	3.4%
		無回答	5.3%

問6-1 問6で「11.民間の施設」と答えた方におたずねします。具体的な施設の名称をお書きください。

問10 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. はい →問10-1へ進む 14.6% 2. いいえ →問11へ進む 83.3% 無回答 2.1%

問10-1 問10で「1. はい」と答えた方におたずねします。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

(n=219)

1. 自分の健康・病気	21.9%	8. 住まい	17.4%
2. 家族の健康・病気	16.0%	9. お金(財産管理・相続含む)	37.0%
3. 自分の学業・仕事	9.1%	10. 人間関係、人との付き合い方	19.2%
4. 家族の学業・仕事	5.5%	11. 地域の治安のこと	9.1%
5. 自分の障害に関すること	6.8%	12. 災害時の備えに関すること	17.4%
6. 家族の障害に関すること	13.7%	13. 差別や偏見、人権侵害に関すること	4.1%
7. 家族の介護・介助	19.2%	14. その他〔具体的に： 〕	8.7%
		無回答	8.2%

問11 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 決してない 15.9% 3. たまにある 25.5% 5. しばしばある・常にある 4.9%
2. ほとんどない 44.1% 4. 時々ある 8.0% 無回答 1.6%

問12 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

(N=1,501)

1. とてもよい 14.7% 3. あまりよくない 16.1% 無回答 1.1%
2. まあよい 65.2% 4. よくない 2.9%

問13 あなたは将来の備えとしてどのようなことに不安を感じますか。(2つまで○)

(N=1,501)

1. 急な入院や施設への入所のこと 36.6% 4. 遺言作成・終活に関すること 9.2%
2. 預貯金や生活費の管理のこと 42.4% 5. 特にない 15.1%
3. 判断能力が低下したときの生活のこと 40.9% 6. その他〔具体的に： 〕 1.6%
無回答 1.7%

問14 あなたは自身が亡くなった後のことで不安なことはありますか。(2つまで○)

(N=1,501)

1. 遺された家族のこと 45.2% 5. 遺品整理に関すること 24.5%
2. 所有財産のこと 9.1% 6. 特にない 26.8%
3. 相続のこと 8.7% 7. その他〔具体的に： 〕 1.4%
4. 葬儀やお墓に関すること 15.5% 無回答 1.3%

問17 あなたは、次のことをご存じですか。(1)～(7)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

	内容まで 知っている	言葉 を聞いた ことがある	知らない	無回答
(1) 発達障害・学習障害*	58.8%	35.2%	3.1%	2.9%
(2) ヘルプマーク*	53.0%	30.8%	13.3%	2.8%
(3) 若年性認知症*	52.6%	38.8%	5.5%	3.2%
(4) 障害者差別解消法*	13.0%	33.0%	50.2%	3.7%
(5) 社会を明るくする運動*	3.7%	28.2%	64.5%	3.5%
(6) 保護司*	25.9%	41.1%	29.9%	3.1%
(7) 成年後見制度*	35.0%	42.0%	20.0%	3.0%

***発達障害・学習障害**

発達障害は、脳の機能障害があり、それによって生活や学習に困難さを持つ障害のこと。
学習障害は、読み書き能力や計算力など算数機能に関する特異的な発達障害のひとつ。

***ヘルプマーク**

内部障害や難病の方などへの配慮や手助けが必要なことを知らせるためのマークのこと。



***若年性認知症**

18歳から64歳までに発症した認知症性疾患（アルツハイマー病、脳血管型、前頭側頭型、レビー小体型など）の総称のこと。

***障害者差別解消法**

平成28年4月1日から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のこと。国の行政機関や地方公共団体と民間事業者に対して、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止や障害者への合理的配慮の提供が規定されている。

***社会を明るくする運動**

すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動。

***保護司**

犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティア。

***成年後見制度**

認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、本人を法律的に支援する制度のこと。

**問18 府中市に設置されている、福祉に関する相談窓口で知っているものはどれですか。
(いくつでも○)**

(N=1,501)

1. 市役所の相談窓口	40.0%	9. 子育て世代包括支援センター「みらい」	11.7%
2. 福祉総合相談	10.9%	10. 子ども家庭支援センター「たち」 「しらとり」	22.7%
3. 民生委員・児童委員	17.5%	11. 地域子育て支援センター「はぐ」	5.7%
4. 地域包括支援センター	24.9%	12. 男女共同参画センター「フチャール」	11.9%
5. 権利擁護センターふちゅう	1.3%	13. 社会福祉協議会	18.4%
6. 子ども発達支援センター「はばたき」	3.8%	14. 地域福祉コーディネーター	3.5%
7. 保健センター	32.0%	15. 市民活動センター「プラッツ」	25.5%
8. 地域生活支援センター「み～な」		16. 知っているものはない	10.7%
「あけぼの」「プラザ」「ふらっと」	10.5%	無回答	14.5%

問19 府中市には地域包括支援センターが11か所ありますが、あなたは、次の地域包括支援センターの役割や機能をご存じですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 高齢者の総合的な相談を行っている	41.4%
2. 介護予防の支援や相談を行っている	32.8%
3. 在宅療養に関する相談を行っている	24.0%
4. 認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている	12.9%
5. 成年後見制度の利用に関する相談を行っている	7.7%
6. 高齢者虐待の早期発見や対応をしている	6.4%
7. 悪質な訪問販売・電話勧誘などの被害相談を行っている	4.9%
8. 地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている	9.7%
9. 地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進している	15.9%
10. まったく知らなかった	49.1%
無回答	2.8%

問20 あなたは、次の権利擁護センターふちゅうの役割や機能をご存じですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 福祉サービスの利用やおいじたくに関する相談を受け、財産管理の支援を行っている	6.1%
2. 相続や権利侵害などの法律相談を行っている	5.7%
3. 成年後見制度の利用に関する相談と広報を行っている	5.4%
4. 成年後見人等の情報交換の場を提供している	2.5%
5. 権利擁護や支え合いの担い手を広げるために市民向けの講座を行っている	2.3%
6. まったく知らなかった	85.8%
無回答	3.7%

問21 あなたは、保育や子育て支援、高齢者や障害等のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等、府中市の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 家族や知人から	28.4%
2. 行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)	15.6%
3. 保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から	11.9%
4. 広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	51.9%
5. 自治会・町会の回覧板	14.5%
6. テレビ(ケーブルテレビを含む)、ラジオ、新聞、雑誌等	4.9%
7. 市のホームページ等のインターネットサイト	17.8%
8. LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS*	7.8%
9. 府中市メール配信サービス	7.8%
10. 障害当事者団体や障害当事者の父母会	1.1%
11. 情報を得たことはない	20.5%
12. その他〔具体的に：	〕 1.0%
無回答	2.2%

* SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)

ネットワーク上のコミュニケーション機能を持ったサービス全般を指す。

問22 府中市の福祉に関する情報を、今後、どこから入手したいと思いますか。

(N=1,501)

(いくつでも○)

1. 家族や知人から	20.5%
2. 行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)	27.2%
3. 保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から	13.6%
4. 広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	53.8%
5. 自治会・町会の回覧板	16.3%
6. テレビ(ケーブルテレビを含む)、ラジオ、新聞、雑誌等	6.1%
7. 市のホームページ等のインターネットサイト	36.8%
8. LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS*	22.5%
9. 府中市メール配信サービス	16.3%
10. 障害当事者団体や障害当事者の父母会	0.9%
11. 今は情報を得たいとは思わない	8.8%
12. その他〔具体的に：	〕 0.5%
無回答	2.1%

問23 あなたがふだん利用しているSNSがあれば教えてください。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. LINE(ライン)	77.7%	5. TikTok(ティックトック)	9.5%
2. X(エックス)	31.8%	6. 利用していない	15.6%
3. Instagram(インスタグラム)	35.1%	7. その他〔具体的に：	〕 1.2%
4. Facebook(フェイスブック)	12.7%	無回答	3.9%

福祉のまちづくり*についておたずねします

問24 現在、府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路等について、障害等のある方や妊婦、乳幼児を連れた方、高齢者等が利用しやすいように整備されていると思いますか。(1)～(11)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

		整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	整備されていない	整備の必要を感じない	わからない	無回答
建築物	(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）	9.5%	41.6%	22.9%	5.7%	0.3%	16.7%	3.3%
	(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	18.1%	52.0%	10.8%	1.9%	0.5%	13.1%	3.5%
	(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ	14.1%	45.1%	17.9%	2.9%	0.5%	15.7%	3.9%
道路・交通機関等	(4) 歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路	7.1%	34.8%	28.8%	13.4%	0.7%	11.3%	4.0%
	(5) 視覚障害者用の点字ブロックや音響式信号機、エスコートゾーン*	8.3%	38.2%	21.0%	5.8%	0.5%	22.2%	4.1%
	(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス	11.7%	36.9%	18.3%	4.9%	0.3%	24.1%	3.7%
	(7) 障害等のある方用の駐車場	10.6%	34.2%	16.7%	3.9%	0.3%	30.0%	4.3%
情報案内等	(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示	5.5%	28.6%	24.9%	5.7%	0.6%	30.2%	4.5%
	(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	2.5%	9.3%	21.1%	7.0%	0.8%	55.0%	4.3%
	(10) 府中市等の公共機関のホームページで提供する情報やサービス	5.9%	32.8%	15.5%	3.7%	0.7%	36.9%	4.6%
	(11) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等	1.8%	7.5%	18.4%	8.3%	1.1%	58.8%	4.0%
全体	(12) (1)～(11)や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン*	3.5%	28.9%	22.8%	6.8%	0.9%	32.0%	5.1%

*福祉のまちづくり

高齢者、障害者、子ども、外国人などを含めたすべての人がありのままに、自らの意思で暮らし、社会参加をし、自己実現を図ることができるような社会の実現に向け、ユニバーサルデザインの理念に立ったまちづくりを進めること。

*エスコートゾーン

横断歩道に設置して、視覚障害者が横断方向の手がかりとする突起形状の道路横断帯のこと。

*ユニバーサルデザイン

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げること。

問25 福祉のまちづくりを実現するために、優先的に取り組む必要があると思うことは何ですか。(3つまで○)

(N=1,501)

1. 高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備	55.0%
2. 公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進	32.2%
3. 分かりやすく利用しやすい案内標示の設置等、情報提供の充実	25.0%
4. 憩いの場である公園・河川の整備	19.7%
5. 高齢者や障害等のある方が住みやすい住宅の整備	23.1%
6. 交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備	47.1%
7. 福祉のまちづくりに対する理解の促進	14.5%
8. 分からない	6.7%
9. その他〔具体的に：	〕 3.5%
無回答	3.0%

災害時の支え合いについておたずねします

問26 近年は、地震災害に加え、台風、豪雨、土砂災害などの風水害が相次いでいます。災害時、あなたが、特に不安や心配なことは何ですか。(3つまで○)

(N=1,501)

1. 家族の所在、安否確認について	53.9%
2. 家具の転倒	9.6%
3. 家屋や外壁の強度	13.9%
4. 自身や家族の歩行に不安があること	7.9%
5. 避難所がどこにあるかはっきり分からないこと	11.7%
6. ペット（犬・猫など）の避難のこと	11.9%
7. 正確な情報の入手	41.6%
8. 避難所生活でのプライバシー	20.9%
9. 食糧や日用品などの生活物資の入手	43.8%
10. 医療機関、診療、薬の入手	25.2%
11. 精神的なストレス	17.1%
12. 特に不安や心配ごとはない	2.5%
13. その他〔具体的に：	〕 1.8%
無回答	2.4%

問27 あなたが普段から災害時に備えていることはありますか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 家族で所在、安否確認方法を定める	29.6%	7. 食糧や日用品の備蓄	61.4%
2. 家具の転倒防止対策	29.4%	8. 災害時の情報入手手段の確認	9.3%
3. 家屋や外壁の耐震補強	5.4%	9. 避難行動要支援者名簿*への登録	1.7%
4. 防災ハンドブックやハザードマップの確認	27.7%	10. 救急医療情報キット*の申込み	1.9%
5. 避難経路や避難場所の確認	21.4%	11. 特にない	15.6%
6. 地域の防災訓練への参加	6.5%	12. その他〔具体的に：	0.7%
		無回答	3.0%

***避難行動要支援者名簿**

高齢者や障害のある方などで、災害発生時の状況把握や避難に支援を必要とする方を、地域の支え合いにより支援するために作成している名簿

名簿は、自治会や民生委員など地域の支援者に提供され、地域で支え合いの仕組みをつくり、災害発生時に地域の支援者の方、又はグループが要援護者の安否確認や避難を支援するために活用される。

***救急医療情報キット**

救急時、災害時に必要な、「かかりつけ医療機関」、「服薬内容」、「持病」、「緊急連絡先」などの情報を記入した専用の用紙等を入れたキット(筒)のこと。

冷蔵庫の中で保管し、災害時に避難が必要な場合は支援者が冷蔵庫から取り出し、避難所を持って行く。また、救急時(119番出動)には、本人が持病などを説明することができない状態にある場合に、救急隊が冷蔵庫より取り出し、記載された情報を救急活動に役立てる。

問28 あなたが、災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 地域住民同士の声かけや安否確認	46.6%	6. 商店や企業と災害時の協働体制をつくること	24.2%
2. 防災訓練の実施	26.3%	7. 避難時に支援が必要な人を把握しておくこと	33.1%
3. 地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成	32.9%	8. 分からない	8.1%
4. 地域内外の団体等との日ごころからの交流	11.2%	9. その他〔具体的に：	1.1%
5. 物資の備蓄	62.4%	無回答	3.3%

問29 災害時、地域で手助けが必要な方に、あなたができることは、どのようなことですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 避難所での支援活動	56.5%
2. 要援護者(高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の安否確認	24.3%
3. 要援護者(高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の避難誘導	26.3%
4. けが人の手当て	10.7%
5. 水や食糧の提供	13.9%
6. 協力することはむずかしい・できない	20.8%
7. その他〔具体的に：	3.5%
無回答	4.6%

福祉に対する考え方についておたずねします

問30 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(1)～(8)について、あなたの考えに最も近いものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答
(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である	51.2%	31.2%	11.2%	2.5%	0.5%	3.3%
(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である	29.4%	34.0%	27.5%	4.3%	1.3%	3.5%
(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある	13.1%	25.4%	37.4%	15.9%	4.7%	3.5%
(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である	17.1%	29.0%	37.8%	10.5%	2.3%	3.3%
(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	32.8%	41.5%	17.8%	3.5%	0.7%	3.7%
(6) DV*被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	27.8%	38.3%	24.3%	4.7%	1.3%	3.5%
(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	28.8%	42.9%	19.3%	4.5%	0.9%	3.6%
(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である	33.9%	40.1%	18.7%	2.7%	0.9%	3.7%

*DV (ドメスティック・バイオレンス)

配偶者や恋人等親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力等あらゆる暴力が含まれる。

問31 あなたは認知症について、どのようなことを知っていますか。(いくつでも○)

(N=1,501)

- | | |
|---|-------|
| 1. 認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること | 88.7% |
| 2. 記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること | 85.5% |
| 3. 食生活や運動などで、予防の効果が認められているものがあること | 54.7% |
| 4. 高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること | 85.0% |
| 5. 早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること | 68.0% |
| 6. どれも知らなかった | 1.8% |
| 無回答 | 2.9% |

問32 認知症の人の暮らし方はさまざまです。あなたは認知症になったら、どのように暮らしたいですか。既に認知症の方は、今後どのように暮らしたいですか。

(もっとも当てはまるもの1つに○)

(N=1,501)

- | | | |
|---|-------|------|
| 1. 家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい | 16.8% | |
| 2. 医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい | 33.8% | |
| 3. 介護施設(入所施設)などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい | 27.5% | |
| 4. 分からない | 14.9% | |
| 5. その他〔具体的に： | 〕 | 2.5% |
| 無回答 | | 4.5% |

最後に府中市の福祉施策についておたずねします

問33 今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていませんか。次の中から1つだけ選んでください。(1つに○)

(N=1,501)

- | | |
|----------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい | 59.8% |
| 2. しばらくは住み続けたい | 35.1% |
| 3. できれば市外に移りたい | 1.5% |
| 4. 市外に移りたい | 1.0% |
| 無回答 | 2.7% |

問34 府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(5つまで○)

(N=1,501)

1. 相談支援体制や情報提供体制の充実	45.0%
2. 権利擁護・虐待防止の推進	11.2%
3. 日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進	41.2%
4. 経済的に困っている人の自立に向けた支援	22.8%
5. 養育困難や困窮等の課題を抱えた子育て家庭への支援	26.5%
6. 事業者への運営指導等による福祉サービスの質の確保に向けた取組	11.9%
7. 健康づくり・介護予防の推進	33.6%
8. 地域住民同士の助け合いや支え合いの促進	13.7%
9. 地域活動団体、ボランティア団体、NPO団体等の育成・支援	10.0%
10. 市民・関連団体・行政の連携と協働	10.1%
11. 互いに理解し助け合う福祉意識の醸成	12.1%
12. 市民の誰もが社会活動等へ参加・参画するための支援	9.2%
13. 福祉分野の人材の確保・育成	26.8%
14. 公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進	23.4%
15. 分からない	9.6%
16. その他〔具体的に： 無回答	1.4% 4.1%

問35 府中市の福祉やまちづくりへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

——ご協力ありがとうございました——

一般市民調査 クロス集計結果

※特徴的な設問、新規設問等、一部質問について、性・年代別、家族構成別、居住圏域別などを中心にクロス集計結果を掲載する。

(1) 地域と近所づきあい

問2 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が42.7%で最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が25.4%、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が11.2%と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに18～39歳で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が20%台と高くなっている。また、女性の40～64歳、65～74歳、75歳以上で「個人的なことを相談し合える人がいる」が10%を超えている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしの人で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が32.2%と高くなっている。

居住圏域別にみると、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」の割合は、白糸台で18.3%、片町で16.7%であり、全体(11.2%)より5ポイント以上高くなっている。

近所づきあいの現状(全体、性・年代別、家族構成別、居住圏域別)

		個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	顔をみれば、近隣の人だといえる	あいさつや会話はないが、むく交流はなく、近隣に住む人を知らない	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
全 体 (N=1,501)		7.1	25.4	42.7	12.0	11.2	1.6	
性・年代別	男性	18～39歳 (n=135)	3.7	10.4	37.8	23.7	24.4	0.0
		40～64歳 (n=333)	2.4	24.3	48.9	13.8	9.3	1.2
		65～74歳 (n=113)	4.4	30.1	43.4	17.7	3.5	0.9
		75歳以上 (n=87)	2.3	28.7	48.3	10.3	6.9	3.4
	女性	18～39歳 (n=162)	4.3	14.2	42.6	14.2	24.1	0.6
	40～64歳 (n=369)	11.4	26.6	42.3	7.9	10.8	1.1	
	65～74歳 (n=103)	13.6	32.0	40.8	7.8	4.9	1.0	
	75歳以上 (n=172)	12.8	38.4	34.3	5.2	4.1	5.2	
家族構成別	ひとり暮らし (n=264)	7.2	17.4	28.4	14.0	32.2	0.8	
	配偶者と2人暮らし (n=375)	5.1	29.3	42.4	13.3	6.9	2.9	
	その他 (n=839)	8.1	26.0	47.2	11.0	6.7	1.1	
居住圏域別	中央 (n=248)	4.0	26.6	37.9	17.7	13.3	0.4	
	白糸台 (n=142)	6.3	23.9	38.0	12.7	18.3	0.7	
	西府 (n=112)	5.4	23.2	49.1	8.0	14.3	0.0	
	武蔵台 (n=93)	9.7	31.2	44.1	5.4	6.5	3.2	
	新町 (n=137)	7.3	24.8	46.0	12.4	6.6	2.9	
	住吉 (n=161)	6.2	21.7	49.1	9.3	12.4	1.2	
	是政 (n=148)	11.5	25.7	41.9	11.5	8.1	1.4	
	紅葉丘 (n=132)	8.3	32.6	41.7	11.4	4.5	1.5	
	押立 (n=85)	8.2	32.9	40.0	10.6	7.1	1.2	
	四谷 (n=73)	6.8	24.7	45.2	12.3	8.2	2.7	
片町 (n=162)	7.4	17.3	42.6	13.6	16.7	2.5		

(2) 地域活動・ボランティア活動

問3 あなたは、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでいますか。
(いくつでも○)

17.0%の人が地域での活動やボランティアに取り組んでいる。

取り組んでいる内容としては、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(6.4%)が最も多く、次いで「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(3.9%)、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(3.5%)と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「取り組んでいるものはない」の割合が低くなり、何らかの地域での活動やボランティアに取り組んでいる割合が高くなっている。なお、男女ともに18～39歳は「取り組んでいるものはない(男性：90.4%、女性：93.8%)」が90%を超えている。また、男性の65～74歳では「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(10.6%)、男性の75歳以上では「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(14.9%)、女性の75歳以上では「介護予防運動など健康・保健のための活動」(7.0%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

居住圏域別では、「取り組んでいるものはない」の割合は、新町が89.1%と最も高く、武蔵台が72.0%と最も低くなっている。また、武蔵台では「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(10.8%)と「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(6.5%)、押立では「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(11.8%)、四谷では「介護予防運動など健康・保健のための活動」(6.8%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）（全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答）

(%)

		の伝統や文化を伝える活動	地域の祭りや運動会などの活動	参加など災害時に備えるための防災訓練や自主防災組織への活動	自然保護などの活動	地域の環境美化、環境保全・子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	介護予防運動など健康・保健のための活動	交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	高齢者や認知症の方を支援する活動	障害等のある方を支援する活動	自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	わがまち支えあい協議会の活動	国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	非行や犯罪をした人を支援する活動	その他	取り組んでいるものはない	無回答
全体 (N=1,501)		6.4	3.9	3.5	2.9	1.7	1.5	1.3	0.9	0.9	0.6	0.5	0.1	2.3	80.1	2.9	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	3.0	1.5	3.0	1.5	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	90.4	1.5
		40～64歳 (n= 333)	7.5	4.5	3.9	3.9	0.3	1.5	0.3	0.9	0.9	0.0	0.6	0.0	0.6	80.2	3.0
		65～74歳 (n= 113)	4.4	10.6	5.3	1.8	1.8	4.4	2.7	0.0	0.9	0.9	0.9	0.0	5.3	72.6	2.7
		75歳以上 (n= 87)	14.9	9.2	5.7	2.3	4.6	4.6	4.6	3.4	1.1	3.4	0.0	0.0	4.6	67.8	2.3
	女性	18～39歳 (n= 162)	2.5	0.6	0.6	1.9	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.8	1.2
		40～64歳 (n= 369)	6.2	2.7	3.3	4.6	0.8	1.1	1.6	1.1	0.5	0.5	0.8	0.0	1.9	82.1	1.1
		65～74歳 (n= 103)	8.7	3.9	2.9	2.9	2.9	0.0	1.9	1.0	1.9	2.9	0.0	1.0	3.9	75.7	2.9
	75歳以上 (n= 172)	7.6	3.5	4.7	1.2	7.0	1.2	2.3	1.2	2.3	0.0	0.6	0.6	6.4	68.6	8.7	
居住圏域別	中央 (n= 248)	4.4	3.2	2.8	4.8	0.8	1.2	0.8	0.0	0.4	0.4	1.2	0.4	1.6	81.0	2.8	
	白糸台 (n= 142)	3.5	2.1	1.4	2.8	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	86.6	3.5	
	西府 (n= 112)	8.0	6.3	3.6	0.9	1.8	0.0	2.7	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	1.8	81.3	2.7	
	武蔵台 (n= 93)	5.4	10.8	2.2	6.5	2.2	6.5	1.1	1.1	1.1	2.2	0.0	0.0	3.2	72.0	3.2	
	新住吉 (n= 137)	2.2	1.5	1.5	1.5	0.7	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	1.5	89.1	2.9	
	住政 (n= 148)	8.7	4.3	6.8	3.1	1.9	1.9	0.6	0.6	1.2	0.0	0.0	0.0	1.9	75.8	4.3	
	紅葉丘 (n= 132)	9.5	5.4	7.4	4.1	3.4	2.0	2.0	3.4	0.0	1.4	1.4	0.0	3.4	74.3	1.4	
	紅葉丘 (n= 132)	8.3	1.5	0.8	3.0	0.8	2.3	1.5	2.3	2.3	0.8	0.0	0.8	4.5	76.5	4.5	
	押立 (n= 85)	11.8	4.7	4.7	1.2	1.2	1.2	2.4	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	1.2	77.6	1.2	
	四谷 (n= 73)	2.7	2.7	2.7	1.4	6.8	1.4	5.5	2.7	2.7	0.0	1.4	0.0	4.1	79.5	2.7	
片町 (n= 162)	6.8	3.1	4.3	1.2	1.9	0.6	1.2	0.6	1.2	0.6	0.0	0.0	1.2	84.0	1.2		

問3-2 問3で「14. 取り組んでいるものはない」に○をつけた方におたずねします。活動していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」(43.3%)が最も多く、次いで「きっかけがないから」(31.9%)、「活動に関する情報がないから」(18.7%)と続いている。

性・年代別にみると、男性の65～74歳では「きっかけがないから」(46.3%)、男性の75歳以上では「特にない」(28.8%)、女性の75歳以上では「体調がすぐれないから」(40.7%)が最も多くなっている。他の性・年代では全体と同様に「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、白糸台では「きっかけがないから」(35.8%)、押立では「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」と「きっかけがないから」が同率(36.4%)で最も多くなっている。他の圏域では全体と同様に「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」が最も多くなっている。

地域活動・ボランティア活動をしていない理由(全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答)

		介 護 等 で 時 間 が な い か ら	き っ か け が な い か ら	ら 活 動 に 関 す る 情 報 が な い か ら	か ら 人 間 関 係 等 が わ ず ら わ し い	参 加 方 法 が 分 か ら な い か ら	体 調 が す ぐ れ な い か ら	興 味 の あ る 活 動 が な い か ら	い 一 緒 に 活 動 す る 仲 間 が い な い	メ リ ツ ト を 感 じ な い か ら	経 済 的 負 担 が 大 き い か ら	そ の 他	特 に な い	(%) 無 回 答
全	体 (n=1,202)	43.3	31.9	18.7	15.5	14.6	11.4	9.3	6.5	6.3	2.7	5.3	12.3	0.7
性・年代別	男性													
	18～39歳 (n= 122)	46.7	31.1	18.0	9.8	18.9	0.0	12.3	4.9	13.1	0.8	3.3	13.1	0.8
	40～64歳 (n= 267)	51.3	28.5	18.7	17.2	12.0	6.4	10.9	6.0	8.2	5.2	4.5	12.0	0.4
	65～74歳 (n= 82)	25.6	46.3	29.3	20.7	8.5	9.8	11.0	12.2	3.7	2.4	1.2	13.4	0.0
女性														
18～39歳 (n= 152)	50.7	37.5	18.4	14.5	16.4	2.6	9.2	4.6	9.2	2.6	2.6	9.9	0.0	
40～64歳 (n= 303)	57.1	36.3	20.8	12.9	16.8	10.2	6.3	5.0	4.0	2.0	3.3	9.9	1.3	
65～74歳 (n= 78)	32.1	30.8	19.2	19.2	21.8	17.9	3.8	11.5	2.6	1.3	10.3	9.0	0.0	
75歳以上 (n= 118)	11.9	21.2	7.6	16.9	10.2	40.7	9.3	9.3	0.8	0.8	17.8	15.3	0.8	
居住圏域別	中 央 (n= 201)	47.3	31.3	17.4	16.4	11.4	8.0	6.5	3.5	3.5	2.5	7.0	15.9	0.5
	白 糸 台 (n= 123)	31.7	35.8	26.0	13.8	18.7	12.2	13.0	8.9	8.1	4.9	6.5	11.4	0.0
	西 府 (n= 91)	53.8	31.9	16.5	19.8	9.9	8.8	6.6	5.5	13.2	5.5	2.2	7.7	0.0
	武 蔵 台 (n= 67)	46.3	31.3	16.4	9.0	16.4	16.4	10.4	3.0	3.0	1.5	7.5	9.0	1.5
	新 町 (n= 122)	48.4	28.7	21.3	13.1	15.6	10.7	5.7	7.4	6.6	2.5	4.1	9.8	1.6
	住 吉 (n= 122)	47.5	27.0	19.7	12.3	15.6	13.1	9.0	7.4	7.4	0.8	4.1	14.8	0.8
	是 政 (n= 110)	45.5	30.0	11.8	19.1	18.2	10.9	11.8	5.5	6.4	1.8	5.5	10.0	0.9
	紅 葉 丘 (n= 101)	35.6	25.7	13.9	12.9	14.9	12.9	11.9	7.9	3.0	2.0	4.0	17.8	1.0
	押 立 (n= 66)	36.4	36.4	12.1	19.7	16.7	12.1	13.6	3.0	6.1	4.5	10.6	9.1	0.0
	四 谷 (n= 58)	37.9	36.2	24.1	13.8	8.6	15.5	5.2	10.3	6.9	1.7	5.2	12.1	1.7
片 町 (n= 136)	39.7	39.0	24.3	18.4	14.7	11.8	10.3	9.6	6.6	2.2	3.7	12.5	0.0	

問4 あなたは、今後、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでみたいと思いますか。(いくつかでも○)

55.6%の人が今後、何らかの地域活動・ボランティア活動取り組んでみたいと思っている。

活動では「子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動」(16.1%)が最も多く、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(15.7%)、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(13.5%)と続いている。

性・年代別にみると、最も多い活動は異なっている。男性の18～39歳、75歳以上、女性の65～74歳では「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」、男性の40～64歳では「自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動」、男性の65～74歳、女性の75歳以上では「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」、女性の18～39歳、40～64歳では「子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、「取り組みたいと思うものはない」の割合は、新町が51.8%と最も高く、武蔵台が24.7%と最も低くなっている。また、武蔵台では「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(20.4%)と「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(15.1%)、「障害等のある方を支援する活動」(15.1%)、是政では「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(20.9%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

地域活動・ボランティア活動の取組意向(活動内容)(全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答)

		子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	自然保護などの活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	地域のレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	参加した活動	防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	介護予防運動など健康・保健のための活動	高齢者や認知症の方を支援する活動	交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	障害等のある方を支援する活動	わがまち支えあい協議会の活動	非行や犯罪をした人を支援する活動	その他	取り組みたいと思うものはない	無回答
全体 (N=1,501)		16.1	15.7	13.5	12.9	11.7	8.3	8.3	7.9	7.8	7.0	2.2	1.5	4.7	40.0	4.4			
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	16.3	8.9	17.8	12.6	8.1	9.6	0.7	1.5	7.4	3.0	2.2	0.7	1.5	51.9	0.0		
		40～64歳 (n= 333)	15.9	16.5	14.1	19.8	13.8	7.8	4.5	8.1	11.1	8.7	1.8	2.7	3.3	42.0	2.1		
		65～74歳 (n= 113)	6.2	22.1	11.5	17.7	12.4	8.8	11.5	7.1	10.6	2.7	0.9	0.9	1.8	38.9	2.7		
		75歳以上 (n= 87)	5.7	12.6	14.9	9.2	11.5	5.7	9.2	5.7	10.3	2.3	2.3	1.1	10.3	36.8	9.2		
	女性	18～39歳 (n= 162)	29.0	19.1	19.8	9.3	12.3	9.3	4.3	4.3	8.0	6.2	1.2	1.9	0.6	43.2	0.6		
		40～64歳 (n= 369)	25.7	17.6	13.3	13.3	13.3	12.2	13.0	13.6	7.9	11.7	3.0	1.6	4.1	34.4	1.1		
65～74歳 (n= 103)		7.8	13.6	14.6	10.7	13.6	2.9	12.6	7.8	2.9	5.8	5.8	0.0	7.8	31.1	4.9			
	75歳以上 (n= 172)	1.7	11.6	4.7	2.9	5.8	3.5	9.9	5.8	1.2	3.5	1.2	0.6	11.0	43.0	19.8			
居住圏域別	中央 (n= 248)	16.9	18.5	12.9	13.3	12.9	10.5	9.3	8.1	5.6	4.8	2.0	2.0	4.0	41.1	2.0			
	白糸台 (n= 142)	14.8	18.3	16.9	13.4	8.5	4.9	8.5	8.5	7.0	9.2	4.2	0.7	0.7	39.4	5.6			
	西府 (n= 112)	19.6	9.8	16.1	11.6	12.5	10.7	3.6	7.1	8.9	6.3	1.8	0.0	7.1	42.9	2.7			
	武蔵台 (n= 93)	19.4	20.4	18.3	17.2	20.4	11.8	11.8	10.8	15.1	15.1	3.2	1.1	5.4	24.7	4.3			
	新町 (n= 137)	12.4	14.6	7.3	7.3	8.0	8.8	6.6	5.1	2.2	3.6	0.7	0.7	5.1	51.8	4.4			
	住吉 (n= 161)	20.5	9.3	8.7	16.1	9.9	11.8	8.7	7.5	8.1	9.9	2.5	1.9	4.3	33.5	8.1			
	是政 (n= 148)	16.9	20.9	15.5	10.1	14.2	5.4	12.8	9.5	11.5	5.4	3.4	0.7	4.1	39.2	2.7			
	紅葉丘 (n= 132)	13.6	14.4	14.4	14.4	12.1	8.3	3.8	7.6	9.1	8.3	1.5	0.8	5.3	37.9	3.8			
	押立 (n= 85)	14.1	20.0	16.5	15.3	12.9	7.1	5.9	10.6	4.7	8.2	0.0	3.5	8.2	30.6	8.2			
	四谷 (n= 73)	9.6	11.0	9.6	15.1	12.3	5.5	9.6	9.6	6.8	5.5	2.7	0.0	6.8	45.2	5.5			
片町 (n= 162)	14.8	14.2	14.8	11.7	9.3	5.6	9.9	5.6	8.6	4.9	1.9	2.5	4.3	46.9	3.1				

問5 あなたは、ボランティア活動について、どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。(3つまで○)

「気軽に参加できる」(36.2%)が最も多く、次いで「活動時間や曜日を選べる」(28.8%)、「身近なところで活動できる」(28.5%)と続いている。

性・年代別にみると、女性の75歳以上では「身近なところで活動できる」が最も多く、それ以外の性・年代では全体と同様に「気軽に参加できる」が最も多くなっている。また、男女ともに18～39歳では「謝礼が出る」(男性：20.0%、女性：24.7%)、「家事・育児・介護への支援がある」(男性：11.9%、女性：13.0%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

問3の地域活動・ボランティア活動の取組状況の回答別にみると、「取り組んでいない」と回答した人は、「気軽に参加できる」(35.4%)が最も多く、次いで「身近なところで活動できる」(26.8%)、「活動時間や曜日を選べる」(26.2%)と続いている。また、「特にない」は、「取り組んでいる」と回答した人は、4.3%と低いが、「取り組んでいない」と回答した人は、26.4%と高くなっている。

ボランティア活動等に参加しやすい条件

(全体、性・年代別、地域活動・ボランティア活動への取組状況別：複数回答)

																(%)	
		気軽に参加できる	活動時間や曜日を選べる	身近なところで活動できる	身体的な負担が少ない	活動情報の提供がある	謝礼が出る	特技や知識がいかせる	活動経費が支給される	適切な指導者やリーダーがいる	友人等と一緒に参加できる	就労先の理解や協力が得られる	家事・育児・介護への支援がある	その他	特にない	無回答	
全 体 (N=1,501)		36.2	28.8	28.5	17.4	14.2	10.5	8.9	8.3	7.7	6.5	4.7	4.2	1.8	22.6	4.1	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	38.5	20.0	25.2	7.4	14.8	20.0	6.7	14.1	3.7	12.6	8.1	11.9	1.5	24.4	0.7
		40～64歳 (n= 333)	39.3	29.1	29.7	10.5	15.9	10.2	12.0	10.2	6.3	3.0	8.1	2.7	1.2	22.2	2.4
		65～74歳 (n= 113)	34.5	33.6	24.8	20.4	18.6	4.4	12.4	9.7	13.3	5.3	0.9	0.0	2.7	23.9	1.8
		75歳以上 (n= 87)	29.9	18.4	27.6	21.8	11.5	1.1	5.7	4.6	5.7	2.3	0.0	1.1	1.1	34.5	11.5
	女性	18～39歳 (n= 162)	43.2	29.0	23.5	16.0	13.0	24.7	5.6	9.9	5.6	8.6	3.7	13.0	1.2	18.5	0.6
		40～64歳 (n= 369)	40.9	39.8	36.0	20.3	16.0	11.7	9.2	8.1	11.1	6.8	5.7	3.3	1.1	16.5	1.4
		65～74歳 (n= 103)	34.0	27.2	31.1	29.1	10.7	1.9	13.6	1.9	8.7	10.7	2.9	1.9	3.9	16.5	2.9
	75歳以上 (n= 172)	17.4	15.1	21.5	19.8	8.1	1.2	2.9	0.0	4.1	5.8	0.0	0.6	4.1	37.2	18.0	
地域活動・ボランティア活動への取組状況別	取り組んでいる (n= 255)	43.1	42.7	39.2	22.7	20.4	6.3	12.5	6.3	14.1	9.0	4.3	2.7	1.2	4.3	3.9	
	取り組んでいない (n=1,202)	35.4	26.2	26.8	16.6	13.1	11.7	8.3	9.1	6.4	6.0	5.0	4.6	1.9	26.4	3.0	

問7 あなたは、家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人に、次のような手助けをしたことがありますか。(いくつでも○)

70.5%の人が家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人への手助けの経験がある。

経験の内容は、「電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ」(53.0%)が最も多く、「赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動等、その他の活動等への募金や寄付」(30.6%)、「階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りの手伝い(車いすやベビーカー、白杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む)」(19.1%)と続いている。

性・年代別にみると、「何もしたことがない」の割合は、どの年代も女性の方が低く、女性の方が手助けの経験がある。特に女性の40～64歳は「電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ」(61.5%)、「階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りの手伝い(車いすやベビーカー、白杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む)」(24.9%)、「日常の見守りや声かけ、話し相手や相談相手」(20.1%)、「子どもの預かり(保育園・幼稚園などの送迎含む)」(9.8%)と4つの項目で全体より5ポイント以上高くなっている。

困っている人への手助けの経験(全体、性・年代別:複数回答)

		電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ	赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動等、その他の活動等への募金や寄付	杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む)	乗りの上り下りや道路の横断、電車・バスの	階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの	日常の見守りや声かけ、話し相手や相談相手	品の寄付	フードドライブ(フードバンク団体)への食	子どもの預かり(保育園・幼稚園などの送迎含む)	家事(掃除、洗濯、食事、買い物、ごみ出しなど)の手伝い	外出や通院時の付き添い(車で送り迎えをする等含む)	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	その他	何もしたことがない	無回答
全	体(N=1,501)	53.0	30.6	19.1	13.3	6.9	4.3	4.1	3.0	1.9	1.4	26.7	2.8			
性・年代別	男性	18～39歳(n=135)	43.7	13.3	14.8	11.9	2.2	1.5	3.7	3.7	0.7	0.7	40.7	0.7		
		40～64歳(n=333)	55.0	28.8	20.7	10.5	3.9	3.9	2.7	2.4	3.3	1.5	30.6	1.8		
		65～74歳(n=113)	54.0	27.4	15.9	6.2	5.3	1.8	5.3	5.3	5.3	0.9	27.4	0.9		
		75歳以上(n=87)	32.2	31.0	16.1	10.3	2.3	1.1	4.6	3.4	2.3	4.6	39.1	6.9		
	女性	18～39歳(n=162)	62.3	25.9	15.4	8.0	5.6	1.9	2.5	0.0	0.0	0.0	21.6	1.2		
		40～64歳(n=369)	61.5	35.2	24.9	20.1	10.6	9.8	4.1	3.8	1.1	0.3	19.8	0.5		
		65～74歳(n=103)	57.3	41.7	23.3	13.6	13.6	3.9	3.9	1.9	0.0	3.9	26.2	1.9		
		75歳以上(n=172)	37.2	37.2	10.5	16.9	8.7	1.7	8.1	4.1	2.3	1.7	22.7	11.0		

(3) 日ごろの生活と悩み

問9 あなたは、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とした場合、あなたはどれくらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。(1つに○)

「8点」(24.0%)が最も高く、次いで「7点」(17.1%)、「5点」(15.7%)と続いている。平均点は6.9点となっている。なお、4点以下の割合は11.1%となっている。

性・年代別にみると、どの年代も女性の方が男性より平均点が高くなっている。平均点は、女性の18～39歳が7.4点で最も高く、男性の75歳以上が6.5点と最も低い。

主観的幸福度(全体、性・年代別)

		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均点	
全体 (N=1,501)		1.7	0.7	0.8	4.3	3.6	15.7	9.7	17.1	24.0	9.1	12.1	1.2	6.9	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	3.7	1.5	0.7	5.2	3.7	16.3	11.1	15.6	20.0	3.0	17.8	1.5	6.6
		40～64歳 (n= 333)	0.3	0.6	0.9	6.0	3.0	19.2	12.9	15.9	21.0	7.2	11.4	1.5	6.7
		65～74歳 (n= 113)	0.0	0.0	0.9	6.2	3.5	15.0	6.2	19.5	34.5	5.3	8.8	0.0	7.0
		75歳以上 (n= 87)	4.6	0.0	0.0	8.0	3.4	16.1	9.2	17.2	23.0	10.3	6.9	1.1	6.5
	女性	18～39歳 (n= 162)	0.6	1.2	0.6	2.5	3.7	11.1	5.6	17.3	24.7	13.0	18.5	1.2	7.4
		40～64歳 (n= 369)	1.6	0.5	0.5	4.1	5.4	14.6	7.0	17.3	26.0	12.2	10.3	0.3	7.0
		65～74歳 (n= 103)	2.9	0.0	1.0	1.0	1.9	12.6	7.8	19.4	31.1	10.7	10.7	1.0	7.2
		75歳以上 (n= 172)	2.3	1.2	0.6	1.7	0.6	16.9	15.1	16.3	18.0	9.9	14.5	2.9	7.0

問10 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

「はい」が14.6%、「いいえ」が83.3%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに40～64歳で「はい(男性:16.2%、女性:17.3%)」の割合が高くなっている。

どこに相談したらよいかかわからない悩みはあるか(全体、性・年代別)

		はい	いいえ	無回答	
全体 (N=1,501)		14.6	83.3	2.1	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	11.9	86.7	1.5
		40～64歳 (n= 333)	16.2	82.0	1.8
		65～74歳 (n= 113)	15.0	84.1	0.9
		75歳以上 (n= 87)	11.5	82.8	5.7
	女性	18～39歳 (n= 162)	8.0	90.7	1.2
		40～64歳 (n= 369)	17.3	82.1	0.5
		65～74歳 (n= 103)	9.7	90.3	0.0
		75歳以上 (n= 172)	15.1	78.5	6.4

問10-1 問10で「1. はい」と答えた方におたずねします。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

「お金(財産管理・相続含む)」(37.0%)が最も多く、「自分の健康・病気」(21.9%)、「家族の介護・介助」(19.2%)・「人間関係、人との付き合い方」(19.2%)と続いている。

性・年代別にみると、悩みがあると回答が多かった男性の40～64歳では、「お金(財産管理・相続含む)」(55.6%)が最も多く、「災害時の備えに関すること」(20.4%)・「家族の障害に関すること」(20.4%)と続いている。女性の40～64歳では、「お金(財産管理・相続含む)」(29.7%)が最も多く、「住まい」(23.4%)、「家族の介護・介助」(21.9%)・「災害時の備えに関すること」(21.9%)と続いている。

悩みの内容(全体、性・年代別:複数回答)

		お金(財産管理・相続含む)	自分の健康・病気	家族の介護・介助	人間関係、人との付き合い方	住まい	災害時の備えに関すること	家族の健康・病気	家族の障害に関すること	自分の学業・仕事	地域の治安のこと	自分の障害に関すること	家族の学業・仕事	差別や偏見、人権侵害に関すること	その他	無回答	(%)	
全	体 (n= 219)	37.0	21.9	19.2	19.2	17.4	17.4	16.0	13.7	9.1	9.1	6.8	5.5	4.1	8.7	8.2		
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 16)	37.5	12.5	0.0	43.8	12.5	0.0	6.3	6.3	25.0	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	12.5	
		40～64歳 (n= 54)	55.6	16.7	16.7	16.7	14.8	20.4	14.8	20.4	13.0	7.4	11.1	3.7	5.6	5.6	14.8	
		65～74歳 (n= 17)	35.3	29.4	5.9	23.5	17.6	29.4	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	11.8	0.0	5.9	5.9	
	女性	75歳以上 (n= 10)	30.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		18～39歳 (n= 13)	46.2	7.7	30.8	46.2	23.1	30.8	7.7	15.4	7.7	23.1	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	
		40～64歳 (n= 64)	29.7	12.5	21.9	7.8	23.4	21.9	10.9	12.5	9.4	17.2	4.7	6.3	3.1	9.4	9.4	
		65～74歳 (n= 10)	30.0	20.0	20.0	20.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0	
		75歳以上 (n= 26)	19.2	42.3	23.1	19.2	3.8	7.7	34.6	11.5	0.0	3.8	7.7	3.8	0.0	7.7	0.0	

問11 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

「たまにある(25.5%)」、「時々ある(8.0%)」「しばしばある・常にある(4.9%)」を合計した《孤独である》は38.4%となっている。

性・年代別にみると、《孤独である》の割合は、女性の65～74歳、75歳以上で40%を超えて高くなっている。

社会からの孤立を感じる程度(全体、性・年代別)

		決してない	ほとんどない	たまにある	時々ある	しばしばある・常にある	無回答	(%) 《孤独である》	
全体 (N=1,501)		15.9	44.1	25.5	8.0	4.9	1.6	38.4	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	23.7	38.5	22.2	8.1	5.9	1.5	36.2
		40～64歳 (n= 333)	16.5	43.8	22.8	7.8	6.9	2.1	37.5
		65～74歳 (n= 113)	9.7	52.2	27.4	8.8	1.8	0.0	38.0
		75歳以上 (n= 87)	12.6	54.0	23.0	6.9	1.1	2.3	31.0
	女性	18～39歳 (n= 162)	22.2	41.4	21.0	8.6	4.3	2.5	33.9
		40～64歳 (n= 369)	14.4	45.3	26.6	8.4	4.6	0.8	39.6
		65～74歳 (n= 103)	16.5	40.8	30.1	7.8	4.9	0.0	42.8
		75歳以上 (n= 172)	12.2	41.9	32.6	5.8	4.7	2.9	43.1

(4) 相談と情報

問 21 あなたは、保育や子育て支援、高齢者や障害等のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等、府中市の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。
(いくつでも○)

77.3%の人がいずれかの方法で府中市の福祉に関する情報を入手している。

「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」(51.9%)が最も多く、次いで「家族や知人から」(28.4%)、「市のホームページ等のインターネットサイト」(17.8%)と続いている。なお、「情報を得たことはない」は20.5%となっている。

性・年代別にみると、入手先について、男性の18～39歳では「家族や知人から」が最も多く、他の性・年代では全体と同様に「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多くなっている。また、女性の18～39歳では「LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS」(25.9%)と「保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から」(22.8%)、女性の65～74歳、75歳以上では「自治会・町会の回覧板」(65～74歳:25.2%、75歳以上:29.1%)が全体より10ポイント以上高くなっている。なお、男性の18～39歳では「情報を得たことはない」が39.3%と高くなっている。

市の福祉に関する情報の入手先の現状(全体、性・年代別:複数回答)

		広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	家族や知人から	市のホームページ等のインターネットサイト	生政行政事務所の相談窓口(市役所、市民生活委員・児童委員など)	自治会・町会の回覧板	職員や配布物から	保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から	LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS	府中市メール配信サービス	テレビ(ケーブルテレビを含む)、ラジオ、新聞、雑誌等	障害当事者団体や障害当事者の父母会	その他	情報を得たことはない	(%) 無回答
全体 (N=1,501)		51.9	28.4	17.8	15.6	14.5	11.9	7.8	7.8	4.9	1.1	1.0	20.5	2.2	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	23.0	27.4	17.0	5.9	5.9	11.1	11.9	1.5	3.7	0.7	0.7	39.3	2.2
		40～64歳 (n= 333)	45.6	27.0	20.1	15.6	11.1	9.3	4.5	5.7	4.2	0.3	0.6	24.9	1.5
		65～74歳 (n= 113)	54.0	21.2	18.6	15.0	21.2	2.7	0.9	4.4	5.3	0.9	0.0	22.1	1.8
		75歳以上 (n= 87)	52.9	31.0	11.5	18.4	21.8	3.4	2.3	5.7	9.2	0.0	1.1	23.0	4.6
	女性	18～39歳 (n= 162)	39.5	31.5	21.0	10.5	4.3	22.8	25.9	6.2	1.2	0.0	1.9	28.4	1.9
		40～64歳 (n= 369)	59.3	31.2	23.8	17.9	11.4	18.2	8.1	15.2	2.7	0.8	1.6	13.0	1.1
		65～74歳 (n= 103)	71.8	33.0	18.4	22.3	25.2	6.8	7.8	13.6	11.7	2.9	1.0	6.8	1.0
		75歳以上 (n= 172)	68.0	25.6	2.3	17.4	29.1	8.1	1.2	2.9	9.9	2.9	0.6	10.5	5.2

問 22 府中市の福祉に関する情報を、今後、どこから入手したいと思いますか。

(いくつでも○)

「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」(53.8%)が最も多く、次いで「市のホームページ等のインターネットサイト」(36.8%)、「行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)」(27.2%)と続いている。なお、「今は情報を得たいとは思わない」は8.8%となっている。

性・年代別にみると、男性の18～39歳では「市のホームページ等のインターネットサイト」(32.6%)、女性の18～39歳では「LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS」(46.9%)、他の年代では「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多くなっている。

問22の福祉情報の入手経験の有無別にみると、「入手経験なし」の人は、入手先について、「市のホームページ等のインターネットサイト」(29.3%)が最も多く、次いで「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」(27.7%)、「LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS」(20.5%)と続いている。

市の福祉に関する情報の入手先の希望

(全体、性・年代別、福祉情報の入手経験別：複数回答)

		物	市	会	行	N	家	自	府	通	保	新	テ	障	そ	今	無
		報	の	福	政	S	族	治	中	っ	育	聞	レ	害	他	は	回
		ふ	ホ	祉	等	(や	会	市	て	所	、	ビ	当		情	答
		ち	ー	協	の	ラ	知	・	役	い	、	ケ	事	者	報	を	
		ゅう	ム	議	相												
		や															
		市															
		の															
		パ															
		ン															
		フ															
		レ															
		ッ															
		ト															
		な															
		ど															
		の															
		印															
		刷															
全	体 (N=1,501)	53.8	36.8	27.2	22.5	20.5	16.3	16.3	13.6	6.1	0.9	0.5	8.8	2.1			
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	30.4	32.6	14.1	30.4	23.0	8.1	9.6	12.6	7.4	0.0	0.7	20.0	1.5		
		40～64歳 (n= 333)	49.5	42.9	29.1	21.6	20.4	13.5	15.6	9.9	4.8	0.6	0.0	9.9	1.5		
		65～74歳 (n= 113)	61.9	41.6	33.6	8.8	20.4	25.7	16.8	6.2	10.6	1.8	0.0	8.0	1.8		
		75歳以上 (n= 87)	67.8	32.2	37.9	10.3	20.7	29.9	14.9	12.6	12.6	0.0	0.0	3.4	1.1		
	女性	18～39歳 (n= 162)	38.9	37.0	11.1	46.9	16.0	6.2	13.6	23.5	3.1	0.0	0.6	11.1	1.9		
		40～64歳 (n= 369)	58.3	42.3	28.5	26.0	18.4	13.0	23.6	16.0	4.9	1.4	1.4	5.7	2.4		
		65～74歳 (n= 103)	69.9	38.8	35.0	15.5	24.3	23.3	20.4	13.6	8.7	2.9	1.0	5.8	1.9		
	75歳以上 (n= 172)	61.6	14.0	32.0	7.6	26.7	27.3	7.6	11.0	5.8	0.6	0.0	7.0	3.5			
福祉情報の 入手経験の 有無別	入手経験あり (n=1,161)	61.6	39.4	30.2	23.3	23.3	18.8	18.0	16.1	6.9	1.1	0.4	4.0	0.9			
	入手経験なし (n= 307)	27.7	29.3	16.9	20.5	11.1	8.1	10.4	5.5	3.9	0.3	1.0	27.7	1.0			

問 23 あなたがふだん利用しているSNSがあれば教えてください。(いくつでも○)

「LINE (ライン)」(77.7%) が最も多く、「Instagram (インスタグラム)」(35.1%)、「X (エックス)」(31.8%) と続いている。

性・年代別にみると、男性の18～39歳では「LINE (ライン)」(91.9%) と「X (エックス)」(57.8%)、女性の18～39歳では「LINE (ライン)」(95.1%)、「Instagram (インスタグラム)」(79.0%)、「X (エックス)」(69.1%)、「TikTok (ティックトック)」(25.3%)、女性の40～64歳では「LINE (ライン)」(90.8%) と「Instagram (インスタグラム)」(52.8%) が全体より10ポイント以上高くなっている。なお、男女ともに75歳以上は「利用していない」(男性：42.5%、女性47.1%) が40%台で高くなっている。

問22の福祉情報の入手経験の有無別にみると、入手経験の有無で傾向は大きく変わらないが、「X (エックス)」の割合は「入手経験なし」(39.7%) の人が「入手経験ありの人」(30.4%) を9.3ポイント上回っている。

利用しているSNS (全体、性・年代別、福祉情報の入手経験別：複数回答)

		LINE (ライン)	Instagram (インスタグラム)	X (エックス)	Facebook (フェイスブック)	TikTok (ティックトック)	その他	利用していない	無回答	
全 体 (N=1,501)		77.7	35.1	31.8	12.7	9.5	1.2	15.6	3.9	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	91.9	43.7	57.8	10.4	15.6	0.7	3.7	1.5
		40～64歳 (n= 333)	81.7	28.5	37.2	18.6	7.8	1.5	12.0	1.8
		65～74歳 (n= 113)	68.1	12.4	8.0	12.4	2.7	0.9	23.0	4.4
		75歳以上 (n= 87)	44.8	2.3	5.7	8.0	1.1	1.1	42.5	11.5
	女性	18～39歳 (n= 162)	95.1	79.0	69.1	10.5	25.3	1.2	3.1	2.5
		40～64歳 (n= 369)	90.8	52.8	32.2	16.8	11.1	0.5	4.9	0.8
		65～74歳 (n= 103)	83.5	17.5	15.5	7.8	7.8	1.0	16.5	0.0
		75歳以上 (n= 172)	34.9	2.3	1.7	1.2	0.0	1.7	47.1	16.3
福祉情報の 入手経験の 有無別	入手経験あり (n=1,161)	79.2	35.7	30.4	13.7	9.1	1.2	15.2	2.9	
	入手経験なし (n= 307)	77.2	35.5	39.7	10.1	12.1	1.3	18.6	1.3	

(5) 府中市の福祉施策

問 33 今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていませんか。次の中から1つだけ選んでください。(1つに○)

「ずっと住み続けたい」(59.8%)と「しばらくは住み続けたい」(35.1%)を合計すると、94.9%に居住継続意向がある。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「ずっと住み続けたい」の割合が高くなり、18～39歳では30%台だが、75歳以上では80%台となっている。

居住圏域別にみると、「ずっと住み続けたい」の割合は、住吉が64.6%と最も高く、西府が48.2%と最も低くなっている。

今後の府中市への居住継続意向（全体、性・年代別、居住圏域別）

		(%)					
		け ず た つ と 住 み 続	み し 続 け ら た く い は 住	に で 移 り れ た ば い 市 外	い 市 外 に 移 り た	無 回 答	
全 体 (N=1,501)		59.8	35.1	1.5	1.0	2.7	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	32.6	58.5	3.0	3.7	2.2
		40～64歳 (n= 333)	60.7	35.7	1.2	0.3	2.1
		65～74歳 (n= 113)	69.0	28.3	0.0	0.0	2.7
		75歳以上 (n= 87)	83.9	9.2	0.0	0.0	6.9
	女性	18～39歳 (n= 162)	35.8	56.8	3.1	1.9	2.5
		40～64歳 (n= 369)	57.2	39.3	1.4	0.5	1.6
		65～74歳 (n= 103)	73.8	20.4	1.0	1.0	3.9
		75歳以上 (n= 172)	84.9	9.9	1.2	0.6	3.5
居住圏域別	中 央 (n= 248)	59.3	36.7	1.2	1.2	1.6	
	白 糸 台 (n= 142)	60.6	35.2	1.4	0.7	2.1	
	西 府 (n= 112)	48.2	44.6	2.7	2.7	1.8	
	武 蔵 台 (n= 93)	60.2	29.0	5.4	0.0	5.4	
	新 町 (n= 137)	63.5	29.9	0.7	2.2	3.6	
	住 吉 (n= 161)	64.6	31.1	1.9	0.6	1.9	
	是 政 (n= 148)	62.8	35.8	0.0	0.0	1.4	
	紅 葉 丘 (n= 132)	53.8	41.7	1.5	0.0	3.0	
	押 立 (n= 85)	62.4	34.1	0.0	1.2	2.4	
	四 谷 (n= 73)	57.5	32.9	2.7	2.7	4.1	
片 町 (n= 162)	62.3	33.3	0.6	0.6	3.1		

問 34 府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(5つまで○)

「相談支援体制や情報提供体制の充実」(45.0%)が最も多く、次いで「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」(41.2%)、「健康づくり・介護予防の推進」(33.6%)と続いている。

性・年代別にみると、男性 18～39 歳では「相談支援体制や情報提供体制の充実」、「養育困難や困窮等の課題を抱えた子育て家庭への支援」、「公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進」が同率(29.6%)で最も多く、男性 40～64 歳、女性 18～39 歳では「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」、その他の性・年代では「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、白系台と是政では「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」、その他の圏域では「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多くなっている。

優先的に取り組むべき福祉施策(全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答)

		相談支援体制や情報提供体制の充実	日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進	健康づくり・介護予防の推進	福祉分野の人材の確保・育成	養育困難や困窮等の課題を抱えた子育て家庭への支援	バリアフリー化やユニバーサルデザインの推進	公共施設やインフラ等のバリアフリー化	経済的に困っている人の自立に向けた支援	地域住民の助け合いの促進	互いに理解し助け合う福祉意識の醸成	事業者への運営指導等に確実に向けた取組	権利擁護・虐待防止の推進	市民・関連団体・行政の連携と協働	地域活動団体、NPO 団体等の育成・支援	市民の誰もが社会活動等へ参加・参画するための支援	その他	分からない	無回答
全	体 (N=1,501)	45.0	41.2	33.6	26.8	26.5	23.4	22.8	13.7	12.1	11.9	11.2	10.1	10.0	9.2	1.4	9.6	4.1	
性・年代別	男性																		
	18～39歳 (n= 135)	29.6	27.4	26.7	14.8	29.6	29.6	21.5	8.1	9.6	8.9	14.1	8.9	9.6	8.1	3.0	16.3	1.5	
	40～64歳 (n= 333)	44.7	46.2	33.0	25.5	24.6	23.1	24.9	13.5	13.2	12.3	11.1	10.2	9.3	8.7	2.1	10.5	1.8	
	65～74歳 (n= 113)	53.1	48.7	42.5	31.0	23.0	30.1	26.5	14.2	11.5	11.5	12.4	10.6	11.5	10.6	0.9	3.5	5.3	
	75歳以上 (n= 87)	57.5	39.1	51.7	33.3	24.1	17.2	28.7	18.4	17.2	6.9	4.6	10.3	13.8	14.9	1.1	8.0	5.7	
女性																			
18～39歳 (n= 162)	32.7	43.2	14.8	17.3	27.8	26.5	20.4	10.5	6.2	9.9	11.7	9.3	6.2	7.4	1.9	12.3	3.1		
40～64歳 (n= 369)	49.1	41.5	34.1	29.8	29.0	22.8	19.5	12.7	12.5	14.4	9.8	9.2	10.8	11.1	0.8	8.9	3.3		
65～74歳 (n= 103)	57.3	38.8	48.5	31.1	28.2	22.3	22.3	15.5	8.7	19.4	15.5	10.7	10.7	4.9	1.0	4.9	3.9		
75歳以上 (n= 172)	41.9	36.6	36.6	32.0	25.0	16.3	23.8	21.5	16.9	10.5	10.5	11.0	9.3	7.0	0.0	8.1	11.0		
居住圏域別	中央 (n= 248)	46.8	43.5	33.5	27.0	31.0	29.4	19.0	12.5	7.7	13.3	12.9	10.5	10.9	8.5	1.2	9.7	2.4	
	白系台 (n= 142)	42.3	44.4	35.9	24.6	30.3	14.8	23.9	11.3	10.6	9.9	12.0	5.6	12.7	8.5	0.7	12.7	2.8	
	西府 (n= 112)	40.2	39.3	28.6	26.8	25.9	25.0	25.9	8.0	7.1	14.3	12.5	7.1	7.1	8.0	2.7	9.8	2.7	
	武蔵台 (n= 93)	47.3	44.1	39.8	19.4	23.7	19.4	20.4	12.9	14.0	10.8	10.8	10.8	6.5	7.5	2.2	11.8	6.5	
	新町 (n= 137)	46.0	41.6	40.1	24.1	27.0	16.1	27.7	13.9	16.1	9.5	14.6	8.8	7.3	9.5	0.7	7.3	4.4	
	住吉 (n= 161)	44.7	41.6	34.2	18.6	26.1	23.6	27.3	16.1	16.8	12.4	10.6	11.2	11.2	6.2	1.2	5.0	5.0	
	是政 (n= 148)	39.9	43.9	30.4	29.1	28.4	25.0	16.9	13.5	11.5	8.1	8.8	10.1	10.8	11.5	3.4	9.5	5.4	
	紅葉丘 (n= 132)	46.2	37.9	35.6	33.3	25.0	28.0	22.7	19.7	17.4	14.4	11.4	10.6	15.2	12.1	0.0	8.3	5.3	
	押立 (n= 85)	51.8	38.8	35.3	29.4	27.1	21.2	22.4	18.8	11.8	12.9	10.6	8.2	11.8	15.3	1.2	11.8	3.5	
	四谷 (n= 73)	47.9	39.7	31.5	34.2	20.5	23.3	20.5	12.3	8.2	9.6	5.5	11.0	8.2	6.8	1.4	8.2	5.5	
片町 (n= 162)	44.4	35.2	26.5	30.2	21.0	24.7	25.9	13.0	13.6	14.8	9.9	14.2	6.8	8.6	1.2	13.0	3.1		

1 1 圏域別グループディスカッションの結果

1 概要

(1) 調査目的

地域で活動している団体の方々から地域における課題と課題解決のためにできることを把握し、地域力の強化の方向性を検討する。また、府中市全体の課題と圏域別の課題を整理し、圏域別の取組を検討する。

(2) 実施概要

① 調査方法

グループディスカッション

文化センター11 圏域をもとに、2～3圏域ずつ4回に分けて開催。

グループを圏域ごとに分ける。6人程度で1グループをつくり、グループディスカッション形式で実施する。KJ法によりまとめ、最後に発表いただく。

② 参加者 地域で活動している方

わがまち支えあい協議会、地域福祉コーディネーター、民生委員・児童委員、自治会・町会、シニアクラブ、コミュニティ協議会、当事者団体、地域包括支援センター等

③ テーマ

「今ある地域の“ちから”（人・場所・活動を福祉にどう活かせる？）

話し合い① 地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）

話し合い② 地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること

④ 当日配布資料

次第、圏域別データ、参加者アンケート 等

(3) 日程・会場・対象圏域・参加者数

回	開催日時	会場	対象圏域	参加者数
第1回	10月26日(日) 10:00~12:00	西府文化センター	西府文化センター圏域 武蔵台文化センター圏域 四谷文化センター圏域	37人
第2回	10月26日(日) 15:00~17:00	中央文化センター	中央文化センター圏域 新町文化センター圏域 紅葉丘文化センター圏域	34人
第3回	11月1日(土) 10:00~12:00	片町文化センター	片町文化センター圏域 住吉文化センター圏域	28人
第4回	11月1日(土) 15:00~17:00	白糸台文化センター	白糸台文化センター圏域 押立文化センター圏域 是政文化センター圏域	40人
計				139人

(4) 当日の内容 (各回2時間)

1. 開会、趣旨説明、あいさつ (5分)
2. データ説明、予定とルール説明 (10分)
3. グループごとの時間 (75分)
 - (1) グループごとの自己紹介 (15分)
 - (2) グループごとの話し合い：テーマに沿った話し合い (60分)
 - ①地域の課題 (困っていること、課題を抱える人・世帯) (30分)
 - ②地域の“ちから” (人・場所・活動) を活かしてできること (30分)
4. 休憩 (10分)
5. 結果共有 (15分)
6. 閉会、アンケート記入 (5分)

<当日の様子>

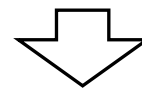
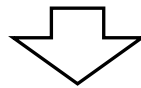
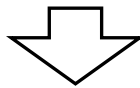


2 結果の概要

『地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）』としては、「地域のつながり・活動・担い手不足」、「困りごとを抱える人・世帯」について多くの課題が出された。

地域の課題をもとに話し合った『地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること』でも「地域のつながり・活動の活性化、担い手充実」、「困りごとを抱える人・世帯の支援」について多くの解決策、できることの見解をいただいた。

地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯） ※5圏域以上で出された意見			
困りごとを抱える人・世帯	地域のつながり・活動・担い手不足	防災・防犯の課題	地域資源・インフラの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加 ・ 孤独・孤立している人・世帯の存在 ・ 障害者支援の課題 ・ 子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性 ・ 情報格差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会・町会等への加入者の減少、存続不安 ・ 居場所、交流の機会の不足 ・ シニアクラブへの加入者の減少、存続不安 ・ 地域の担い手不足、参加者が少ない(若い人等)、無関心 ・ 地域のつながりの希薄化 ・ 地域の人がわからない、個人情報の壁あり ・ 地域活動団体、関係機関の連携不足 ・ 地域・活動の情報の収集と発信が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災対策、災害時要援護者の課題 ・ ゴミ等のマナーが悪い ・ 防犯対策が必要(詐欺が多い等) ・ 交通マナーが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の危険、整備が不十分(バリアフリーの課題) ・ 買い物に不便、店が少ない ・ 交通の便が悪い、移動困難 ・ 空き家の増加



地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること ※5圏域以上で出された意見			
困りごとを抱える人・世帯の支援	地域のつながり・活動の活性化、担い手充実	防災・防犯対策	地域資源の活用・インフラ整備
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り・訪問・傾聴 ・ 買い物支援、移動販売の充実 ・ 助け合い活動 ・ 高齢者支援、認知症支援等 ・ 困りごと、地域課題を解決する仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ、声かけ、関係づくり ・ 行事・イベントの実施等 ・ 交流・居場所づくり ・ 地域活動団体、関係機関同士、行政の連携強化 ・ (地域)情報の発信の工夫 ・ 自治会・町会等の活性化(団体同士の連携) ・ 担い手の確保・育成、若い世代 ・ (個人)情報の提供及び共有の仕組みづくり ・ シニアクラブの活性化 ・ 活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・災害時対応(防災訓練、防災について話し合える場づくり、情報の周知、避難行動要支援者への対応策の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化センター等の地域資源の活用(拠点化) ・ 空き家・スペースの活用 ・ 公共交通の充実、移動支援 ・ 道路整備、バリアフリーの推進

3 結果（主な意見）

（1）地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）

①各圏域で挙げられた意見の項目一覧

項目		中央	白糸台	西府	武蔵台	新町	住吉	是政	紅葉丘	押立	四谷	片町	圏域数
地域のつながりの不足	地域のつながりの希薄化	○	○	-	○	○	○	○	○	-	○	-	8
	地域の人がわからない、個人情報の壁あり	○	-	○	○	○	○	○	-	○	-	○	8
	居場所、交流の機会の不足	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	10
地域活動団体の課題	自治会・町会等への加入者の減少、存続不安	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	シニアクラブへの加入者の減少、存続不安	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	10
	地域の担い手不足、参加者が少ない（若い人等）、無関心	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	○	9
	地域・活動の情報の収集と発信が困難	○	○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	6
	地域活動団体、関係機関の連携不足	○	○	○	-	○	-	-	○	-	○	○	7
	活動者特有の課題	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-
困りごとを抱えている人、世帯	孤独・孤立している人・世帯の存在	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	認知症に対する理解不足、対応への不安	-	-	-	-	○	○	○	-	-	○	-	4
	障害者支援の課題	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	○	6
	子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性	-	○	○	○	-	○	-	○	○	-	-	6
	外国人の方への支援	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	2
	食に困っている方への援助	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	3
	複雑な課題、複合的な課題を抱える世帯の存在	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	○	4
	団地、集合住宅の課題	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	2
	相談先がない、わからない	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	3
情報の課題	情報格差がある		-	-	-	-	○	○	○	-	○	○	5
防災・防犯等の課題	防災対策、災害時要援護者の課題	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	防犯対策が必要（詐欺が多い等）	○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	○	5
	ゴミ等のマナーが悪い	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	6
	交通マナーが悪い	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	5
地域資源、インフラの課題	空き家の増加	○	-	○	○	-	○	○	-	-	○	○	7
	地域資源不足（医療、福祉）	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-	○	4
	買い物が不便、店が少ない	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	交通の便が悪い、移動困難	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	10
	道路の危険、整備が不十分（バリアフリーの課題）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11

②各項目の具体的な内容（5圏域以上で出された意見）

項目		内容
地域のつながりの不足	地域のつながりの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・ アパートやマンションの人たちとの交流が少ない ・ 転居してきた若い家族と交流がない ・ 近所であってもコミュニケーションが極めて少ない ・ コロナ禍以降、近所付き合いが薄くなっている ・ 新旧住民間の隔たりがある
	地域の人がわからない、個人情報への壁あり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知りあいが少なくなった（引っ越し） ・ 自治会入会時に家族構成が不明 ・ 自治会と民生委員で持っている個人情報異なる ・ 活動するための情報がないって来ない、個人情報の壁 ・ 課題を抱えていそうな人がいても近所に状況を聞けない
	居場所、交流の機会の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に集まれる場が少ない ・ 誰もがふらっと立ち寄れる場がない ・ 暑いときに避難や学習（子ども）する居場所が欲しい ・ 文化センターが使いづらい ・ 子ども・若い人と大人・高齢者の交流機会がない
地域活動団体の課題	自治会・町会等への加入者の減少、存続不安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の加入者が少ない ・ 自治会加入のメリットがみえにくい ・ 自治会・町会への参加方法が分からない ・ 自治会の担い手不足（役員等）、後継者不足 ・ 若い世帯（転入）の未加入・高齢者世帯の退会
	シニアクラブへの加入者の減少、存続不安	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニアクラブに入る人が少ない、後継者がいない ・ シニアクラブの担い手不足（高齢化）、役員選出が困難
	地域の担い手不足、参加者が少ない（若い人等）、無関心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集まり、行事・イベントへの参加者が少ない、出てくる人が毎回同じ ・ 担い手不足、地域ボランティアの限界 ・ リーダーになる人が出てこない ・ 活動に若い人の参加が少ない ・ 男性の参加が少ない ・ やる気のある人たちが地域活動に出てこられない
	地域・活動の情報の収集と発信が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動の情報が取れない ・ 地域の施設の活用方法の知識が不十分 ・ 民生委員の名前と顔を覚えてもらえない ・ 誰が地域の支援者か分かりづらい
	地域活動団体、関係機関の連携不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員と町会の連携が不十分 ・ 地域住民と学校とのつながりがない ・ 大学や高校と連携ができない
	困りごとを抱えている人、世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の介入を拒否し、状態が悪化している人が多い ・ 困っていることを伝えられない人がいる（高齢者、子どもの保護者等） ・ 課題を課題として理解できない人がいる ・ 孤独な人が増えている、しかし対応方法がわからない
困りごとを抱えている人、世帯	高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のひとり暮らし、高齢夫婦のみ世帯が増えている、地域とつながらず孤立している世帯も多い ・ 身寄りのない高齢者が多い ・ 外出を控えている、外出が難しい高齢者が多い ・ 高齢者の見守り、声かけが難しい、急病時の対応等課題 ・ 老々介護が増えている
	障害者支援の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害が重いほど地域のつながりが少ない ・ 小さい頃から障害のある方と接する機会がない ・ 障害者への情報提供が課題、災害放送は聞こえない

項目		内容
困りごとを抱えている人、世帯	子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが少なくなっている 子どもの生活が見えづらい 子どもに声をかけると不審者と思われる 共働き世帯が増え、放課後の子どもの居場所が必要 不登校の子どもが増えている
情報の課題	情報格差がある	<ul style="list-style-type: none"> テレビしか見ない、インターネットができない人が多い スマートフォン、パソコンが使えないと情報が入らない 情報を調べられるが正しい内容なのか判断が難しい 情報が必要な人に届かない 情報リテラシーが不足している
防災・防犯等の課題	防災対策、災害時要援護者の課題	<ul style="list-style-type: none"> 防災に対する意識が低い 災害時の助け合いができるか不安 避難所に行けない、避難所が遠い 水害への不安が大きい、避難場所への不安 要支援者の避難をどのように支援するのか
	防犯対策が必要（詐欺が多い等）	<ul style="list-style-type: none"> 詐欺が多く電話連絡ができない、ドアを開けてもらえない 夜間は暗い通りが多い 地域パトロール、警察の巡回がない
	ゴミ等のマナーが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ゴミのポイ捨てがある ペットのふんを取らない人がいる
	交通マナーが悪い	<ul style="list-style-type: none"> 自転車のマナーが悪い人がいる（歩道を走る、無灯火等） 駐車違反が多い
地域資源、インフラの課題	空き家の増加	<ul style="list-style-type: none"> 空き家が多い 不安な空き地がある
	買い物が不便、店が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 買い物が不便（スーパー、商店、コンビニがない等） 買い物に行くのが不安な人がいる
	交通の便が悪い、移動困難	<ul style="list-style-type: none"> バス便がない、少ない 公共交通不足、圏域が広い、高低差のため、拠点施設（駅、文化センター等）・活動場所までの移動が困難
	道路の危険、整備が不十分（バリアフリーの課題）	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道を渡る時間が短い 標識が見えにくい 駅のバリアフリー化が進んでいない 歩道が狭くバリアフリーになっていない 歩道と車道の境目の点字ブロック、音響信号、横断歩道へのエスコートゾーンの設置が必要 自転車道の整備が必要

③各圏域の特徴的な意見

中央	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の暮らしを支える人材が全く足りない ・ 重度重複障害者が最後まで暮らせるところが市内にはほぼない ・ 障害がある方の介護予防活動の場がない ・ 耳が聞こえにくい人へのサポートが必要 ・ 詐欺などが多くて不安・電話にでない ・ 高齢になっても、障害があっても住める場所が足りない ・ 食に困っている方への援助
白糸台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と地域との協力・連携が少ない ・ 困っている人がどこに相談すればいいか分かりにくい ・ ターミナル駅がないため診療科目によっては医療機関が少ない
西府	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と学校のつながりがない ・ フードドライブを宣伝しているが集まらない ・ 交番がそばにない、防犯に不安 ・ 福祉サービス事業所の職員が集まらない ・ 小学校のグラウンドの土がぬかるみやすい
武蔵台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路整備の情報が入ってこない ・ 武蔵台2・3丁目には地域的課題がある（地形、避難所遠い等） ・ 障害を抱えている親子がサービスにつながっていない ・ 介護サービス（ヘルパー・ケアマネ等）が来てくれない地域がある
新町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症高齢者に対する理解が進まない ・ 情報格差がある ・ 外国人支援の課題がある
住吉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤立から多様な課題が生まれている ・ 8050問題の世帯が見られる ・ 生活拠点となる場所が少ない ・ 郷土の森の近くなので動物が多い（タヌキ、アライグマ、ハクビシンなど）
是政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複合的な課題を抱えている世帯がいる ・ ひとり暮らし高齢者が日常での困りごとをどこに相談したらいいのか分からない ・ 必要な情報が届かない ・ 圏域の区割りが地域の実態と異なる
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの課題（居場所、ひきこもりの児童） ・ 8050問題、ひきこもり（独居）の方など、課題を抱える世帯がいる ・ 福祉サービス、医療機関が少ない
押立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの課題（不登校）、子育て支援が必要 ・ 外国人世帯が課題を抱えている ・ 団地の階段に苦勞している方が多い、 ・ 集合住宅の管理費があがっていく ・ 医療機関が少ない
四谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校PTAが機能していない ・ 障害者への連絡ツールが不十分
片町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活困窮者への対応に課題 ・ エレベーターのない建物に住んでいて外出が困難になる方がいる ・ 困りごと相談をどこにすればいいのか分からない方が多い ・ 駅周辺のハードに問題がある、再開発の情報が届かない ・ 地域の安心に不安がある ・ 医療機関が少ない

(2) 地域の“ちから”(人・場所・活動)を活かしてできること

①各圏域で挙げられた意見の項目一覧

項目		中央	白糸台	西府	武蔵台	新町	住吉	是政	紅葉丘	押立	四谷	片町	圏域数
地域のつながりづくり	あいさつ、声かけ、関係づくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	行事・イベントの実施等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	交流・居場所づくり	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	(個人)情報の提供及び共有の仕組みづくり	○	-	○	○	○	○	○	-	-	○	○	8
地域活動の活性化	(地域)情報の発信の工夫	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	9
	自治会・町会等の活性化(団体同士の連携)	○	○	○	-	○	-	○	○	○	○	○	9
	シニアクラブの活性化	○	-	○	-	-	-	○	-	○	-	○	5
	活動への参加	-	○	-	-	○	-	○	-	○	○	-	5
地域の担い手の充実	担い手の確保・育成、若い世代	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	○	9
	民間施設、企業との連携、活用	-	-	-	○	-	-	○	○	-	-	○	4
	地域活動団体、関係機関同士、行政の連携強化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	10
	地域参加への意識啓発	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	3
	地域活動、ボランティア活動の有償化(ポイント)	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	3
困りごとを抱える人、世帯の支援	見守り・訪問・傾聴	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	10
	助け合い活動	-	○	-	○	○	○	○	○	-	○	-	7
	高齢者支援、認知症支援等	-	-	○	○	○	○	○	-	-	○	○	7
	障害者支援	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	4
	子ども支援	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	2
	買い物支援、移動販売の充実	○	○	-	○	-	○	-	○	○	○	○	8
	食の支援	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	2
	困りごと、地域課題を解決する仕組みづくり	-	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	7
防災・防犯等の対策	防災・災害時対応	-	○	-	-	○	○	○	-	○	○	○	7
	マナー対策	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	4
	防犯対策	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	2
地域資源の活用	空き家・スペースの活用	-	-	○	○	○	-	○	-	○	○	○	7
	文化センター等の地域資源の活用(拠点化)	○	○	-	○	○	○	-	○	○	○	-	8
	公共交通の充実、移動支援	○	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-	7
インフラ等整備	道路整備、バリアフリーの推進	○	○	-	-	○	○	-	-	-	○	-	5
	外出しやすい環境(休憩所・ベンチ・日よけ)整備	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	3

②各項目の具体的な内容（5圏域以上で出された意見）

項目		中央
地域のつながりづくり	あいさつ、声かけ、関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔であいさつ」からつながりの一歩を踏み出す ・集合住宅などの方、すれ違ったら、あいさつ ・となり三軒両隣で日頃より話す機会を増やして助け合う ・個人情報も大事だが気になる時は思い切って声をかける ・地域行事の参加を促し、交流する、誘い合う
	行事・イベントの実施等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の盆踊り、もちつき会、運動会 ・地域のコミュニケーションを取るためのイベント ・参加しやすいイベントの企画（場所・時間帯） ・新しく入られた市民の力を活かしたい・盆踊り・若い方たちが気軽に参加できるイベント ・コアイベントに様々な工夫を追加して開催 ・文化センターまつり、子どもたち体験→地域への愛着
	交流・居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場を作る（横のつながりに） ・集まれて、居場所となるところの創出 ・個人の悩みを吐き出せる場所をつくる ・世代間のコミュニケーション ・お茶会、サロン、カフェ（子ども、高齢者、多世代） ・集会所・空き家を活用した居場所づくり
	（個人）情報の提供及び共有の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の共有のルールを決める ・高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者の情報共有（見守りなど）、サロンへのお誘い ・情報の共有化（民生委員・自治会・老人クラブ・地域包括支援センター（個人情報関係のデータ）） ・情報を共有できる機会を増やす
地域活動の活性化	（地域）情報の発信の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織の活動内容をタイムリーに知らせる仕組みをつくる ・若い人に届くメディアを使う ・高齢者にもわかりやすい情報伝達（重要なお知らせはマンツーマンで） ・SNS 発信。時間と空間の不足をソーシャルメディア等で補う ・チラシ配布、活動の予定を知らせる
	自治会・町会等の活性化（団体同士の連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会やシニアクラブ加入のメリットをつける ・自治会、管理組合（マンション）の連携、防災対策 ・自治会のイベントを増やす、誰でも参加できるように配慮 ・町会活動の積極的広報活動
	シニアクラブの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・60歳を超えた人にシニアクラブ加入の案内状を出す ・シニアクラブで相互交流しながら、ひとり暮らし対応
	活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・行事があったら参加する、協力する ・シニアクラブ活動が参加することで元気になった ・わがまち支えあい協議会に参加する ・身近な場所で活動できるようにする
地域の担い手の充実	担い手の確保・育成、若い世代	<ul style="list-style-type: none"> ・できない、苦手な人とできる、得意な人をつなげる仕組み ・若い人を活用する（各種行事等） ・高校生・大学生を巻き込む、学生ボランティア ・若い人が参加しやすい行事、日程を考える ・退職直後の元気高齢者を地域活動に巻き込む ・ボランティアの有効な活動の検討（趣味や広報） ・新しく入られた市民の力を活かしたい・盆踊り・若い人が気軽に参加できるイベント

項目		中央
地域の担 い手の充 実	地域活動団体、関係機関同 士、行政の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体の集約（ゴミ協、自治体、社協、ボランティア…） わがまち支えあい協議会と地域の関係機関や活動団体が連携する 文化センター中心に各活動団体が連携する、課題解決づくりができる仕組みを作る 担い手の人たちの顔合わせ（情報共有）、地域パーティの開催 デジタル化によるコミュニケーションの推進
困りごと を抱える 人、世帯の 支援	見守り・訪問・傾聴	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動（児童・学童・年配者）で声かけをする 支援する人とされる人の時間のすり合わせ（訪問時間など） ひとり暮らしの人の見守りをする 見守りの仕組みづくり（自治会・シニアクラブ・ささえあいの会それぞれで取り組む）
	助け合い活動	<ul style="list-style-type: none"> ささえあいの会の活用 ちょこっとお手伝い お助け隊をつくる share（シェア）の仕組みづくり（もの・こと）してあげ隊・してもらい隊
	高齢者支援、認知症支援等	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期を迎えるリスク対策の啓発 高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者の情報共有（見守りなど）、サロンへのお誘い 高齢者にもわかりやすい情報伝達 認知症講座の開催 地域活動者に認知症の方への対応を伝える
	買い物支援、移動販売の充 実	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売車の充実、拡大 買い物支援 ネットスーパーの利用の促進
	困りごと、地域課題を解決 する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターに情報を集約する 問題解決に向けたニーズを把握するための調査を実施する 「助けてほしい」気持ちを表出できるような呼びかけを行う ワンストップ相談窓口の設置、困りごと相談会の開催 困りごとを抱える人、世帯の支援について、関係者で検討できる仕組みづくり
防災・防犯 等の対策	防災・災害時対応	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練等を通じて横のつながりを強める 防災について（近所で）話し合える場づくり 防災、避難所の情報の周知（団体への周知、講座、掲示板の活用等） 避難行動要支援者への対応策の検討
地域資源 の活用	空き家・スペースの活用	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用し若い人を増やす 空き家のリノベーションによる居場所、飲食店をつくる 団地の空いている部屋の運用 マンションの集会所の利用
	文化センター等の地域資源 の活用（拠点化）	<ul style="list-style-type: none"> 文化センターを気軽に立ち寄れる場所にする（ふらっと集える） 文化センター内に地域の人がいつでも使える部屋を設ける（雑談したり、相談したり、作業したり） 公共施設（図書館、公会堂、市役所当）の空き室、空きスペースの活用
	公共交通の充実、移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ちゅうバスの維持、本数増 ちゅうバスのルートの見直し
インフラ 等整備	道路整備、バリアフリーの 推進	<ul style="list-style-type: none"> 道路の段差を滑らかにする 自転車道の整備

③各圏域の特徴的な意見

中央	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の意識を変える～受け身から能動へ ・ フードパントリー、子ども食堂など食への援助 ・ 今ある施設に障害者が入れるところを増やす ・ 耳が不自由な方のために QR コードを活用して通訳につなげる等の支援を行う ・ 自転車のマナー教室の開催
白糸台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い家族が増えてきているが、地域の人との話し合える場所を作り自治会等に入る人を増やす ・ 生活の困りごと発見と解決のしくみをつくる ・ 公民館、避難所にインターネットを整備する ・ 地域の障害者施設と地域がつながる ・ ゴミルールを決める ・ 買い物ルートに休憩できるスペースやベンチを設置
西府	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校職員、PTA、自治会の合同パトロールを行う ・ 高齢期に向けたリスク予防・備えへの啓発をする ・ 聞こえない人のために「見える」形式で情報を出す ・ 子ども食堂への参加を増やす ・ 介護現場、福祉現場を改善する
武蔵台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵台 2・3丁目の町会をつくる ・ スーパーの飲食スペースを活用する ・ 武蔵台地区にコミュニティバスを走らせる
新町	<ul style="list-style-type: none"> ・ ささえあいの会のチラシを全戸ポスティング配布 ・ ささえあいの会に各団体から情報を流してもらう ・ 地域で高齢者支援できている自治会の情報を把握して、好事例を共有する ・ 町会・自治会のあり方を検討する ・ 学校で生徒たちにもメリットのなるイベントを作る・一緒に行く ・ 高齢者施設との連携、施設へのボランティア訪問活動
住吉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人、団体の発信できる力を育てる ・ 住吉スポーツクラブと地域イベントのコラボを行う（子ども 100 人弱） ・ 要介護、要支援高齢の担当者会議に地域の支援者が参加する仕組みを構築する
是政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園へ中学校の防災訓練などで地域防災の役割を伝え、自治会への入会や PR をする ・ サロン、地域祭りなどに一般企業に入ってもらう ・ お助け隊をつくる、若い人が高齢者を助けるで、買物の手伝いをする、1回 500 円など有料で行う
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業に協力いただく ・ ボランティア活動をするたびにスタンプを発行する（褒美は市や商店街の協力を得る）
押立	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっとした“できる”を活かして自主的活動を広める ・ 企業・施設を誘致して場所をつくる
四谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会と小中学校の連携を前向きに考える ・ コミュニティバス、乗合
片町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で交通安全教室を学ぶ機会を設ける ・ ひとり暮らし同士でゆるくつながるコミュニティのしくみをつくる ・ 介護サポーター制度を導入する、導入によって地域のタイアップ、行政の負担軽減となる ・ コミュニティに所属したくない人が所属したり登録できるような仕組み、場づくり

4 参加者アンケート結果

(1) 回収状況

回収数 117 人分

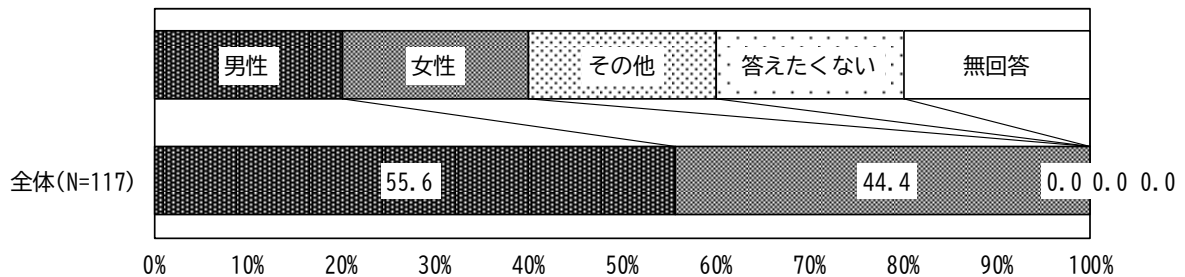
(2) 基本属性

参加者の性別は、「男性」が 55.6%、「女性」が 44.4%となっている。

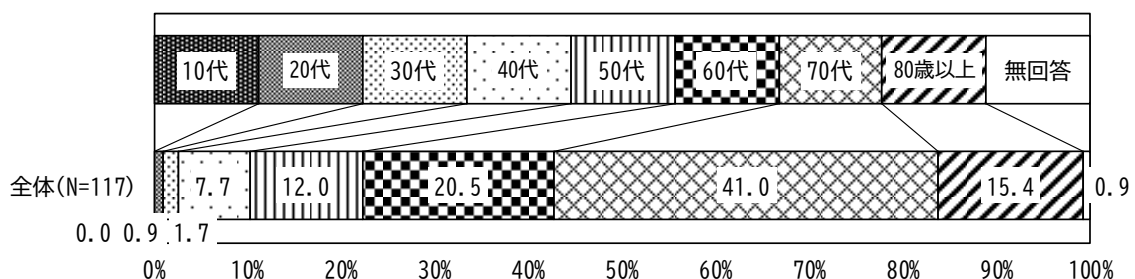
年齢は、「70代」が 41.0%で最も多く、「60代」が 20.5%と続いている。

地域活動（所属団体）は、「自治会・町会等（23.9%）」が最も多く、「コミュニティ協議会」と「わがまち支えあい協議会」が同率（22.2%）で続いている。

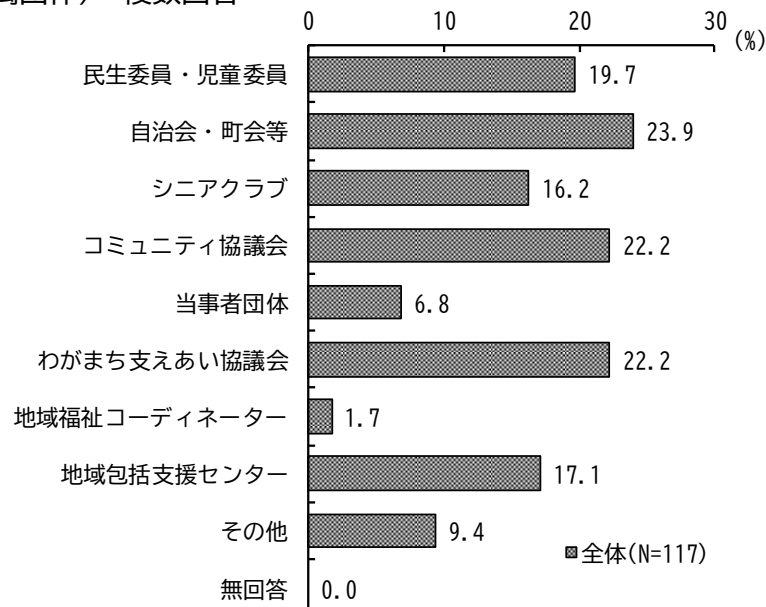
■性別



■年齢



■地域活動（所属団体）：複数回答



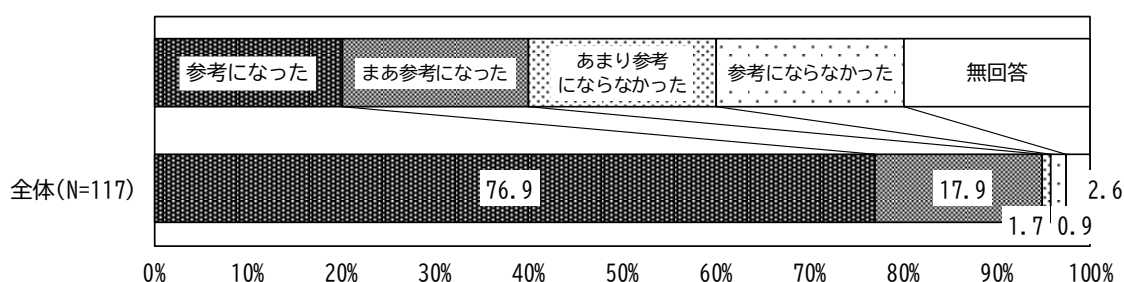
(3) グループディスカッションの内容

グループディスカッションに参加して参考になった程度は、「参考になった」が76.9%、「まあ参考になった」が17.9%であり、合計すると94.8%が参考になったと回答している。

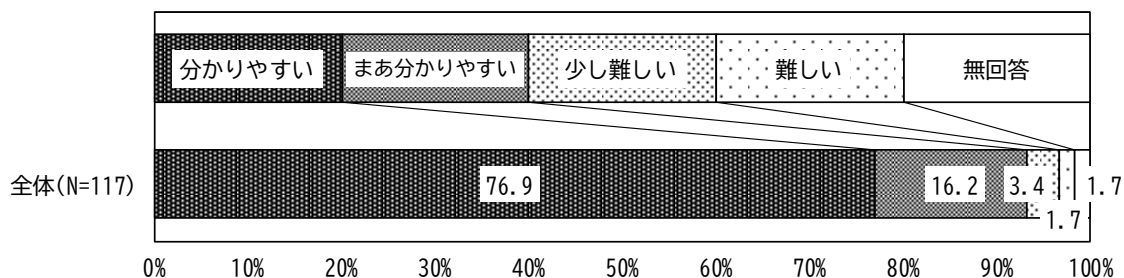
意見を書いて紙に貼りながら進める話し合いの方法の分かりやすさは、「分かりやすい」が76.9%、「まあ分かりやすい」が16.2%であり、合計すると93.1%が分かりやすいと回答している。

今後のグループディスカッションの開催の必要性は、「必要である」が95.7%であり、ほとんどの方が必要性を認識している。

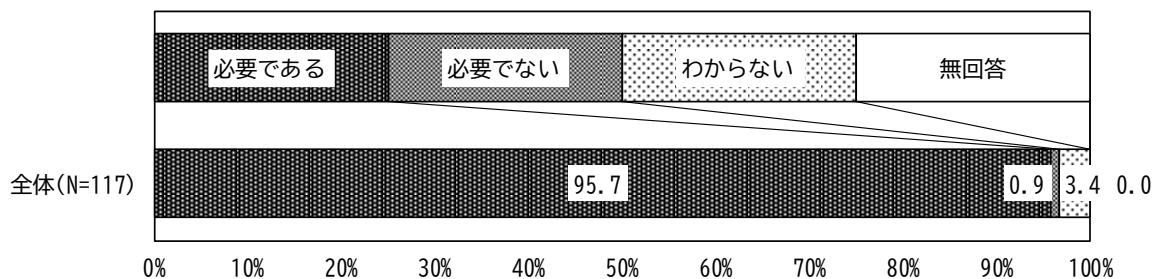
■グループディスカッションに参加して参考になった程度



■意見を書いて紙に貼りながら進める話し合いの方法の分かりやすさ



■今後のグループディスカッションの開催の必要性



(4) 感想・意見

◆参考・勉強になった (20 件)

- ・ 色々な意見（アイデア）が出て、勉強になりました。
- ・ とても有意義な自分自身も勉強になり、ありがとうございました。
- ・ 地域の気づいていないことに気づきました。意外と有効施設がありました。
- ・ 他の方のご意見等をお聞きでき、参考になりました。
- ・ 他の地域、団体同士の意見を直接聞けたので参考になりました。

◆グループディスカッションで出た意見を活用してほしい (14 件)

- ・ 話したことを一人でも多くの一般の方へ伝える方法を考えてもらいたい。
- ・ 今回出た問題点や改善案をぜひ実現してほしい。
- ・ 市民の声を聞く機会で、参加したことで、課題に気づいたり、なぜそうなっているのかを考えるなど、様々な立場の方達から話を聞くことで明確になると感じます。課題解決のための計画や施策になることを期待しています。
- ・ すべての意見について評価をお願いしたい。このディスカッションがどのように反映されたのか何かの機会に発表してほしい。

◆課題共有できてよかった (13 件)

- ・ 問題・課題の共有、見える化はとても大切であり、貴重な機会でした。
- ・ 皆さんが同じような悩み、困難さを抱えながら活動されていることが分かった。
- ・ 現状の制度やルールでは対応できない様々な課題があふれているので、本日、いろいろな意見を聞くことができ、勉強になりました。
- ・ 多くの方が出席し、地域の課題が共有できたことがよかった。

◆継続的にグループディスカッションを開催してほしい (12 件)

- ・ グループディスカッションを続けることが大事だと思います。
- ・ 日頃から関係機関が集まって話のできる場（定期的）があるとよいと思います。
- ・ 1 回だけの打合せではなく継続的に取組をしてほしい。

◆今後は小規模でグループディスカッションを開催してほしい (5 件)

- ・ 武蔵台圏域でのディスカッションを考えます。
- ・ 片町は片町、住吉町は住吉町で、単独でできればよいと思います。
- ・ 小さな地域でこのような会ができるとうよいと思います。

◆グループディスカッションの方法について (11 件)

- ・ 地域の課題の抽出、対応策を話し合うことは建設的でよかった。
- ・ 意見を明確に分類できて、思考を先に進めやすく、よいディスカッションになった。
- ・ 時間が短い。
- ・ グループディスカッションが苦手な方もおり、配慮が必要かと思いました。

◆グループディスカッションに参加してよかった（8件）

- ・ 貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。
- ・ 他の地域の方の意見を聞くことができてよかった。
- ・ 参加してよかったです。

◆話し合った具体的な内容について（6件）

- ・ 男女終身労働時代になり、なり手がいない。特に次を託す 40～50 代が入ってこない。行政の協力を得て、構成員が仕事をしていても活動できる組織にしていかなければならない。このままだと社会福祉ボランティア団体はすべて無くなってしまう。
- ・ 「個人情報保護」が活動の邪魔になるかのような発言が相次いだ。私は経験したことがない。「個人情報」の言葉に「尻込み」をしているのではないかと思った。
- ・ 大変勉強になりました。自治会と民生委員、地域包括支援センターとの個人情報共有が問題点。

◆圏域別データについて（3件）

- ・ 圏域データに単身世帯数、高校や大学の情報もあるとよいと思います。
- ・ 自分たちの圏域のデータを見ることができてよかったと思いました。地域を考えると、高齢者とともに、どう資源を生かしていくのか大きな課題ですが、今日のことを参考にさせていただきます。

地域福祉、高齢・介護、障害分野計画策定のために実施する調査 結果まとめ

地域福祉分野アンケート調査から

【協働による地域づくり】

◆地域で親しくつきあう人、地域活動に取り組む人の割合は前回調査よりやや減ったが、活動意向のある人は55.6%となり、きっかけづくりが重要である。(地域づくり)

【包括的な相談支援体制づくり】

◆相談窓口の認知度では「地域福祉コーディネーター」3.5%、「権利擁護センターふちゅう」1.3%が低くなっている。優先的に取り組むべき福祉施策は、「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多く、相談支援の充実が求められる。(相談支援)

◆【広報ふちゅう】等の紙媒体だけでなく、【市ホームページ】や【インターネットサイト】など、新たな情報提供方法への希望が大きい。(情報提供)

【安心して暮らせる仕組みづくり】

◆老々介護、8050問題など、複雑化・複合化した困りごとを抱える人・世帯が一定程度いる。また市民の38.4%が社会から孤立感をもっている。(生活課題の解決)

◆将来また亡くなった後の不安を抱える人が多く、終活へのニーズが強い。(権利擁護)

◆地域の防災対策に満足しているのは31.6%である。災害に備えて地域で取り組むとよいと思うことは、「物資の備蓄」、「地域住民同士の声かけや安否確認」、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」が多い。(避難行動要支援、防災)

◆74.6%の人が、災害時に手助けが必要な方への、担い手となれると回答。

【これからの福祉のまちづくり】

◆市民の居住継続意向は9割を超え、住み続けたい意向を持つ人が多い。(居住継続)

◆まちのユニバーサルデザインについて【整備されている】とする割合は、前回同様。

◆福祉のまちづくりのために優先的に取り組むことは、道路整備、安全、安心に暮らすための体制整備、公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン。(福祉のまちづくり)

11圏域別グループディスカッションから

地域の課題

- ◆困りごとを抱える人や世帯の増加
- ◆地域の繋がり・活動・担い手の不足
- ◆防災や防犯への不安と備えの必要性
- ◆環境の変化によるインフラの充実

地域の“ちから”(人・場所・活動)を活かしてできること

- ◆困りごとを抱える人・世帯の支援
 - ◇見守り・訪問・傾聴 ◇買い物支援、移動販売の充実
 - ◇助け合い活動 ◇困りごと、地域課題を解決する仕組みづくり
- ◆地域のつながり・活動の活性化、担い手充実
 - ◇行事・イベントの実施等 ◇交流・居場所づくり
 - ◇地域活動団体、関係機関同士、行政の連携強化
 - ◇(地域)情報の発信の工夫 ◇担い手の確保・育成、若い世代
 - ◇(個人)情報の提供及び共有の仕組みづくり
- ◆防災・防犯対策
 - ◇防災訓練、避難行動要支援者対策、防災を話し合う場づくり
- ◆地域資源の活用・インフラ整備
 - ◇文化センター等の地域資源の活用(拠点化)
 - ◇空き家・スペースの活用

高齢者福祉分野アンケート調査から

【健康づくり・介護予防】(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から)

○今回の調査は回収率も高く、また、市の高齢者が心身とも元気で活動的になったことが明らかになった。その一方で誰かと食事をともにする機会があるとの回答は1.4ポイント低下、どこに相談すればよいか分からない困りごとを抱える人も16%おり、一人暮らしが増える中で相談支援やつながりあいが必要となっている。(健康づくり・介護予防)

○働けるうちはいつまでも働きたいと考えている高齢者が増え、雇用の促進やマッチング機能の強化などの環境が求められている。(生きがいづくり)

【相談支援・生活支援・在宅療養支援・介護者支援】(居宅サービス利用者調査から)

○暮らしの問題や困りごとを、ケアマネに相談している人が最も多い。また、地域包括支援センターに相談する割合が前回から10ポイント上昇した。地域包括支援センターの圏域が新たに、地域包括支援センターが、利用者にとってより身近な存在となった。(相談支援)

○「住まいの物理的な障壁」、「買い物をする場所が近くにない」等に生活の困りごとを抱える人が多く、生活支援ニーズが高くなっている。(生活支援)

○人生の最期を話し合ったことがない人は約半数。在宅療養を希望する人がまだ少なく、在宅療養サービスの認知度は介護保険サービスと比べても低い。今後は、相談や医療介護の連携などの仕組みづくりと市民啓発が課題となっている。(在宅療養支援)

○情報提供、家族が休息できる機会等介護者支援が課題。(介護者支援)

【安心して暮らせる仕組みづくり】(ニーズ調査、居宅サービス利用者調査から)

○どちらの調査でも、災害に備えて「特にしていない」という人が3~4割以上である。近所付き合いとして、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が35%前後と最も多いことから、災害時に備えるため、日頃の互いに支え合う体制づくりが必要である。(防災)

【地域包括ケアシステムの深化・推進】

(居宅サービス利用者調査、介護サービス提供事業者調査、介護支援専門員調査、医療機関調査から)

○介護支援専門員の新たな担い手が減り高齢化が進んでいる。(介護支援専門員調査、運営)

○介護職の年齢も上昇する状況にある。経験が1年未満の職員では、介護以外の分野から入職した人が多く、若い世代の人材の確保・育成が課題となっている。(事業者調査、運営)

○高齢者の生活課題が複雑化、複合化するなか、ケアマネが困難事例に直面したり、多様な対応が求められるようになった。(介護支援専門員調査、研修・質の向上)

○職員研修は十分実施できているが、余裕がないとする事業所も多く、研修ニーズも多様化、変化している。(事業者調査、研修・質の向上)

○認知症のある人の対応が増えるなか、認知症ケアの社会資源、本人と家族への支援、適切なサービス提供の流れの周知が求められている。(事業者調査、認知症ケア)

○在宅療養者の【医療・介護連携】は連携できているとの評価が高い。今後の連携のために、医療・介護の関係者間で共通の目的の設定、インターネット上での連携システムの推進等が課題として挙げられている。(事業者調査・医療機関調査、在宅療養支援)

○地域包括ケアシステムの深化・推進には、元気な方から軽度、中重度までのサービス提供体制の充実、介護・医療の連携、認知症ケア、在宅療養、住民関係機関、多様な主体と連携し地域づくりを進めていくことが重要である。(事業者・医療機関調査、保険者機能強化)

障害者福祉分野アンケート調査から

【差別解消】(障害がある人への調査、子どもの育ちと発達調査から)

○ノーマライゼーションの理念が理解されているかに「はい」と回答する人は3割弱となっており、すべての市民への理解を深める方策を講じることが課題である。

【地域生活支援・活動支援・介護者支援】

(障害がある人への調査、子どもの育ちと発達調査から)

○サービス利用に際してアクセスや緊急時の体制の整備が求められている。

○サービスの満足度は概ね高い。「希望する曜日や時間帯」等の利用方法の周知や、「緊急時」などの柔軟な提供体制が必要である。

○「介助者への経済的支援」、「医療機関のサービスの充実」、「相談体制の強化」が必要とされ、さらなる介助者・介護者支援が必要である。

【就労支援】(障害がある人への調査から)

○希望する就労形態は、身体障害は「家の近くに働く場所がある」、知的障害は「適した仕事が開拓される」、精神障害・難病は「健康状態にあわせて働ける」が多い。

【障害児支援】(子どもの育ちと発達調査から)

○就学前に障害に気づき、健診からの医療機関へのつなぎはうまく行われている。子ども発達支援センター、地域生活支援センターのいっそうの周知が必要である。

○災害時への不安の解消や支援体制、避難所での配慮は、大人の調査と同様、個室や間仕切りへの対応、医療や医薬品の確保等が課題となっている。

○希望する施策として、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」、「利用できる通所施設を整備すること」、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」が多い。

【相談支援・情報提供・基盤整備】(団体調査、事業者調査から)

○「相談支援体制」、「災害時の支援(必要な支援)」、「地域共生社会に向けた協働内容」などとなり、広く支援が求められている。

○自由記述には「インクルーシブ教育」、安心して生活できる環境づくり、「災害時の支援体制や避難所」、「地域生活支援、住まい等の充実」への意見があった。

【共生のまちづくり】(団体調査、事業者調査から)

○地震や災害など緊急時に、ひとりで避難できる人は半数にとどまり、困ること・不安なこととして、避難所での問題が挙げられている。

○人材の確保・育成・定着についての課題、「採用募集をかけても応募がない」が6割近くと半数以上で、様々な媒体を活用しながらの採用・求人活動することが求められている。

○市への要望としては、「人材確保のための取り組み」、「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備」、「障害のある人とその家族が安心して暮らせるための相談体制」などが多くなっている。

地域福祉、高齢者、障害者アンケート共通質問から

近所づきあいの現状

- ◆【親しく近所づきあいをしている】割合は、一般市民で32.5%、高齢者・ニーズ調査で45.7%、高齢者・居宅サービス調査で40.3%、障害者で26.0%、障害児保護者で42.7%となっており、高齢者・ニーズ調査で最も高い。
- ◆障害者で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が16.5%で他の調査に比べ高い。

主観的幸福度

- ◆【主観的幸福度】平均点は、一般市民で6.9点、高齢者・ニーズ調査で7.2点、高齢者・居宅サービス調査で6.9点、障害者で6.2点、障害児保護者で6.6点となっており、高齢者・ニーズ調査が最も高い。
- ◆4点以下の割合は、一般市民で11.1%、高齢者・ニーズ調査6.0%、高齢者・居宅サービス調査は9.7%、障害者は18.8%、障害児保護者は16.1%であり、障害者で最も高い。

包括的な相談の支援

- ◆どこに相談したらよいか分からない悩みがある人は一般市民で14.6%。高齢者・ニーズ調査16.1%、高齢者・居宅サービス調査22.8%、障害者30.1%、障害児保護者42.4%である。
- ◆悩みがある人の悩みの内容は、一般市民は「お金(財産管理・相続含む)」、高齢者・ニーズ調査、高齢者・居宅サービス調査は「自分の健康・病気」、障害者は「自分・配偶者の健康・病気」、障害児保護者は「子どもの将来の生活のこと」が最も多い。

困りごとの相談

- ◆困りごとの相談相手がない割合は、一般市民で4.3%、高齢者・ニーズ調査で3.2%、障害者で11.7%、障害児保護者で13.7%となっており、障害児保護者で最も高い。

府中市への居住継続意向

- ◆今後の府中市への居住継続意向は、どの調査も高く、どの調査でも市外に移りたいと考えている割合は1~3%程度にとどまっている。

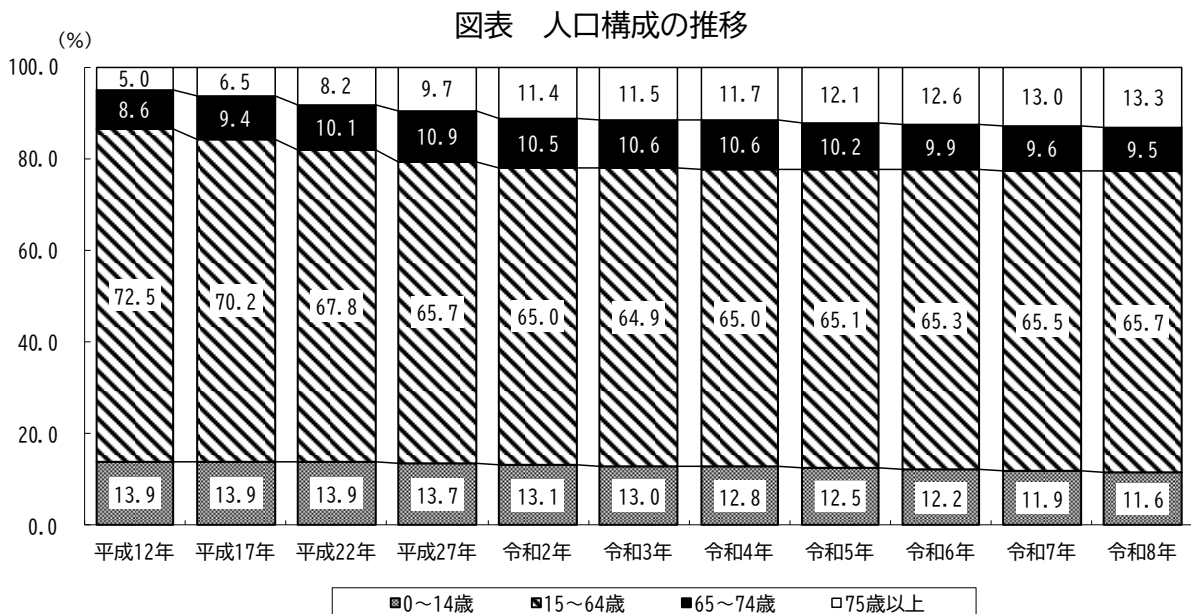
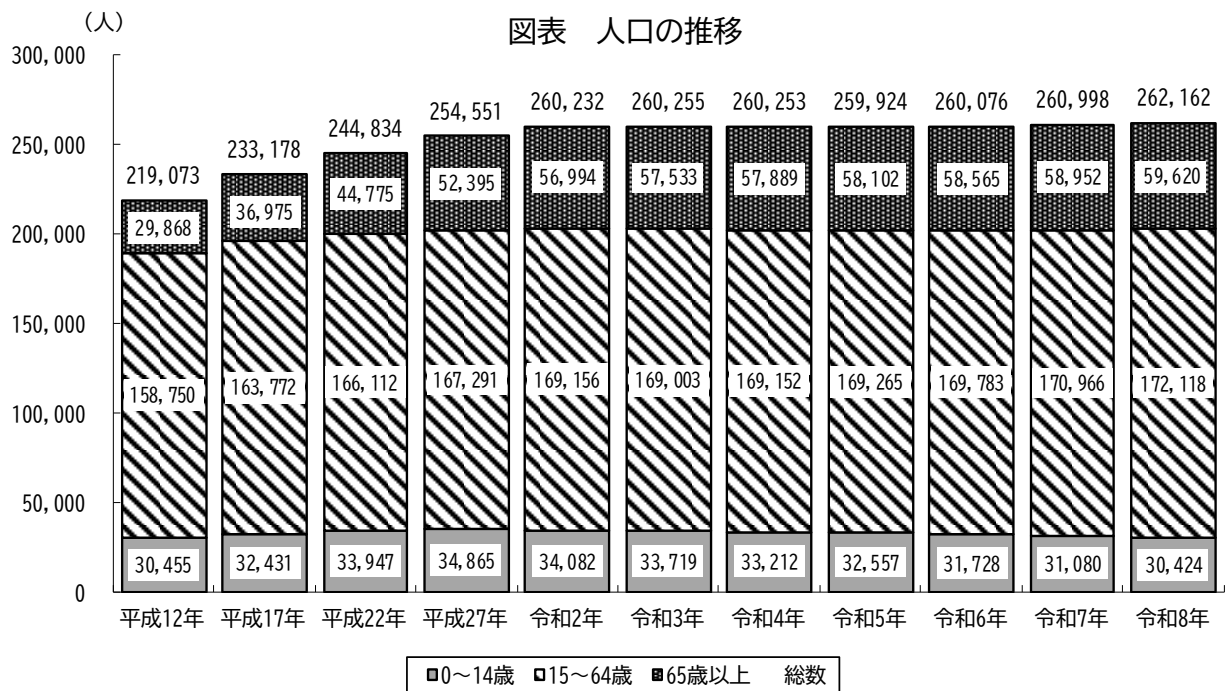
府中市の福祉に関する現状

- 1 人口・世帯
 - (1) 人口
 - (2) 世帯数及び世帯人員
 - (3) 世帯構成
 - (4) 昼間・夜間・流入・流出人口
 - (5) 人口推計
- 2 高齢者
 - (1) 高齢化率、後期高齢化率
 - (2) 高齢者世帯
 - (3) 要介護認定者
- 3 障害者
 - (1) 障害者手帳所持者
 - (2) 難病患者
- 4 子ども・子育て
 - (1) 子どもの人数
 - (2) 合計特殊出生率
 - (3) ひとり親世帯
- 5 市民生活
 - (1) 労働力率
 - (2) 生活保護世帯数及び人員
 - (3) 外国人住民
 - (4) 自治会・町会等
 - (5) 市民活動
 - (6) 文化センターの利用状況
- 6 相談及び支援等
 - (1) 福祉総合相談
 - (2) 高齢者
 - (3) 障害者
 - (4) 子ども・子育て
 - (5) 生活困窮者
 - (6) 女性問題相談
 - (7) 民生委員・児童委員による支援
 - (8) 地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーターによる支援

1 人口・世帯

(1) 人口

本市の人口は令和2年以降26万人程度で横ばいであり、令和8年1月1日時点の人口は、26万2,162人です。そのうち、65歳以上の高齢者人口は、5万9,620人で、令和2年から令和8年までの6年間で2,626人増加しています。また、0歳から14歳までの年少人口は、3万424人で、令和2年以降減少傾向にあります。



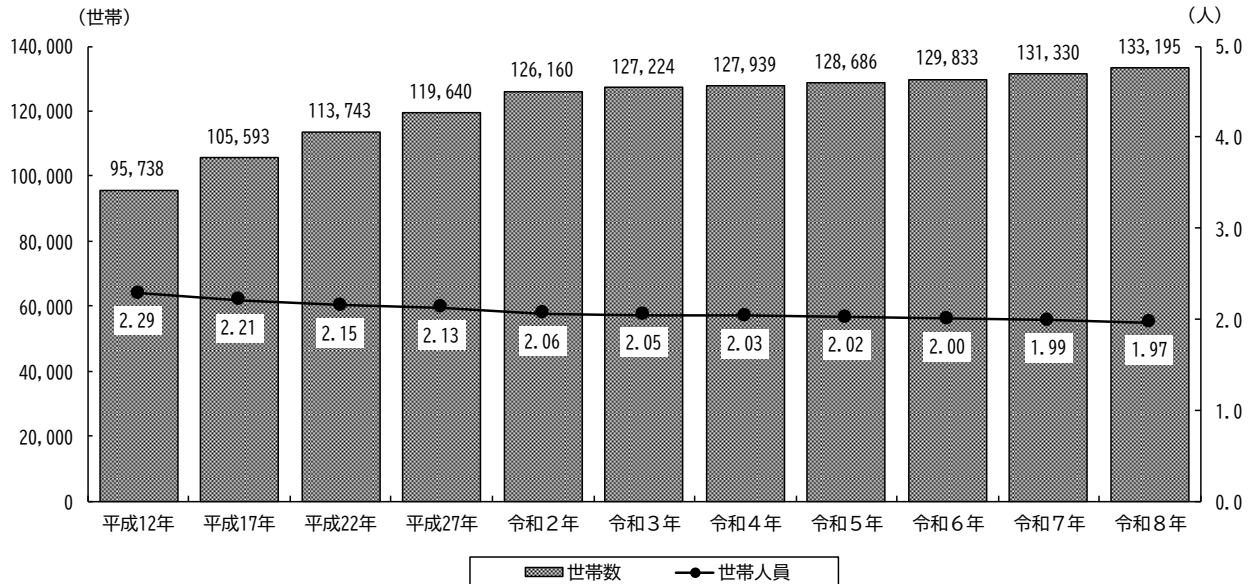
※ 平成24年7月に外国人登録制度は廃止され、外国人住民も日本人住民と同様に住民基本台帳に記載されることとなりました。

出典：府中市「住民基本台帳」（各年1月1日）

(2) 世帯数及び世帯人員

世帯数は、増加を続けており、令和8年1月1日時点の世帯数は13万3,195世帯です。しかしながら、一世帯当たりの世帯人員は縮小傾向にあり、小世帯化が進んでいます。

図表 世帯数及び世帯人員の推移

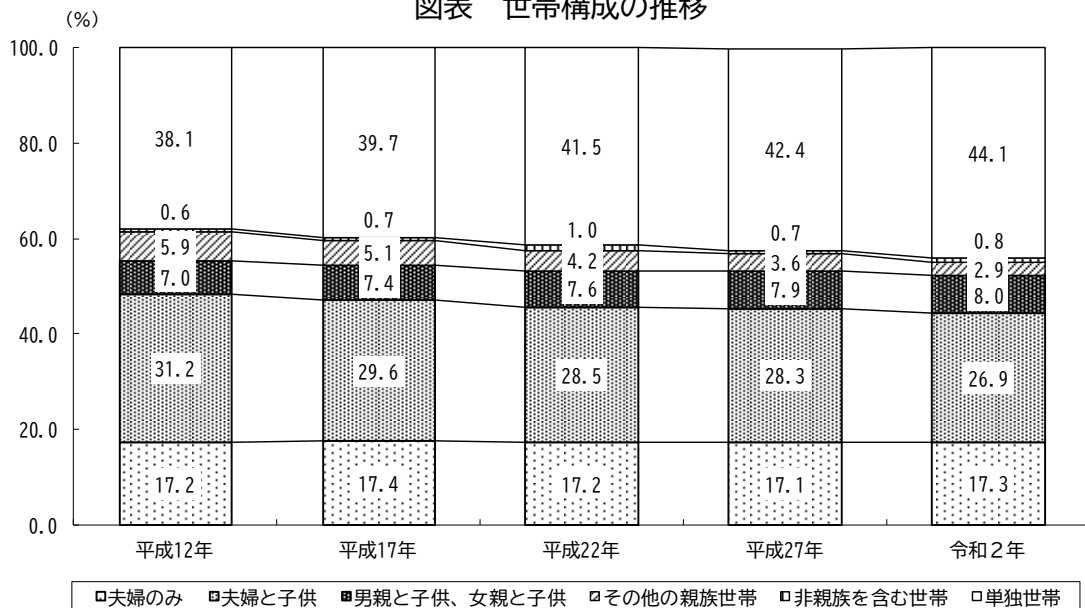


出典：府中市「住民基本台帳」(各年1月1日)

(3) 世帯構成

世帯構成は単独世帯の割合が高くなっており、令和2年には全世帯の44.1%を占めています。

図表 世帯構成の推移



出典：総務省「国勢調査」(各年10月1日)

(4) 昼間・夜間・流入・流出人口

平成7年から令和2年までの25年間で昼間人口は約3.9万人、夜間人口は約4.7万人増加しています。令和2年の市外から市内へ通勤・通学をする流入人口は、6万1,968人であるのに対し、市内から市外へ通勤・通学をする流出人口は、7万6,264人と、市外へ通勤・通学をする市民が多いことが分かります。

図表 昼間・夜間・流入・流出人口の推移

区分	昼間人口 (人)	流入人口(人)			流出人口(人)			夜間人口 (人)	昼間人口指数 (夜間=100)
		総数	通勤者	通学者	総数	通勤者	通学者		
平成7年	210,521	70,788	62,635	8,153	76,393	62,504	13,889	216,126	97
平成12年	221,456	70,447	62,615	7,832	75,638	63,120	12,518	226,647	98
平成17年	236,133	66,784	59,555	7,229	75,943	65,001	10,942	245,292	96
平成22年	246,380	64,374	58,095	6,279	78,485	66,692	11,793	255,506	96
平成27年	245,693	64,445	58,020	6,425	80,151	69,198	10,953	260,274	94
令和2年	249,891	61,968	56,425	5,543	76,264	66,933	9,331	262,790	95

※ 通学者は、15歳未満の通学者を含みます。

出典：総務省「国勢調査」(各年10月1日)

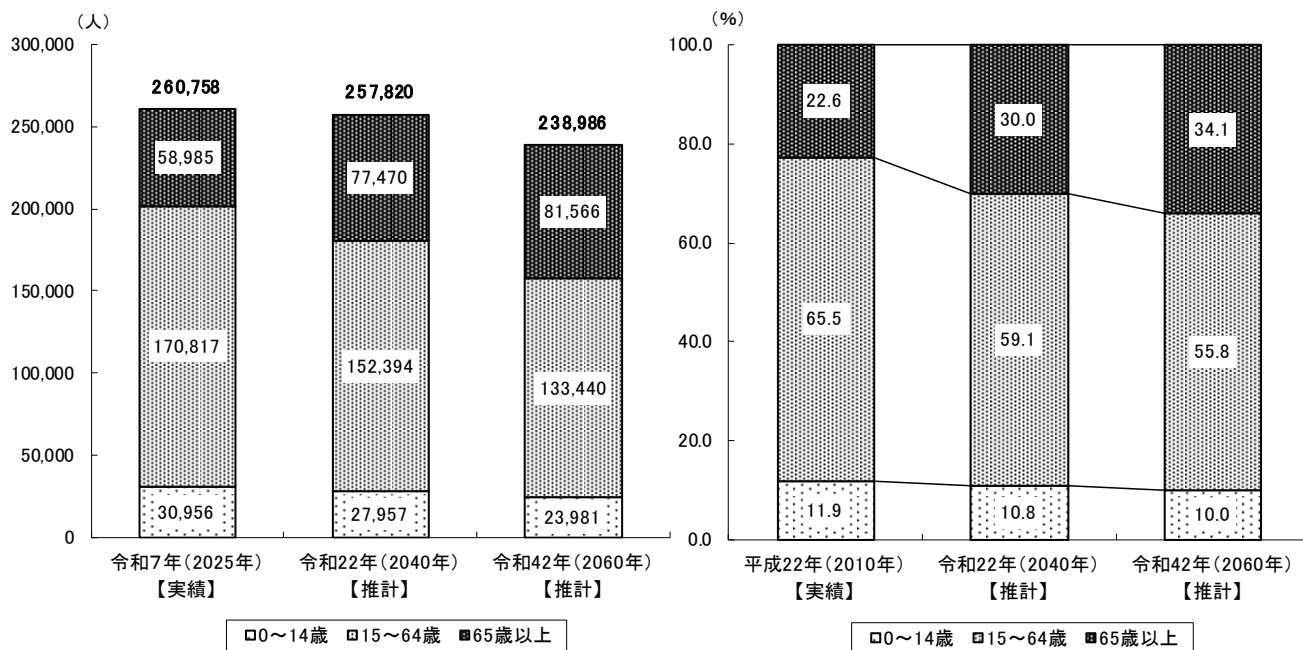
(5) 人口推計

第7次総合計画(後期)人口推計によると、本市は、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)が減少し、高齢人口(65歳以上)が増加することが予測されており、総人口では減少が進むと予測されています。高齢化率は、令和22年には団塊ジュニア世代が高齢者となり急激に進み30.0%、令和42年には34.1%となることが予測されています。

図表 人口推計(第7次総合計画(後期)人口推計結果)

【3区分別人口】

【3区分別人口の割合】

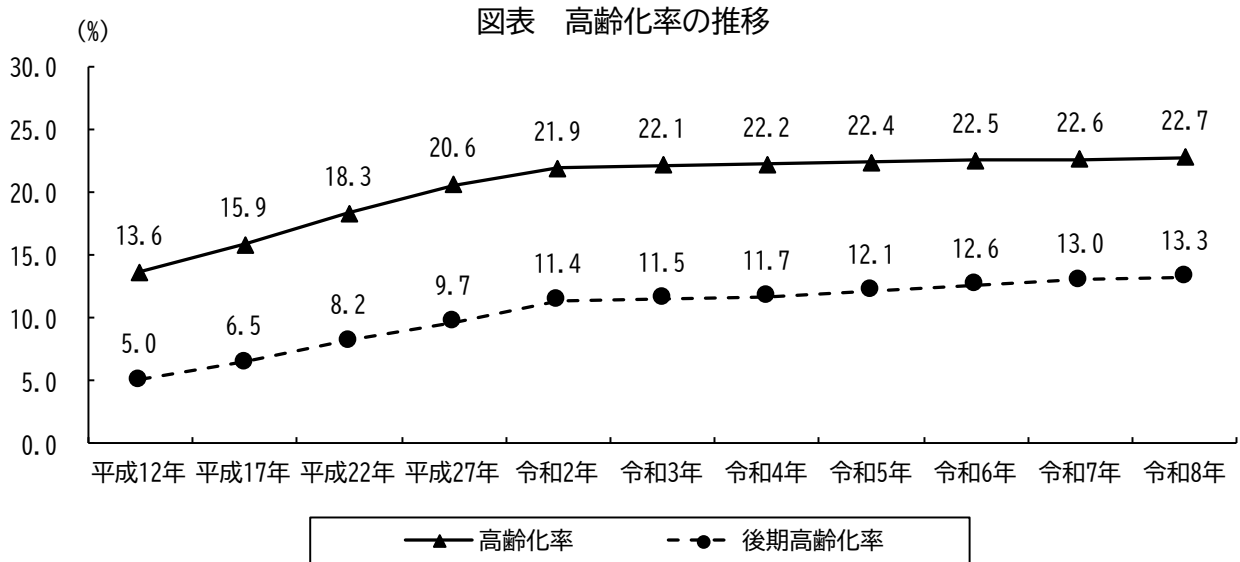


出典：「第7次総合計画(後期)人口推計結果」

2 高齢者

(1) 高齢化率・後期高齢化率

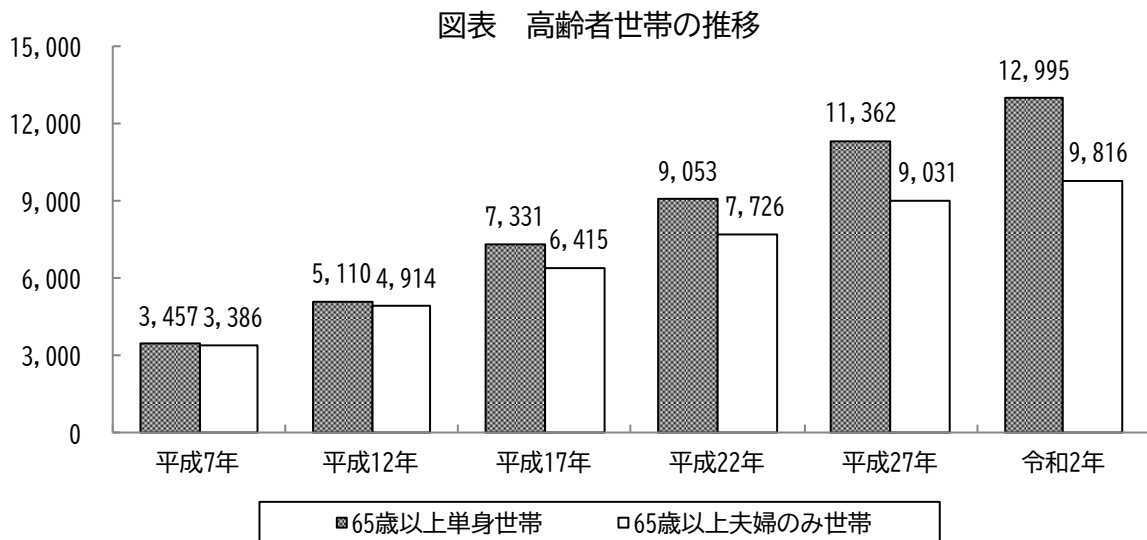
本市の高齢化率は上昇傾向にあります。令和8年時点の高齢化率は、22.7%で、75歳以上の後期高齢化率は、13.3%です。



出典：府中市「住民基本台帳」(各年1月1日)

(2) 高齢者世帯

本市の65歳以上の単身世帯は増加傾向にあり、令和2年には1万2,995世帯となっています。65歳以上の夫婦のみ世帯も増加傾向にあり、令和2年には9,816世帯となっています。

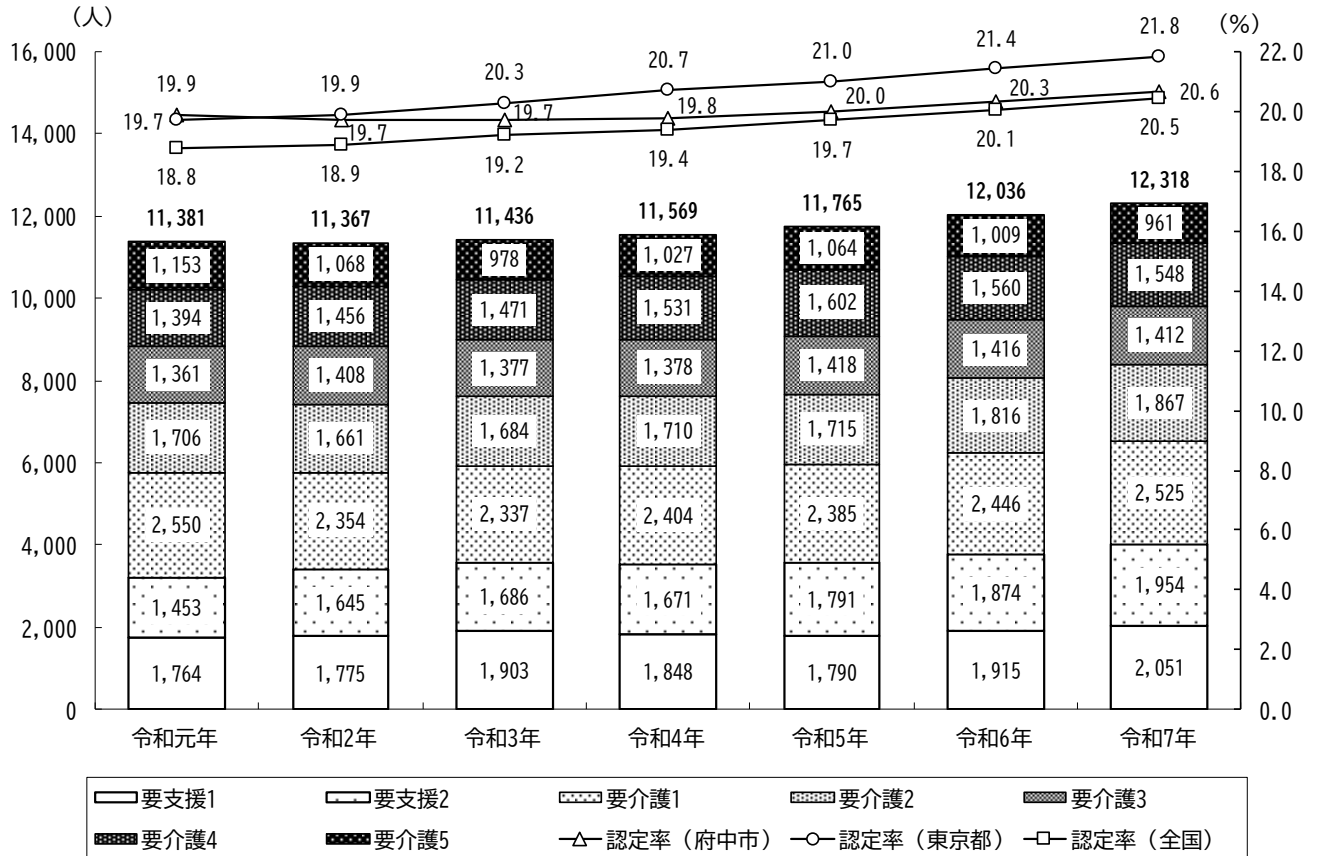


出典：総務省「国勢調査」(各年10月1日)

(3) 要介護認定者

本市の要介護（要支援）認定者数及び認定率は増加（上昇）傾向であり、令和7年には12,318人（認定率：20.6パーセント）となっています。

図表 要介護（要支援）認定者数・認定率の推移（第1号・第2号被保険者）



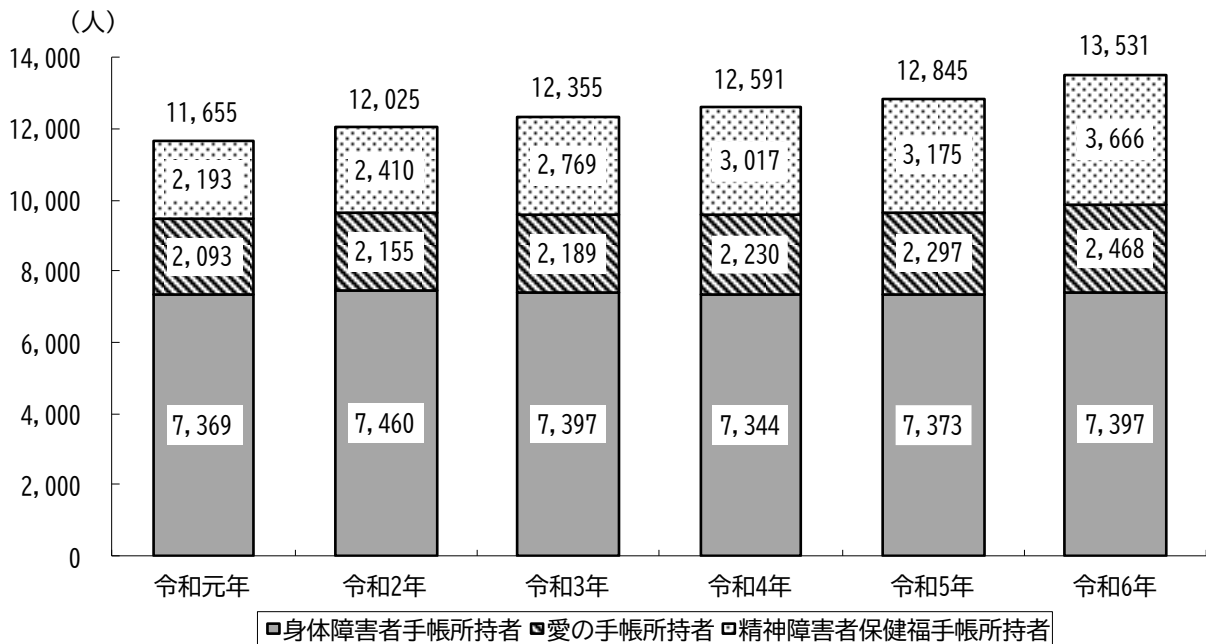
出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告月報」（各年9月末現在）

3 障害者

(1) 障害者手帳所持者

本市の令和6年3月31日時点の身体障害者手帳、愛の手帳及び精神保健福祉手帳の所持者を合計した人数は、1万3,531人です。総人口に占める障害者手帳所持者数の割合は、5.2%となっています。

図表 障害者手帳所持者数の推移



(単位：%)

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
身体障害者手帳所持者	63.2	62.0	59.9	58.3	57.4	54.7
愛の手帳所持者	18.0	17.9	17.7	17.7	17.9	18.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	18.8	20.0	22.4	24.0	24.7	27.1
総人口に占める障害者手帳所持者数の割合	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.2

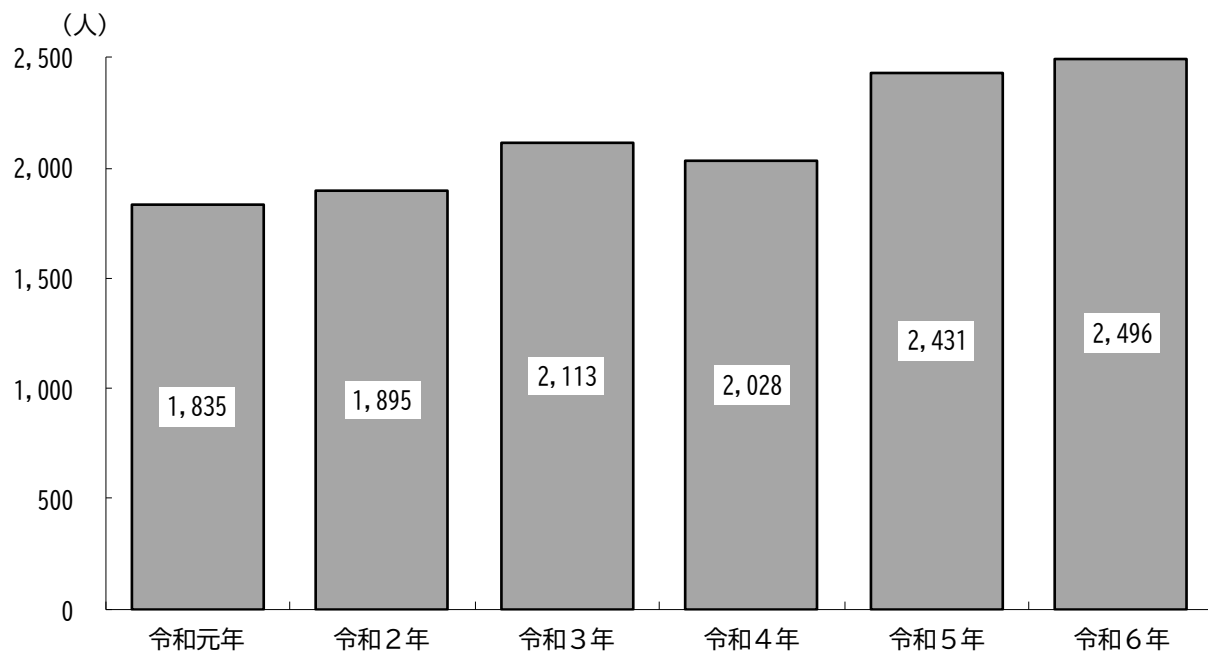
※ 重複障害者を含むため、合計は延べ人数となります。

出典：府中市「事務報告書」(各年3月31日)

(2) 難病患者

難病患者（特殊疾病認定患者）数は、増加傾向であり、令和6年3月31日時点では2,496人となっています。

図表 難病患者数の推移

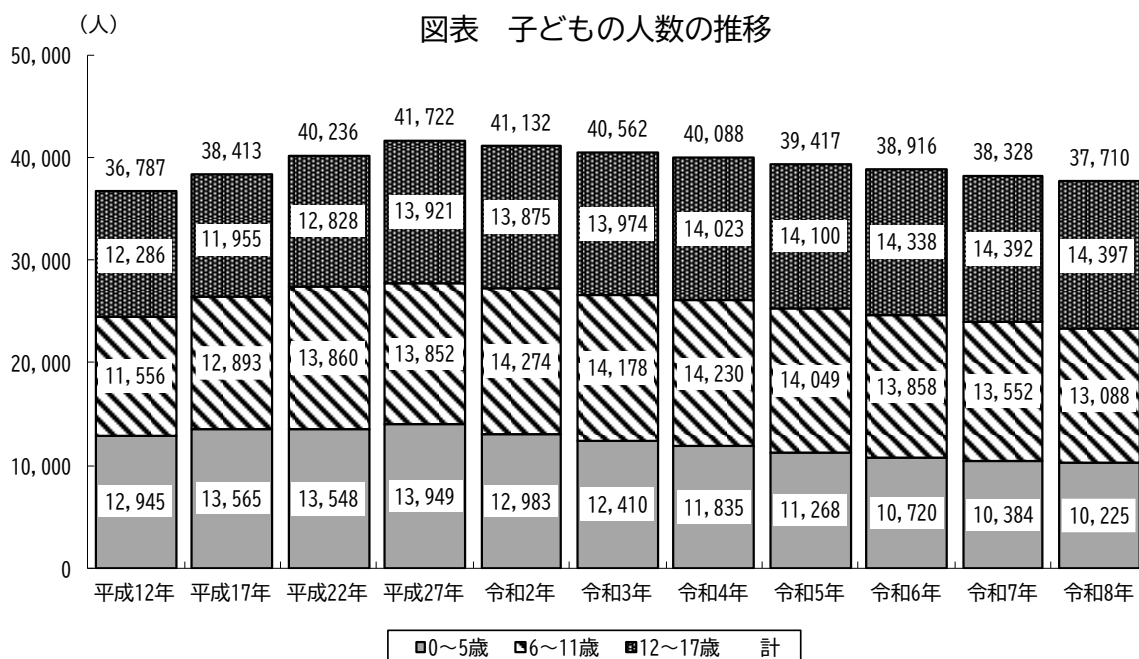


出典：東京都「福祉・衛生統計年報」（各年3月31日）

4 子ども・子育て

(1) 子どもの人数

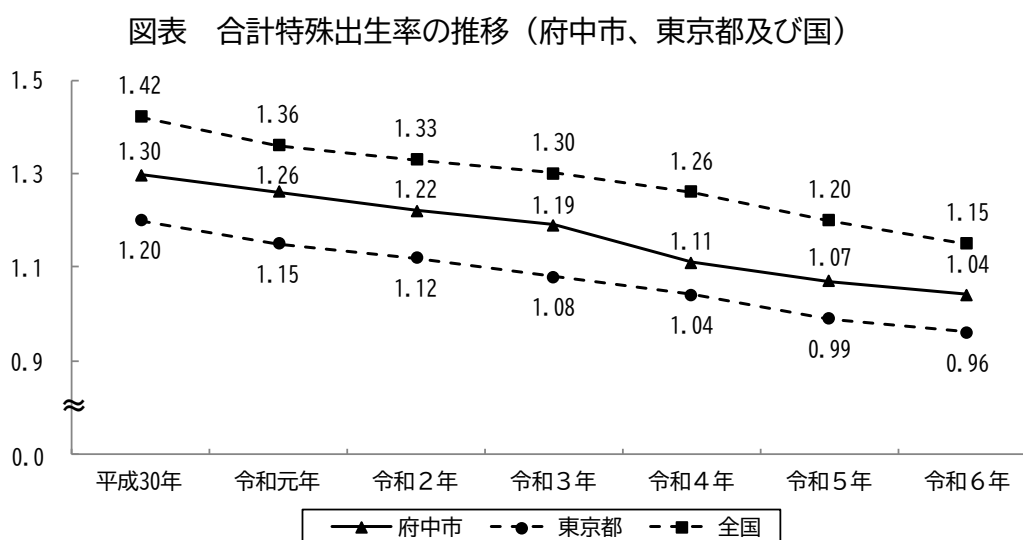
子ども(0～17歳)の人数は平成27年以降、減少傾向にあり、令和8年1月1日時点では、3万7,710人です。そのうち、0～5歳の乳幼児は1万225人であり、令和2年から令和8年までの6年間で2,758人減少しています。



出典：府中市「住民基本台帳」(各年1月1日)

(2) 合計特殊出生率

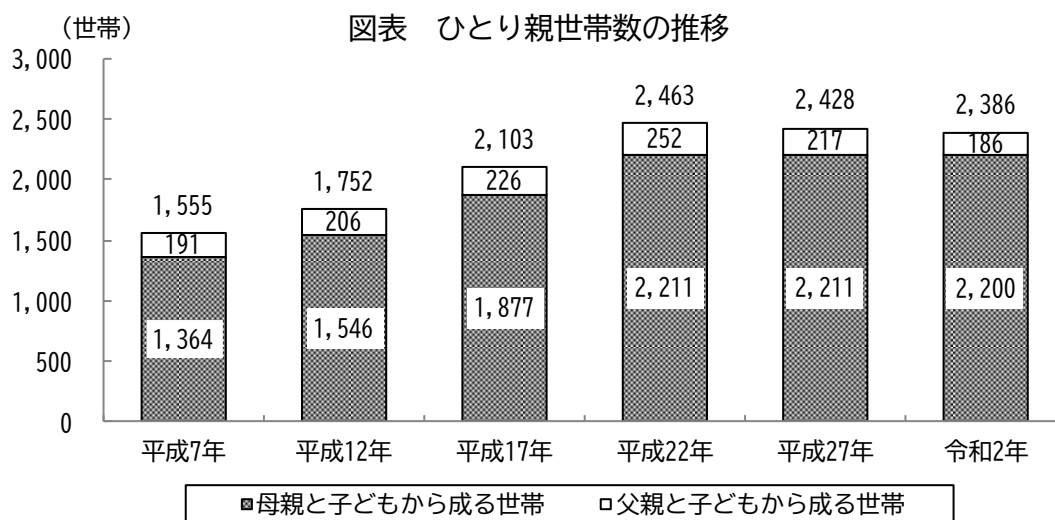
本市の令和6年時点の合計特殊出生率は、1.04です。東京都の平均に比べると高い値で推移していますが、全国平均に比べると、低い値で推移しています。



出典：東京都「人口動態統計」

(3) ひとり親世帯

本市のひとり親世帯は、平成22年までは増加傾向にありましたが、平成22年から令和2年にかけては減少しています。令和2年時点のひとり親の世帯数は、2,386世帯で、その内訳は、母親と子どもから成る世帯が2,200世帯、父親と子どもから成る世帯が186世帯となっています。



※18歳未満親族のいる一般世帯

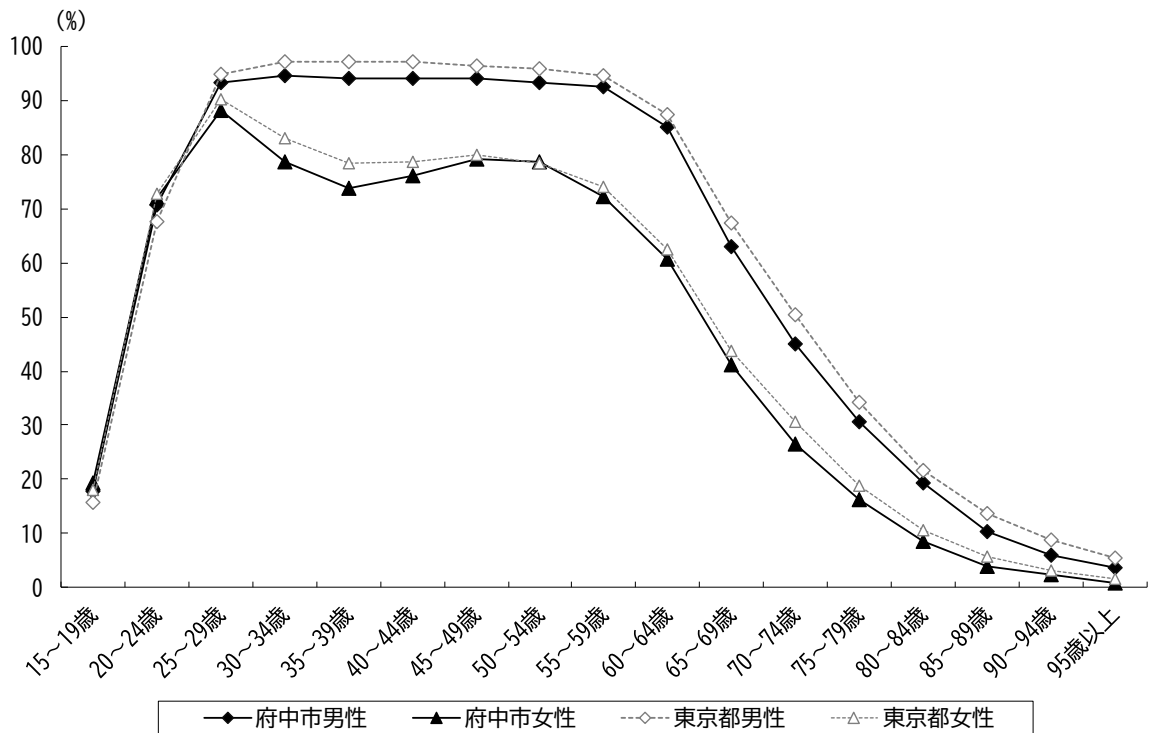
出典：総務省「国勢調査」(各年10月1日)

5 市民生活

(1) 労働力率

本市の男性の労働力率は、25歳から59歳では9割を超えています。女性の労働力率は30歳代で低下し、40歳代で上昇するいわゆるM字カーブを描いています。東京都の平均値と比較すると、本市のM字の谷の方が深くなっています。

図表 令和2年の男女別15歳以上年齢階級別労働力率



(単位：%)

区分	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳
府中市	男性	17.8	70.8	93.3	94.6	94.0	94.0	94.1	93.4
	女性	19.4	72.0	88.1	78.7	73.7	76.1	79.2	78.6
東京都	男性	15.7	67.7	94.8	97.1	97.2	97.1	96.5	95.8
	女性	18.1	72.7	90.3	83.0	78.4	78.6	79.9	78.5

区分	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85歳以上	90~94歳	95歳以上
府中市	男性	85.1	62.9	45.0	30.7	19.4	10.2	6.0
	女性	60.6	41.2	26.6	16.2	8.5	3.9	2.3
東京都	男性	87.5	67.3	50.5	34.3	21.6	13.6	8.7
	女性	62.5	43.8	30.6	18.8	10.5	5.6	3.3

出典：総務省「国勢調査」(令和2年10月1日)

(2) 生活保護世帯及び人員

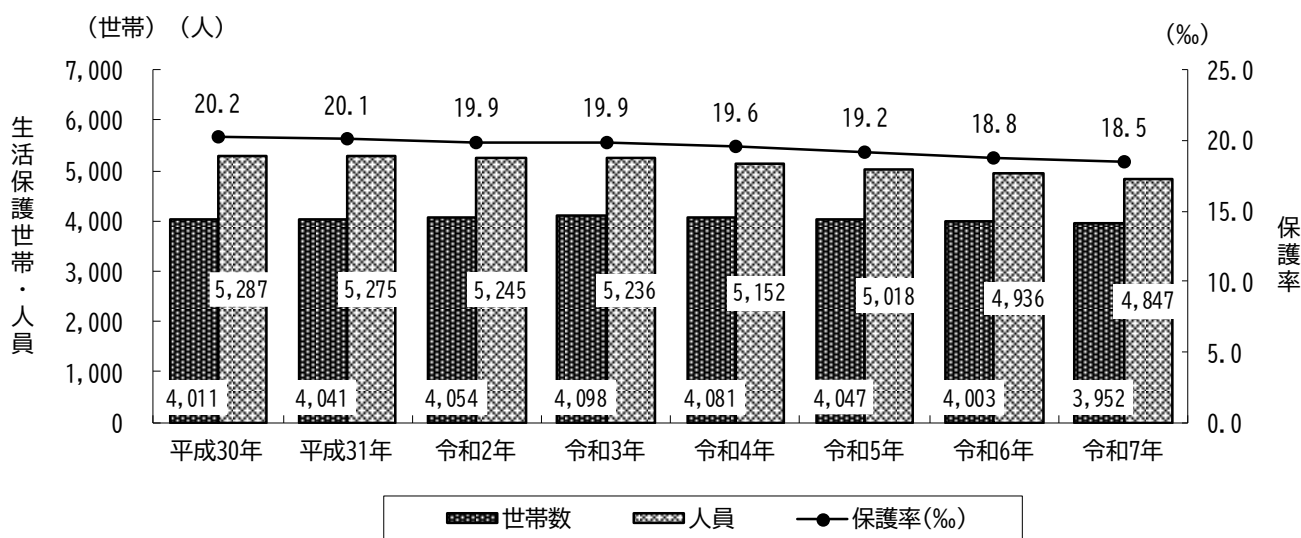
本市の生活保護世帯数及び人員は、令和3年以降、微減傾向です。令和7年3月31日時点の生活保護世帯及び人員は、3,952世帯及び4,847人で、保護率(※)は、18.5%です。

世帯類型別被保護世帯は、一貫して高齢者世帯が最も多い状況です。

※ 保護率：人口に対する保護人員の割合。1,000人当たりの比率であるパーミルで表す。

(保護人員/推計人口) × 1,000 (単位 %))

図表 生活保護世帯及び人員の推移



出典：府中市「統計書」(各年3月31日)

図表 世帯類型別被保護世帯数の推移

(単位：世帯)

区分	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
高齢者世帯	1,900	1,916	1,943	1,926	1,922	1,947	1,930
母子世帯	295	306	285	276	249	231	218
傷病者世帯	567	538	499	462	447	413	394
障害者世帯	395	382	378	386	368	358	362
その他世帯	809	859	898	1,004	1,058	1,060	1,060

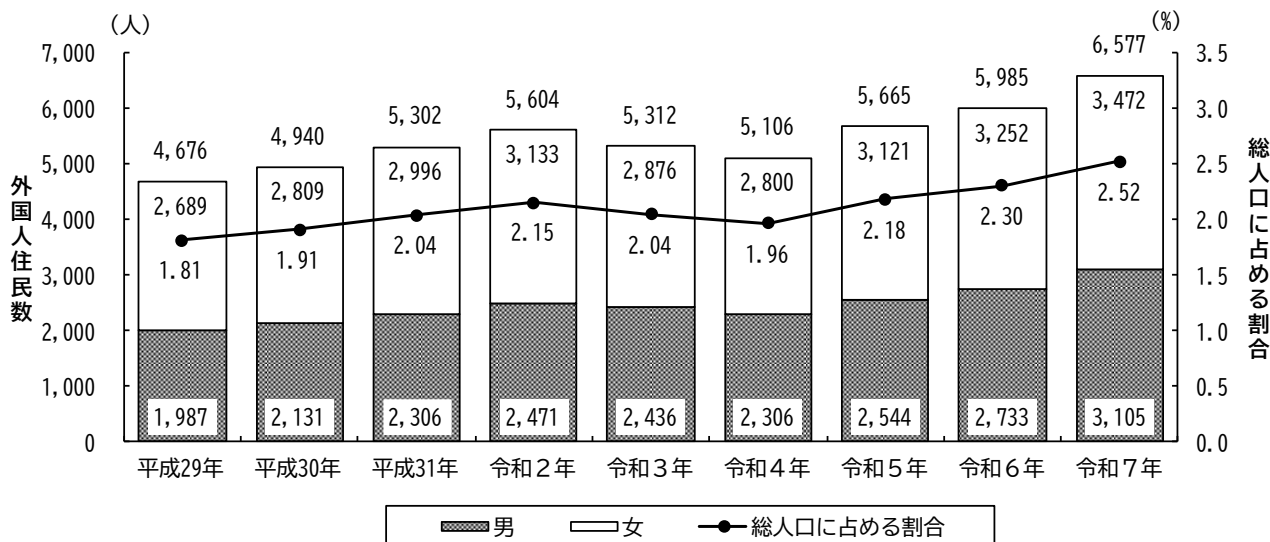
※ 停止世帯を除く

出典：府中市「事務報告書」(各年3月31日)

(3) 外国人住民

外国人住民は、令和2年から令和4年にかけて減少しましたが、令和4年以降は増加傾向にあり、令和7年1月1日時点では、6,577人で、総人口に占める割合は2.52%です。

図表 外国人住民の推移



出典：府中市「統計書」（各年1月1日）

(4) 自治会・町会等

本市には、令和7年4月1日時点で379の自治会があり、6万5,244世帯が加入しています。加入世帯数を総世帯数で割った加入割合は、49.6%と50%未満となっています。

図表 届出自治会数・加入世帯数の推移

区分	届出自治会数	加入世帯数	総世帯数	加入割合
令和2年度	393	69,452	126,607	54.9%
令和3年度	391	68,819	127,832	53.8%
令和4年度	390	68,045	128,288	53.0%
令和5年度	386	66,845	128,763	51.9%
令和6年度	383	66,081	130,070	50.8%
令和7年度	379	65,244	131,430	49.6%

出典：府中市「事務報告書」（各年4月1日）

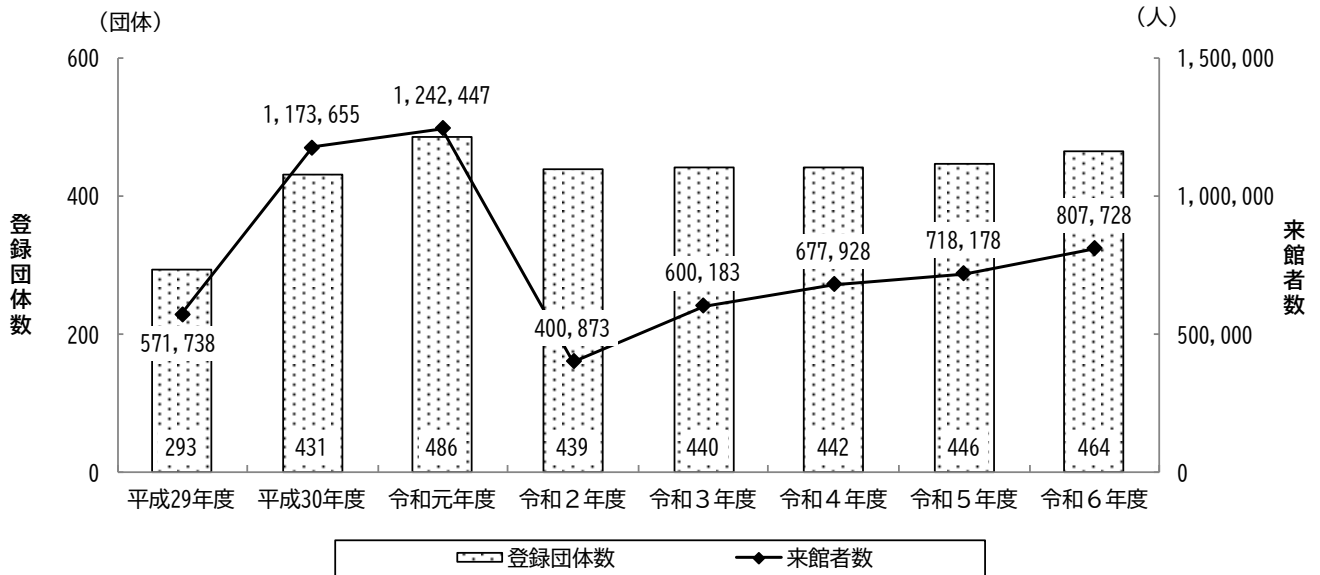
※世帯数は府中市「住民基本台帳」（各年1月1日）

(5) 市民活動

① 市民活動センター「プラッツ」の登録団体、来館者数

平成29年7月に開館した市民活動センター「プラッツ」の登録団体数、来館者数は、コロナ禍を経て、令和2年度以降増加傾向にあります。令和6年度では、登録団体数は464団体、来館者数は80万7,728人です。

図表 市民活動センター「プラッツ」登録団体と来館者数の推移



出典：府中市「統計書」

② NPO法人

市内のNPO法人数は、令和6年12月31日現在で97法人であり、活動の分野は、「保健・医療・福祉」及び「NPO団体への助言・援助」が最も多くなっています。

図表 府中市内のNPO法人数の推移

(単位：法人)

区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	
NPO法人数	106	104	99	98	94	93	
活動の分野	保健・医療・福祉	59	57	56	55	52	50
	社会教育	54	54	51	53	51	51
	まちづくり	39	38	36	36	30	28
	観光	1	2	3	5	4	4
	農山漁村・中山間地域	1	2	2	2	1	1
	学術・文化・芸術・スポーツ	45	47	45	40	38	37
	環境保全	24	23	21	21	18	17
	災害救援	5	4	5	6	6	6
	地域安全	12	13	14	15	12	11
	人権擁護・平和推進	20	21	19	17	16	15
	国際協力	28	29	26	25	21	20
	男女共同参画	8	8	8	8	7	7
	子どもの健全育成	54	52	52	52	49	50
	情報化社会	19	20	19	18	16	15
	科学技術	3	3	3	4	3	3
	経済活動活性化	15	14	14	16	15	14
	職業能力開発・雇用機会拡充	32	30	28	30	29	29
消費者保護	6	6	5	5	6	5	
NPO団体への助言・援助	65	61	62	61	55	54	

区分	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	
NPO法人数	91	95	101	97	97	
活動の分野	保健・医療・福祉	49	53	60	58	57
	社会教育	50	53	57	53	52
	まちづくり	28	29	31	29	31
	観光	5	5	5	5	5
	農山漁村・中山間地域	2	2	2	2	2
	学術・文化・芸術・スポーツ	37	39	40	36	33
	環境保全	17	17	18	17	18
	災害救援	7	7	8	7	6
	地域安全	12	13	14	13	12
	人権擁護・平和推進	14	16	18	18	20
	国際協力	20	20	22	22	21
	男女共同参画	8	9	12	11	12
	子どもの健全育成	50	54	59	57	56
	情報化社会	16	15	13	12	11
	科学技術	4	3	3	3	2
	経済活動活性化	15	12	13	12	11
	職業能力開発・雇用機会拡充	30	31	32	30	26
消費者保護	6	5	5	5	5	
NPO団体への助言・援助	54	57	59	58	57	

※ 活動の分野は複数選択を可としています。

出典：「多摩・島しょ地域データブック～多摩・島しょ地域主要統計表」

東京都生活文化スポーツ局資料「認証NPO法人一覧」（東京都生活文局ホームページ確認）より

（公財）東京市町村自治調査会作成（令和5年までは11月30日現在、令和6年は12月31日現在）

(6) 文化センターの利用状況

11文化センターの合計の児童館利用者数及び高齢者福祉館利用者数は、令和2年度以降増加傾向にあります。施設稼働回数は令和4年度以降55,000回前後となっています。

令和6年度の各文化センターの児童館利用者数、施設稼働回数は中央文化センターが最も多くなっています。高齢者福祉館利用者数は、住吉文化センターが最も多くなっています。

図表 文化センターの利用状況

年度	中央文化センター			白糸台文化センター			西府文化センター		
	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)
令和2年度	2,147	2,227	5,695	3,017	1,588	2,662	1,541	506	2,334
令和3年度	3,661	1,689	7,455	5,305	731	3,678	5,843	1,051	3,210
令和4年度	3,639	3,300	10,821	6,649	1,719	4,936	6,856	2,627	4,460
令和5年度	5,833	3,660	11,405	7,991	1,929	5,219	9,185	2,408	4,749
令和6年度	6,183	4,847	11,471	9,273	1,989	5,041	11,068	1,833	4,559

年度	武蔵台文化センター			新町文化センター			住吉文化センター		
	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)
令和2年度	2,593	586	2,002	1,282	688	2,651	2,856	1,281	2,724
令和3年度	4,884	905	2,790	1,964	958	3,294	4,663	1,306	3,911
令和4年度	4,781	2,165	3,872	2,061	2,437	4,328	7,946	4,154	5,310
令和5年度	5,716	2,274	3,855	3,511	2,598	4,259	10,116	4,761	5,481
令和6年度	7,418	2,685	3,766	5,397	3,164	4,349	11,291	4,258	5,386

年度	是政文化センター			紅葉丘文化センター			押立文化センター		
	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)
令和2年度	2,245	892	2,059	2,690	425	2,594	1,323	630	1,770
令和3年度	4,132	1,326	2,893	5,090	401	3,582	2,476	708	2,420
令和4年度	5,475	2,864	4,071	6,893	690	5,323	2,739	1,720	3,206
令和5年度	6,676	3,110	4,340	9,136	671	5,430	2,829	1,675	3,377
令和6年度	7,588	3,348	4,402	8,310	731	5,165	3,627	1,281	3,504

年度	四谷文化センター			片町文化センター			合計		
	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)	児童館利用者数(人)	高齢者福祉館利用者数(人)	施設稼働回数(回)
令和2年度	2,302	787	1,210	1,793	920	3,071	23,789	10,530	28,772
令和3年度	3,547	1,020	1,782	3,926	997	4,301	45,491	11,092	39,316
令和4年度	3,204	2,316	2,359	4,063	1,937	6,098	54,306	25,929	54,784
令和5年度	3,843	2,919	2,508	4,575	1,316	6,156	69,411	27,321	56,779
令和6年度	5,065	3,890	2,582	4,977	1,249	6,033	80,197	29,275	56,258

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般開放施設（児童館・高齢者福祉館）並びに予約貸出施設の利用を制限した。

出典：府中市「統計書」

6 相談及び支援等

(1) 福祉総合相談

福祉総合相談窓口は、令和4年度より福祉や生活の困りごとをワンストップで対応する相談窓口として、生活福祉課に再編され、新庁舎業務開始後は、市役所おもや1階に設置されています。福祉に関する制度や困りごとの種類にかかわらず、さまざまな不安や困りごとをいったん受け止め、関係機関と連携しながら解決に向けて支援を行う窓口です。相談件数は令和5年度が482件、令和6年度が286件となっており、内訳をみると、障害者福祉関係の相談が多くなっています。

図表 福祉総合相談件数の推移

分野	令和5年度	令和6年度
地域福祉	69	57
生活困窮・生活保護	50	17
高齢者福祉・介護保険	36	36
障害者福祉	163	66
その他	164	110
合計	482	286

(2) 高齢者

①総合相談

高齢者支援課の総合相談への相談者数は、令和元年度から令和4年度までにかけては増加傾向にありましたが、令和4年度から令和6年度までにかけては減少し、令和6年度の相談者数は、3,724人です。相談者の内訳は、「地域包括支援センター」が最も多く、次いで「本人」、「市関係課」と続いています。

また、令和6年度の相談内容は、「高齢者虐待」が最も多く、次いで「高齢者日常生活相談」、「介護（保険）サービス」と続いています。高齢者虐待に関する相談件数は、令和6年度は1,126件で、令和4年度以来、再び千件を超えています。

図表 総合相談業務の相談件数の推移（相談者の内訳）

（単位：人）

相談者区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
本人	609	804	813	563	758	445
同居親族	260	404	416	513	400	256
別居親族	403	398	486	683	452	249
近隣・知人	90	67	62	81	88	89
地域包括支援センター	1,061	1,148	1,994	2,072	1,432	1,392
ケアマネジャー	147	89	58	51	105	174
介護サービス事業者・ 高齢福祉関係機関	158	179	185	169	228	145
社会福祉協議会	87	89	71	273	42	196
成年後見人	35	21	17	12	183	42
民生委員・児童委員	11	10	2	6	3	2
障害者関係機関（施設）	13	15	18	20	21	17
地域関係機関 （銀行・商店等）	55	59	11	32	3	12
医療機関	132	149	213	81	177	154
市関係課	222	233	148	225	111	319
警察・消防	35	131	63	145	109	117
その他官公庁	62	56	89	79	31	79
その他	31	88	33	12	9	36
合計	3,411	3,940	4,679	5,017	4,152	3,724

出典：府中市「高齢者支援課資料」

図表 総合相談業務の相談件数の推移（相談内容の内訳）

（単位：件）

相談区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
高齢者日常生活相談	207	484	448	606	866	671
高齢者住宅相談	179	165	193	105	169	130
高齢者施設相談	426	580	624	344	366	260
介護（保険）サービス	229	153	113	424	325	335
高齢福祉サービス	122	144	311	169	312	218
介護予防・地域支援事業	6	12	0	3	27	39
在宅療養	10	26	85	64	45	33
医療機関	201	67	11	61	22	138
認知症	279	369	544	409	285	210
精神疾患	266	127	112	105	52	93
高齢者虐待	520	758	980	1,420	922	1,126
成年後見制度	199	210	269	291	237	226
消費者被害	8	13	3	9	2	3
熱中症に関すること	11	28	4	143	18	3
生活保護	153	85	24	86	61	263
障害者福祉施策	33	18	6	18	22	26
ひとり親家庭・DV・子ども	33	23	26	7	2	6
見守り相談	85	368	550	253	422	160
緊急対応・安否確認	91	205	297	266	147	67
震災関係	8	0	1	30	3	0
その他相談	211	381	226	155	180	174
合計	3,277	4,216	4,827	4,968	4,485	4,181

出典：府中市「高齢者支援課資料」

②高齢者虐待

地域包括支援センター等関係機関との連携による高齢者虐待について、養護者による高齢者虐待は、虐待を受けた又は受けたと思われたと判断した事例が令和2年度から令和6年度の5年間で計262件となっています。養介護施設従事者等による高齢者虐待は、虐待の事実が認められた事例が令和2年度から令和6年度の5年間で計7件となっています。

図表 養護者による高齢者虐待

内訳	(件数)				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
通報・相談件数	110	117	136	141	131
虐待を受けた又は受けたと思われたと判断した事例	69	44	44	36	69
虐待ではないと判断した事例	4	8	4	12	3
虐待の判断に至らなかった事例	35	65	94	93	39
事実確認中の事例					20

※高齢者虐待に準ずるもの（セルフ・ネグレクト、被虐待者が65歳未満）は除く。

図表 養介護施設従事者等による高齢者虐待

内訳	(件数)				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
通報件数	8	8	14	9	8
虐待の事実が認められた事例	1	3	0	1	2
虐待の事実が認められなかった事例	1	1	0	0	1
虐待の事実の判断に至らなかった事例	0	2	1	3	4
事実確認中の事例	6	2	13	5	1

(3) 障害者

地域生活支援センター「み～な」、「あけぼの」、「プラザ」及び「ふらっと」において実施している委託相談支援事業の令和6年度の相談件数は、2万815件です。なお、「ふらっと」は、平成28年度に開設しました。

また、障害者虐待防止センター（本市障害者福祉課）に寄せられた障害者虐待に関する相談件数は、令和6年度は87件と令和4年度以降多くなっています。

図表 委託相談支援事業（相談件数）の推移

（単位：件）

年度	相談件数
平成26年度	11,118
平成27年度	8,947
平成28年度	12,524
平成29年度	20,452
平成30年度	18,585
令和元年度	16,626
令和2年度	15,592
令和3年度	13,673
令和4年度	12,546
令和5年度	17,286
令和6年度	20,815

出典：府中市「障害者福祉課資料」

図表 障害者虐待に関する相談件数の推移

（単位：件）

年度	相談件数
平成26年度	18
平成27年度	12
平成28年度	14
平成29年度	23
平成30年度	23
令和元年度	25
令和2年度	18
令和3年度	27
令和4年度	66
令和5年度	95
令和6年度	87

出典：府中市「障害者福祉課資料」

※令和2年度以降：府中市障害者計画推進協議会資料「障害者計画進行管理一覧表」から

(4) 子ども・子育て

市の総合相談事業における新規相談受理件数は令和3年度をピークに減少傾向にあります。相談の内訳をみると、一貫して養育困難が最も多く、次いで児童虐待、育児相談となっています。なお、児童虐待の件数は増加傾向です。

図表 子どもと家庭に関する総合相談の新規相談受理件数の推移

(単位：件)

区分	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
児童虐待	281	376	401	487	389	503	502
養育困難	458	548	985	1,087	1,004	931	794
育児相談	190	142	131	88	110	95	74
育成	74	62	56	58	61	69	58
不登校	26	12	9	4	18	15	3
障害等	14	8	19	4	14	13	11
保健相談	68	43	32	21	19	8	8
非行等	3	3	3	1	1	1	0
その他	57	53	31	22	30	33	33
合計	1,171	1,247	1,667	1,772	1,646	1,668	1,483

出典：府中市調べ

(5) 生活困窮者

生活福祉課の暮らしとしごとの相談コーナーでは、暮らしやしごとの困りごとについて相談支援を実施しており、一人一人の状況に応じて、自立に向けた支援計画を作成し、就労支援、家計相談支援、子どもの学習・生活支援、住まいの確保に向けた支援等を行っています。

令和6年度の2,169件の相談のうち、487件が新規の相談です。

図表 生活困窮者の支援に関する事業等の推移

区分		令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
暮らしとしごとの 相談コーナー	相談件数 (うち新規)	2,176件 (624件)	3,283件 (1,243件)	2,078件 (670件)	2,183件 (527件)	2,178件 (481件)	2,169件 (487件)
	就労支援利用 件数	116件	300件	335件	192件	99件	114件
家計改善支援事 業	延相談件数	599件	800件	642件	563件	434件	408件
	利用件数	56件	117件	98件	59件	55件	70件
子どもの学習・ 生活支援事業	登録者数	77人	68人	60人	46人	56人	60人
住居確保給付金 支給事業	申請件数	16件	641件	135件	57件	16件	4件
	支給月数	延べ49月	1,739	451	173	56	12
一時生活支援事 業	利用件数	6件	9件	7件	4件	4件	6件
就労準備支援事 業	利用者数	21人	22人	20人	23人	24人	19人
	延相談件数	471件	735件	476件	751件	662件	595件
	延セミナー等 参加者数	107人	76人	91人	165人	227人	201人
ホームレス巡回 相談	相談件数	2,834件	1,721件	1,980件	2,344件	2,043件	1,426件
	年度末人数	13人	11人	17人	14人	11人	11人
自立支援金支給 事業	支給件数	—	—	175件	36件	—	—
	再支給件数	—	—	41件	43件	—	—
住民税非課税世 帯等に対する臨 時特別給付金	支給件数	—	—	18,131件	8,129件	—	—
価格高騰緊急支 援給付金	支給件数	—	—	—	24,868件	—	—
住民税非課税世 帯等価格高騰重 点支援給付金	支給件数	—	—	—	—	24,055件	—
住民税非課税世 帯等物価高騰対 応重点支援給付 金	支給件数	—	—	—	—	23,728件	21,932件

出典：府中市「事務報告書」「統計書」

(6) 女性問題相談

男女共同参画センター「フチャール」が実施している家庭、子育て、配偶者等からの暴力（DV）、生き方等の女性に関わる日常の悩みごとに関する相談の令和6年度の相談件数は、1,113件です。

図表 女性問題相談の相談件数の推移

(単位：件)

年度	総数	面接相談	電話相談
平成26年度	1,324	404	920
平成27年度	1,331	361	970
平成28年度	1,501	415	1,086
平成29年度	1,082	298	784
平成30年度	1,045	344	701
令和元年度	1,098	287	811
令和2年度	928	91	837
令和3年度	1,294	132	1,162
令和4年度	1,492	282	1,210
令和5年度	1,283	257	1,026
令和6年度	1,113	269	844

出典：府中市「事務報告書」「統計書」

(7) 民生委員・児童委員による支援

本市の民生委員・児童委員の定数は、191人（令和7年12月1日～）です。令和6年度の相談・支援件数は、2,266件で、相談内容は、「日常的な支援」が最も多く、次いで「生活環境」、「健康・保健医療」、「子どもの教育・学校生活」と続いています。

図表 民生委員・児童委員の相談・支援件数の推移（内容別）

（単位：件）

相談・支援内容	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
在宅福祉	200	235	178	208	138	131
介護保険	121	144	92	159	144	93
健康・保健医療	314	350	278	382	319	287
子育て・母子保健	181	143	139	108	96	102
子どもの地域生活	413	217	267	170	160	156
子どもの教育・学校生活	268	314	243	182	182	146
生活費	133	104	136	164	90	67
年金・保険	29	39	60	37	31	21
仕事	11	12	22	29	16	17
家族関係	275	255	229	214	172	148
住居	85	112	101	96	84	62
生活環境	146	190	159	239	180	167
日常的な支援	595	627	496	416	415	346
その他	1,412	1,872	1,296	925	873	860
合計	4,183	4,614	3,696	3,329	2,900	2,603

相談・支援内容	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
在宅福祉	97	104	136	98	87
介護保険	67	51	69	52	63
健康・保健医療	198	341	197	205	218
子育て・母子保健	96	108	82	83	64
子どもの地域生活	105	83	90	112	134
子どもの教育・学校生活	135	156	119	140	185
生活費	69	53	62	72	55
年金・保険	12	8	8	2	20
仕事	12	11	11	12	19
家族関係	124	171	155	188	157
住居	69	69	60	57	66
生活環境	145	154	151	130	225
日常的な支援	338	276	325	252	332
その他	587	489	610	574	641
合計	2,054	2,074	2,075	1,977	2,266

出典：府中市「事務報告書」

(8) 地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーターによる支援

令和3年度からすべての福祉エリアに地域福祉コーディネーターを配置しています。そして、令和7年度は統括1名、拠点18名、リーダー3名の22名体制となっています。

それに伴い、相談実績、困りごと相談会対応件数も増加傾向にあります。

図表 地域福祉コーディネーターの配置数

	人数	備考
平成30年度	4名	4圏域に各1名
令和元年度	6名	6圏域に各1名
令和2年度	6名	6圏域に各1名
令和3年度	11名	11圏域に各1名
令和4年度	12名	統括1名、拠点12名
令和5年度	16名	統括1名、拠点14名、リーダー1名
令和6年度	19名	統括1名、拠点16名、リーダー2名
令和7年度	22名	統括1名、拠点18名、リーダー3名

図表 地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター活動実績

(件)

	個別支援								
	相談経路					相談内容			
	訪問	電話	メール	来所	計	関係形成	個別支援	連絡調整	計
平成30年度	820	2,466	-	617	3,903	270	2,486	1,320	4,076
令和元年度	999	3,749	-	740	5,488	494	3,447	2,036	5,977
令和2年度	868	3,967	-	640	5,475	346	3,894	1,586	5,826
令和3年度	1,642	4,616	1,177	1,663	9,098	568	6,300	2,624	9,492
令和4年度	2,322	4,866	1,598	1,985	10,771	1,200	6,932	3,500	11,632
令和5年度	2,294	4,468	1,012	2,105	9,879	433	7,415	2,828	10,676
令和6年度	2,907	5,202	838	2,355	11,302	611	9,004	3,285	12,900

(件)

	地域支援									
	相談経路					相談内容				
	訪問	電話	メール	来所	計	関係形成	立上支援	運営支援	連絡調整	計
平成30年度	1,417	1,168	-	249	2,834	270	407	1,434	924	3,035
令和元年度	1,910	2,150	-	361	4,421	604	383	2,124	1,731	4,842
令和2年度	1,088	3,392	-	343	4,823	171	442	1,931	2,553	5,097
令和3年度	1,918	2,276	3,221	631	8,046	159	120	5,342	2,765	8,386
令和4年度	2,303	2,121	2,588	607	7,619	477	98	5,113	2,586	8,274
令和5年度	3,108	1,672	1,776	944	7,500	139	42	5,690	2,068	7,939
令和6年度	3,783	1,283	2,174	811	8,051	363	60	6,080	3,025	9,528

出典：府中市社会福祉協議会「地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター活動報告」

図表 地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター相談実績

(人)

	実相談対象者数
平成30年度	391
令和元年度	687
令和2年度	649
令和3年度	930
令和4年度	1,169
令和5年度	1,482
令和6年度	1,835

(件)

	相談対象者分類				
	高齢者	障害者	子ども	その他一般	計
平成30年度	1,285	1,236	40	381	2,942
令和元年度	1,909	1,388	166	664	4,127
令和2年度	1,800	1,124	173	960	4,057
令和3年度	2,983	1,411	575	1,272	6,241
令和4年度	3,635	939	1,006	1,117	6,697
令和5年度	2,921	1,767	1,741	1,047	7,476
令和6年度	3,620	1,857	784	1,895	8,156

(件)

	相談内容分類										
	暮らし	環境	家族関係	近隣関係	保健・医療	権利擁護	ひきこもり	ボランティア	制度・サービス	その他	計
平成30年度	1,508	170	76	304	456	39	23	213	285	218	3,292
令和元年度	1,633	94	165	237	446	54	58	707	340	373	4,107
令和2年度	1,845	124	166	254	452	41	68	479	407	270	4,106
令和3年度	3,622	215	202	288	534	104	89	1,052	459	567	7,132
令和4年度	4,288	159	225	382	345	47	114	1,103	1,018	980	8,661
令和5年度	3,535	387	347	305	695	121	139	1,319	2,262	443	9,553
令和6年度	4,239	720	403	321	1,021	145	130	1,285	2,546	393	11,203

図表 困りごと相談会対応件数

(件)

	開催回数	延べ相談件数	相談実人員
平成30年度	156	445	83
令和元年度	233	577	273
令和2年度	214	530	242
令和3年度	547	1,380	429
令和4年度	863	1,832	580
令和5年度	1,310	2,909	609
令和6年度	1,869	4,165	847

※半日を1回で集計

出典：府中市社会福祉協議会「地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター活動報告」

次期地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の課題と方向

第7次府中市総合計画(R4~R11)

【都市像】

きずなを紡ぎ 未来を拓く心ゆたかに暮らせるまち 府中

【基本目標】

1. 人と人が支え合い 誰もが幸せを感じるまち(保健・福祉)
2. 緑とともに暮らせる 快適で安全安心なまち(生活・環境)
3. 多様性を認め合い 人と文化が磨かれるまち(文化・学習)
4. 魅力あふれるうるおいと活力のあるまち(都市基盤・産業)

現計画の評価結果から

- ◆おおむね計画通り実施できている。
- ◆地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーターは配置を拡充し、令和6年度は19名体制。重点施策の指標、地域福祉コーディネーターによる困りごと相談会での相談件数は達成。
- ◆重点施策の指標、市民後見人受任者数はR8目標が20人で、R6では18人。

府中市の現状データから

- ◆人口は26万人前後で横ばい。年少人口が減少、後期高齢化率が上昇。
- ◆世帯数は増加、一世帯当たりの世帯人員は縮小傾向。
- ◆要介護(要支援)認定者数及び認定率は増加(上昇)傾向。
- ◆障害者手帳所持者は増加傾向。障害者虐待に関する相談件数が増加。
- ◆子どもの人数が減少、特に乳幼児。合計特殊出生率は低下。
- ◆外国人住民は、令和4年以降は増加傾向。
- ◆自治会・町会等への加入割合は低下傾向。49.6%(R7)。

府中市における重層的支援体制整備事業

- ◆令和7年5月から各課の相談支援包括化推進員が参加した相談支援包括化推進会議を開催し、府中市の重層的支援体制整備事業を検討
- ◆令和7年10月から多機関協働事業実施
- ◆令和8年4月から重層的支援体制整備事業を実施予定

高齢・障害協議会等の動き

- ◆【高齢分野】認知症施策推進計画策定に向けて「認知症部会」立ち上げ。認知症の本人・家族から「府中のまちづくりへの提言」を頂いた。
- ◆【障害分野】自立支援協議会すまい部会で「グループホームに関するアンケート」実施、利用者や運営者のマッチングの現状と課題を整理。

国の動向

- 地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律(令和2年6月公布)・「重層的支援体制整備事業」の創設
- 第二期成年後見制度利用促進基本計画(令和4年3月)・「地域連携ネットワーク」の拡充
- 第二次再犯防止推進計画(令和5年3月)
- 孤独・孤立対策推進法(令和6年4月施行)・「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会」
- 共生社会の実現を推進するための認知症基本法(令和5年6月公布)
- 地域共生社会の在り方検討会議、社会保障審議会福祉部会等での検討

府中市福祉計画(R3~R8)

【基本理念】 みんなでつくる、みんなの福祉～つながりあい、支え合い、安全で安心して暮らせるまちの実現へ～
 【福祉施策の考え方】 ①尊厳の保持(自己決定の尊重) ②身近な地域における課題解決力の強化 ③多様な主体による協働・連携(自助・互助・共助・公助)

一般市民調査(アンケート)から

- ◆前回調査から親しく近所づきあいをする割合が前回より低くなっている。
- ◆地域活動等に取り組んでいる割合が前回より低くなっているが、半数以上の方が地域活動等への取組意向がある。
- ◆優先的に取り組むべき福祉施策では、「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多い。
- ◆情報提供については、現状・希望ともに広報ふちゅう等の紙媒体への希望が多いものの、市のホームページ等のインターネットサイトは現状の割合を希望が上回っている。
- ◆老々介護、ごみ屋敷、いわゆる8050問題など、複雑化・複合化した困りごとを抱える人世帯が一定程度いる。また、38.4%が社会から孤立を感じている。
- ◆将来の備えへの不安、亡くなった後のことでの不安を抱えている人は多い。
- ◆災害時の不安や心配ごとを抱えている人は多い。
- ◆地域の防災対策に満足しているのは31.6%にとどまっている。
- ◆災害に備えて地域で取り組むとよいと思うことは、「物資の備蓄」、「地域住民同士の声かけや安否確認」、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」が多い。
- ◆74.6%の人が災害時に手助けが必要な方に何らかの支援ができると回答している。
- ◆市への居住継続意向は9割を超える。
- ◆まち全体のユニバーサルデザインについて整備されていると感じる割合は前回と同程度。

地域福祉、高齢者、障害者アンケート共通質問から

- ◆どこに相談したらよいか分からない悩みがある人は一般市民で14.6%。障害者で30.1%、障害児の保護者で42.4%である。

11圏域別グループディスカッションから

- ◆地域の課題では、困りごとを抱える人・世帯、地域のつながり・活動・担い手不足、防災・防犯の課題、地域資源・インフラの課題が多く出された。
- ◆地域の「ちから」(人・場所・活動)を活かしてできることでは、困りごとを抱える人・世帯の支援として、「見守り・訪問・傾聴」、「買い物支援、移動販売の充実」、「助け合い活動」、「困りごと、地域課題を解決する仕組みづくり」が出された。次に地域のつながり・活動の活性化、担い手充実として、「あいさつ、声かけ、関係づくり」、「行事・イベントの実施等」、「交流・居場所づくり」、「地域活動団体、関係機関同士、行政の連携強化」、「(地域)情報の発信の工夫」、「担い手の確保・育成、若い世代」、「(個人)情報の提供及び共有の仕組みづくり」が出された。また、防災・防犯対策、地域資源の活用・インフラ整備として、「文化センター等の地域資源の活用(拠点化)」、「空き家・スペースの活用」が出された。

府中市社会福祉協議会 第4次地域福祉活動計画(R3~R8) 「あったか府中 ささえあいプラン」

- 【基本理念】 気づく・動く・つながる!! みんなが主役! 地域で支えあうまちづくり
 【重点目標】 「わがまち支えあい協議会の推進」
 【取組目標】 ①地域の困りごとに関心、助け合います
 ②参加する機会を創出し人材を育成します
 ③情報発信やPRを工夫し、参加やつながるきっかけづくりをします
 【計画推進】 社会福祉協議会の組織強化をはかり、包括的な相談支援体制を整備します

次期計画に向けた課題

- ◎府中市福祉計画の理念を、地域福祉計画へと溶け込ませていくこと(「市民協働」と「当事者視点」)
- ◎福祉エリア11圏域での「地域力の強化」の推進。わがまち支えあい協議会の活動充実
- ◎包括的相談支援体制の構築 重層的支援体制整備事業(相談支援や多機関協働事業等)スタート
- ◎相談窓口の更なる周知、情報提供、インターネット(SNS含む)の更なる活用
- ◎分野横断での地域づくり・参加支援体制の整備
 ・地域包括支援センターの機能強化
 ・住まい・居住支援の充実
 ・孤独・孤立対策、身寄りのない方が抱える課題等への対応
- ◎地域における見守りの充実、交流の場や居場所の確保等、地域でのつながりづくりの促進
- ◎地域人材・専門職人材の確保・育成支援
- ◎地域での権利擁護支援ネットワークの連携強化
- ◎地域の多くの人を巻き込んだ防災対策(避難行動要支援者の支援)の検討

次期計画の方向

府中市が大切にしてきた福祉施策の考え方を取り込む

- ・Wellbeing ・社会的包摂
- ・尊厳・自己決定 ・共生社会の実現

【地域福祉計画】

(1)市民協働で進める地域づくり

- ◆多様な主体と協働の推進
- ◆当事者市民も含めた参加支援の推進
- ◆再犯防止の地域づくり(再犯防止計画)

(2)包括的な相談支援体制づくり

- ◆相談を受け止め包括的に支援する体制整備
- ◆多機関協働による包括的な相談支援体制
- ◆医療・介護・福祉のさらなる連携強化

(3)生き生きと健康に暮らすための環境づくり

- ◆健康づくり・フレイル予防・介護予防の推進
- ◆生活支援・モビリティ支援
- ◆誰もが生きがいと役割をもてる社会参加
- ◆自殺対策の推進(自殺総合対策計画)

(4)誰もが安心して暮らせる仕組みづくり

- ◆権利擁護の推進(成年後見制度利用促進計画)
- ◆福祉サービスの質の向上と量の確保
- ◆安全に暮らせる体制づくり(避難行動支援体制、防犯・防災、住まい等)
- ◆人材の確保・育成と業務環境の改善

【福祉のまちづくり推進計画】

(5)人権尊重の福祉のまちづくりの推進

- ◆福祉教育・助け合う福祉の醸成
- ◆あらゆる人への虐待防止の推進
- ◆多様性の尊重、共生社会の推進

(6)総合的な福祉のまちづくりの推進

- ◆情報のバリアフリー
- ◆福祉のまちづくり推進事業の強化(交通機関、公共・民間施設、都市整備、移動でのバリアフリー、認知症バリアフリー等)